「なぞ」解き本

ソラからの伝言



著者 シロキ カヨコ　　編集 ソラ プロジェクト

ソラと星出版

「原子はすべての物質を構成する最小単位で、
原子とその周りを回る電子から成り立っています。
　なぜ電子が原子核の周りを回っているのか、
人間は考えようとしないでしょう？
　原子核が電子に『回ってお知らせをして頂戴ね』
と言っているからなのです」
「『お願いをしないと電子は回ってくれないわよ。
だから原子にも”思い”があるということなの。
　それを知らせて頂戴ね。』と、」

【「現代」に関するメッセージ 】より

著者略歴

シロキ カヨコ（旧ペンネーム スニキ ミヨ）
元・看護婦
元・米国催眠協会公認ヒプノセラピスト
京都府綾部市星原町生まれ、現在札幌市在住

ソラプロジェクト

Ａフミヒロ、石井ミイ、石岡ハナ、
石野民子、伊藤ユカ、太田潤子、
小田切秀禮、木村マリ、村田弘子、
Ｙゴロウさん（五十音順）

カルナック列石イラスト

小泉 明彦（フランス在住）

カバー撮影　尾崎 明 (C)Akira Ozaki

人間はどこからきたのか？
地球はなぜ水の惑星なのか？
恐竜はなぜいなくなったのか？
アトランティスとは？
ヤマタイコクとは？
ピラミッドの謎とは？
どうして醜い戦争の歴史を繰り返してきたのか？

これらの謎を解き明かす手助けをしてくれた存在こそ
射手座からきた宇宙人「イシカミ」と「ソラのもの」なのです。

ソラと星出版

ソラと星出版

ソラからの伝言

著者　シロキ　カヨコ
編集　ソラ　プロジェクト



三重県御在所岳の「おばれ石」
射手座の女王が口のつもりで作った岩。



綾部の星原。入母屋造りの屋根は星の宮が隕石にのってやってきたことを伝える形。真中の空気抜きの穴は真実を語る口という意味をあらわす。



阿波の土柱。この下でヒミコが自殺したと伝えられた。
光の玉はそのことを伝える星の宮と地球神のロボット？



フランス　ブルターニュ地方のカルナックの列石。総延長約4km 約 3000 個の巨石が高い順に並んでいる。かつて星たちはこのように星の戦争前はきれいに並んでいた事を知らせまし



オーストラリアのウェーブロック。巨大な波型の岩。
射手座の長老がムーノイア達に波型になって女王の元に行くよう教えるために作った岩。



京都府綾部市の私市円山古墳。物部守屋と白い木の子孫のお墓と伝えられた。約１５００年前の大人と子供のお墓。



千葉県勝浦のめがね岩。北海道奥尻島の鍋釣島と同じ意味で射手座の形と同じ形を作りお知らせしました。

【はじめに】

「青い空に白く浮かぶ“雲”。たまにはのんびりと空を眺めてみませんか？雲ははるか遠くの私たち“ソラのもの”が、一生懸命心をこめて空に絵を描いているのです。なかなかうまく描けませんが、最近の雲は以前に比べて変わってきたと思いませんか？それはこの世が“カゴメ紋”になったからです。カゴメ紋とは、地上のものとソラのものが仲良くなったことをあらわしています。ソラのものは、自然界でいろいろなお知らせをして、人間が私たちの思いに気づいてくれるのを待っていましたが、どうしても人間はわかってくれませんでした。けれども今ようやくソラのものの思いを、言葉として皆様にお伝えすることができるようになりました」

「人間はどこから来たか？　地球はなぜ水の惑星なのか？　恐竜はなぜいなくなったか？アトランティスとは？　ヤマタイコクとは？　ピラミッドの謎など。　それだけではありません。人がどうして大自然や美しいものに惹かれるのか？　どうして醜い戦争の歴史を繰り返してきたのか？・・・などをお知らせします。

ただ、この情報はあなたがこれまで教えられてきたことと全く違っていますので、判断はご自由になさってください。ソラのものは皆さんと仲良くしたいと思っています。慣れない言葉で意味がわかりにくいかもしれませんが、出来る限りソラ辞典で説明していますので参考にして下さい。わからない部分は飛ばしてください。

ただ、空気の中にも沢山の“原子”（＝OやHなど）が詰まっていますが、その原子の謎解きだけは飛ばさないで読んで下さいね。それでは、謎解きジグソーパズルのピースがどれだけ埋まっていくかお楽しみにしてください。空から見ているソラのものより」

『カゴメ紋』



（上向きと下向きの3角が2つ重なった形）

【はしがき】

この本は１９９８年から“ある存在”から言葉として知らされたことをまとめたものです。ある存在とは「空に存在する意識体＝ソラのもの」のことです。知らされる情報は想像をはるかに超え、“思いもよらない”という言葉がぴったりな事ばかりで、これまでの常識を完全に覆すものばかりでした。けれども４年に渡り次々と知らされることは、次第に壮大な物語として筋道が通っていきました。そしてこれまで故意に隠されていたと思える事や、不思議だというだけで放置されていたあらゆる謎が解けていきました。勿論まだわからない事はたくさんあります。けれどもそちらにばかり目を向けるより、これまで知らされた事を現実の世界に当てはめ検証する事が、とても面白くなっています。そして“どのような言葉で知らされたか”ということも載せたために、文としてはダブっている内容が多いと思います。

情報は夜中に起こされたり、突然知らされたりしますが、本当にかすかに口が動くだけなので、細かい点につきましては本当かどうかわかりません。それは情報を送る方も受ける方も初めてのことで慣れておらず、又送る方は記憶が定かでない場合もあるようで、初めの情報と後から知らされる内容にずれがある場合もありましたが、それは後から知らされた方が正しいようです。繰り返し知らされる事は以前の情報を補足する感じで、４年間にわたる内容はこれまでの歴史の大きな流れとしてお読みくださると幸いです。

【目次】

宇宙・星・地球など……1
【あらすじ】1　【オニの地球支配】4　【星の宮】8　【ソラのもの】9　【ロボット】11
【太陽】12　【土星】12　【木星】13　【水星】13　【火星】15　【冥王星】16
【金星】16　【天王星】16　【地球】17　【月】18
「日本のイシカミ」に関するメッセージ……20
【御在所岳】20　【君山】22　【岩木山】23　【六甲山系】23　【猿投山（イシカタ山）】25
【石巻山】26　【石鎚山】27　【富士山（シラ山）】27　【青葉山】27　【千島列島】28
【奥尻島】28　【羊蹄山・オンネトー湖と阿寒湖】29　【見附島】29　【沖縄のイシカミ】29
【日本を作ったイシカミ達】30　【日本アルプス】30　【剣山】31　【六甲山など】31
【君尾山】31　【勝浦海岸】31　【白山】32　【イシカミの子孫】33
「外国のイシカミ」に関するメッセージ……35
【射手座の王様　エルサレムのイシカミ】35
【射手座の女王の妹　イタリアのイシカミ】38
【射手座の王様の弟　スタッファ島のイシカミ】40
【射手座の王女（長女）　ニュージーランドのイシカミ】42

【射手座の王女（次女）と長老　オーストラリアのイシカミ】44
【射手座の王女（三女）　ユーノイア（南極）のイシカミ】48
【射手座の王子（長男）と乳母　ムーノイアとイースター島のイシカミ】50
【ユーラシア大陸のイシカミ】53　【チベット】54　【台湾】54
【パミール高原】55　【メソポタミア】55　【トルコ】56　【タイ】57
【ヨーロッパのイシカミ】57　【オームトリア】59　【エジプト】60　【アフリカ】61
【アメリカ大陸のイシカミ】63　【中米】64　【コスタリカの丸石】66　【南米】66
【北海】67　【海】67　【寒地】68　【巨石のカタチと意味】69　【食べ物と人間の祖先】73
「日本史」に関するメッセージ……75
【日本史のあらすじ】75　【大国主】78　【ヒミコ】80
【タケルノミコト・ニニギノミコト】85　【ある者】87　【ヒミコの娘】88
【フアの息子】91　【山彦・海彦】93　【出雲の歴史】97　【イスキリと仁徳天皇】98
【大化改新と聖徳太子】100　【物部氏】103　【柿ノ本人麻呂】105　【菅原道真】107
【百人一首】108　【カタカナ・ホツマツタエ】110　【日本の行事】115

【いろはにほへと】117
【相撲】120
【星原】122
【猿かに合戦】123
【山椒太夫】125
【出雲の阿国】128
「世界史」に関するメッセージ……131
【世界史編　あらすじ】131
【ストーン・サークル】118
【宮と社】121
【イカルガ＝何鹿】122
【遮光土偶】124
【スイコ天皇】126
【明智光秀】129
【世界史編　ユダヤとイスラム】134
【竹内古文書】118
【イスキリ文字】121
【土ぐも。サンカ】122
【キトラ】124
【猿丸太夫＝坂之上田村麻呂】126
【世界史編　これまでに知らされたイエス】135
【言葉の意味】120
【因幡の白兎】121
【アラハバキ】121
【鏡】123
【ちょんまげ】124
【空海】127

【イエスより】139　【磔後のイエス】142　【支配されたイエス】142
【日本でのイエス＝イスキリ】143　【ノマ】146　【ピラトの娘】147　【ルター】147
【これまでに知らされたマホメット】148　【イエスとマホメット】151　【釈迦とブッダ】152
【アレキサンダー大王】154　【ジンギスカーン】155
「現代」に関するメッセージ（事件・病気・生活など）……157
【身体に関する情報】157　【原子について】161　【お知らせのカタチ】162
【映像の恐ろしさについて】166　【チャネリングの際の注意】168　【オニの意識体】170
【エネルギー体】172　【UFOについて】173　【クロップ・サークルについて】175

【亡くなることの意味】178　【予言の真相】179　【富の分配】181　【癌（ガン）について】181
【こころの病について】183
自然・地理・動物・植物　など……186
【台風】186　【異常気象】187　【低気圧】187　【エルニーニョ】188
【大陸移動】188　【地震】188　【海水、死海、デスバレー、岩塩などの塩】189
【生き物について】190　【遺伝子】190　【物質化】191　【人間】192
【人間の身体】193　【人間の血液】194　【人間の意味】194　【生まれ変わり】195
【イシカミの身体の変化】199

夢・ビジョン……200
【夢】200　【ビジョン】205　【夢とビジョンの連携】209　【幻視、その他】211
最後に……212
ソラ辞典……216
ソラ生物辞典……270
クロップサークル……288

宇宙・星・地球など

宇宙の始まり

【あらすじ】

はじめ宇宙は真っ暗で“宇宙の大元（おおもと）”はたった一人でさみしく思っていました。そして誰かを”愛したい”と思いながら渦巻きを作っていると、そこに光があらわれて星になりました。宇宙の大元は愛のエネルギー体なのです。その光の星はとても美しく、嬉しくなった大元は次々と星を作っていき、こうして星、すなわち“ソラのもの”が誕生しました。一番最初に“射手座”の星が、次に星座を形作る大きな星達が作られました。

星たちはきれいに並べられていましたが（No. 7）、「自由に広がることができない」という星たちの不満の意識がエネルギーの塊となり、宇宙にあった元素（原子）を引き寄せて大きな塊となりました。それは不満のエネルギーの塊だったので、元素（原子）達はその思いをきれいにするために燃やそうと思いました。その塊は真っ赤に燃えながらふらふらと宇宙を漂っていました。その真っ赤に燃えた塊が地球になったのです。“宇宙の大元”と、その分身の“星の宮”は、地球を希望の星にするために地球の兄弟星を作りました。それが太陽と太陽系の惑星（No. 20）でした。太陽は光と暖かさ、水星は水、土星は土、木星は木をそれぞれ地球にプレゼントしました。

地球は宇宙でただひとつ、ソラのものたちの思いを『形にあらわすことができる星』でした。地球には、生物が生きるための水や空気があったので、ソラのものたちはあらゆる動物や植物を地球に送り込みました。

その頃、地球の近くにあった大きな星のグループ（No. 1）は、地球を自分たちの思い通りにしようと思っていました。その『支配しようとする思い』は“オニ（No. 4）”と呼ばれました。

一方、太陽系の星や射手座・イーグル星（小鳥座）・オリオン、そして“小さな名のない星”などの“ソラのもの達”は、地球を見守り助けてあげようと思いました。

地球をめぐって双方の星たちが争いとなり、地球を引っ張り合いました。その戦いで沢山の星達が亡くなり、その亡骸が天の川になりました。また、強く引っ張られた地球には磁力が生じました。

星の戦争はオニのグループの星達が勝ち、争い好きの恐竜ばかりを地球に送り込みました。それを見ていた宇宙の大元は悲しくなり、自分の分身の“星の宮”に無数の稲妻を地球に送りこませ、争い好きの恐竜を絶滅させました。

宇宙の大元は「これからは家族や友達を大切にする動物を作るように」とソラのもの達に言いました。

星の宮は地球を掃除するために沢山の稲妻を送り、すっかり疲れて星原に降り、そのまま眠ってしまいました。その後射手座の王様は星の宮を探しに、泡に包まれて地球に降りてきました。けれど、地球はまだ少し柔らかかったため、着地した時に柔らかい地球の心臓の中に埋まってしまいました。そこで射手座の王様は地球と仲良しになり、互いに地球を素晴らしい星にしようと話し合いました。そして「それができ

る生き物を作って地球に連れてきてほしい」とソラのものに頼みました。
ソラのもの達は色々なモノを作って、恐竜のいなくなった地球へ送っていました。そして「自分たちのことをわかってくれる“人間”を作ろう」と思いました。丁度そこへ、射手座の王様からも同じように「地球を素晴らしい星にできる生き物を作ってくれ」と頼まれたので、みんなで一生懸命相談して人間を作りました。
射手座の王様は射手座の女王様に、人間を地球に連れてきてほしいとテレパシーで頼みました。女王様は山のように大きく、とても柔らかなお餅のような身体でしたので、お腹の中に人間（巨人）を入れて地球に降りてきました。
女王様と人間（巨人）は無事に地球に着いたのですが、女王様は地球の引力により身体が地面に引っ張られて動けなくなりました。女王様の柔らかな身体はぽたぽたとしずくのように落ちていき、その落ちたしずくは“落とし物”と呼ばれるようになりました。
女王様は、その落とし物から自由に動ける自分の分身である子供を作りました。そして女王様が「大きくなれ」と思うだけで、その分身の子供はみるみる山のように大きくなりました。女王様もその分身の子供も共に人々から“イシカミ（No.３）”と呼ばれました。
一方、女王様までもが戻ってこないので射手座のもの達は、次々とお腹に人間（巨人）を入れて地球のあらゆる所に降りました。この『後から降りてきた射手座のもの達』も女王様と同じく“イシカミ”と呼ばれました。地球に降りてきたイシカミ達は、引力に引っ張られて動けなかったので、代わりに動ける

分身である子供を作りました。イシカミ達は地球で生きていくためのエネルギーを宇宙からもらうために、又、引力を放出するためにピラミッドや尖った山を作りました。充分な食べ物も無く動くのもとても困難でしたが、イシカミ達は連れてきた人間達（巨人）のために一生懸命働いてくれました。人間が生きていくのに必要な水が得やすいようにと、山や川を作ってくれました。また、食べ物をソラのものに頼んで作ってもらい、暮らしやすいように知恵も授けてくれました。そして自然にはできない不思議な形の岩を落とし物で作り、『イシカミが作った』というサインを残しておきました。

人間には“霊”という意識を入れていたため、イシカミ達はテレパシーで人間に思いを伝えることができました。イシカミたちの中には子供を作った者もいましたが、地球上で生きていくことは難しく、その子孫は途絶えていきました。

イシカミとその子供たちと、イシカミが連れてきた巨人達こそが、あらゆる国で伝えられている一番最初の神々なのです。

【オニの地球支配】

イシカミが連れてきた巨人に似せて猿から進化させた小さな人間達は、次第に増えて幸せに暮らしていましたが、それを見てオニたちも地球に降りてきました。オニはイシカミと違い、身体を持たない“意識体”として降りてきて人に入り込んで支配し、龍・蛇・ワニなどの動物にも入り込み人間に恐怖を与えました。オニは恐竜の代わりに人間同士を争わせ、それを見て楽しむようになりました。イシカミ達はオ

ニが来ないように高い山や深い谷をつくって人間を守ろうとしましたが、オニの侵入を防ぐことはできませんでした。オニの支配は世界中に及び、彼らは人間に争いや生け贄などをさせては恐怖を与え、それをゲームのように楽しんでいました。そしてイシカミを否定し、「自分たちこそが本当の神だ」と信じさせるようにしたのです。＊＊神、＊＊神など数え切れないくらい各地で恐怖の神を作りました。さらにオニは人間の意識の中に入り込み、人間を支配しました。オニがあまりにも人間を苦しめるため、世界中のイシカミ達は大泣きをしました。その涙が大雨となり「ノアの洪水」となりました。

オニはそれ以降も、歴史に名を残す独裁者や横暴な主君に入り込み、人々を苦しめてきました。また、様々な予言者や占い師に恐怖の映像を見せては、人々にそれを信じるようにしむけました。このようなオニの支配は１９９８年秋まで続いていましたが、オニを陰で操っていた宇宙の大元の弟やオニの星の霊は愛のエネルギー体に還ったので、もう二度とあらわれることはありません。

ソラのものはクロップサークル（ミステリーサークル）でこれらの情報を教えています。大地の穀物畑に描かれた不思議な模様は、ソラのものたちから私たちへのメッセージなのです。人間たちがそれに気づかずに、昔からの言い伝えばかり信じているので、未だ世界中で争いが絶えないのです。

ソラのものやイシカミ達によって、人間が生きていくために山や川が作られ、食べ物が作られたことを思い出して欲しいのです。人間の故郷は広大な宇宙です。地球人は皆、兄弟姉妹なのです。

地球を応援してくれているソラのものは、昼も夜も空から見守ってくれています。オニがいなくなったこ

の地球に、早く平和が戻りますようにという願いを込めて、ソラのもの達がこの物語を教えてくれました。

注　1）（No.　）は巻末のクロップサークルの番号です。
　　2）年代はソラのものが教えたものでないのでわからないそうです。
　　学問的に言われているほど古くはないようです。

■補足説明

『霊』＝星の集合意識のように『人間の目には見えない、三次元と違う次元に存在している意識体』のこと。著者が知らされた情報によると、星の存在を人間に解ってもらうために、ソラのもの達は人間に“霊”（＝潜在意識）を入れたのだそうです。

『星原』＝現在の京都府綾部市星原町にあたります。

『オニのグループ』＝“宇宙の大元”という『あらゆる意識体が融合した元の存在』から分裂した、シリウスやプレアデスなどの大きな星の意識体のグループのこと。恐怖の想念をエネルギーとして存在していました。それらを陰で操っていたのが宇宙の大元の弟でした。

『イシカミ』＝射手座から次元を超えて地球へやって来た存在。デイダラボッチのような巨人で、丸い雪だるまのような形をしていました。地球の環境には適応できず、そのお餅のように柔らかな体は次第に石のように固くなっていき、いろいろな山になりました。

『落とし物』＝イシカミの身体の一部。地球の引力に引っ張られて、イシカミの柔らかい身体から“しずく”のように落ちた物のこと。それは時間が経つに連れ、次第に石のように固くなっていきましたが、落ちてすぐは柔らかくて加工もしやすかったので、イシカミは自分たちが存在していたことを、また、自分達の死後もなお人間に語り継いでもらうために、落とし物が柔らかいうちに「変わった形」にして作っておきました。こうして世界中に見られる奇岩の数々が作られました。また、エジプトのピラミッドも落とし物で作られました。

星の宮とソラのもの、ロボット

【星の宮】

宇宙の大元は地球があまりにも宇宙の果てに行ってしまったために、地球のことがわかりませんでした。それで自分の分身である“星の宮”という意識体を作り、恐竜をお掃除をした後は、そのまま地球に残って見守ってもらおうと思いました。けれども星の宮は、お掃除をするためにあまりに沢山の稲妻を作ったためにとても疲れてしまい、そのまま星原で眠ってしまいました。星の宮はイシカミのように身体を持たずに降りてきたので、人々からその存在は忘れさられたのです。

「星の宮です。宇宙の大元に頼まれて地球のお掃除に降りてきましたが、それからずーっと星原で眠っていました。人間はイシカミの巨石を神と崇めていましたが、星の宮はイシカミが残した石（岩座＝イワクラ）のように、人間にその存在を思い出してもらえるものがなかったので、今まですっかり忘れさられていました。けれど、ようやくあなたが思い出してくれました」（著者は数回夢を見ている）

「なぜ射手座のイシカミが大きな役割をしているかというと、宇宙の真中の射手座は、いにしえに宇宙の神が一番最初に作った星だからです。これまで地球を支配していたオニの星（シリウス、プレアデス）は射手座よりも後に出来て、地球はそれよりも後に出来たのです。

オニの星は地球の近くにいたために、地球にとても大きな影響を与えていたのです。

それに比べ射手座は、お姉さんの星でありながら、地球から遠く離れたところにいたため、地球を助ける

ために送るエネルギーも届きにくかったのです。そこで、地球を支配し悲惨な状態にしたオニの星をいさめるために、射手座の女王達に地球に降りてきてもらったのです。星の宮より」

【ソラのもの】

この情報は地球を応援してくれている“ソラのもの”からお伝えしています。

“ソラのもの”とは宇宙の大元の分身である“星の宮”の部下で、名のない小さな星や射手座（イシカミ）や太陽系の惑星を総称して呼んでいます。

また、かつて人間として生きていた意識（潜在意識＝霊）は、ソラのものに地上に降りて（事実を）伝えるように言われたと知らせてきます。

これまでは『星からのメッセージ』としてきましたが、人間の意識が星に向かうようになると、目に見える大きな星が以前のように人間を支配しようとする事がわかりましたので、あえて“星”とは呼ばず“ソラ”と呼ぶことにしました。

「ソラのものから見ると、人間は“魂の輝き”すなわち“光”で見えるのです。そして良いことをしていると、その光はどんどん強くなっていきます。その光が強くなった人間は、星の元に行けるのです。光が強くならないと、また人間に生まれ変わります。

星になれても、再び人間に生まれ変わりたいと思うときは、それもまたできるのです。

死んだら何もないということはありません。死んだら何もないと考えて、平気で人を殺したり傷つけたり

することが一番いけないことです。
もしそんなことをしたくなったら、ソラのものに頼んでください。
『どうか、このオニの気持ちをなくしてください』と。ソラのものに届くまで一生懸命に心で念じて頼んでください。するとソラのものはなんとかしようとお手伝いをしてくれます」
「はかない命にしがみつく人が多いことに、ソラのものたちは驚いています。
何も知らないでいるよりも、知らなかったことがわかれば生きていくのがより楽しくなるのに・・・。
いにしえに生きていた人の方が、科学の発達した現在の人より幸せでした。なぜなら、イシカミから死ぬことは怖いことではないと教えられ、死ぬ時も不安を持っていなかったからです。いにしえの文明が皆星に関係しているのは、イシカミや人間を含め、あらゆる生き物が星から来て、また星に帰ることを昔の人間は知っていたのです。
いつかこの世もソラのものたちと人間が合体し、心を合わせて天国のような暮らしが出来るようになってほしいのです。ソラのものはそれを待っているのです」
「星を見る時は大きな星を集めた“星座”としてみないで、星の戦争の前に並んでいた姿（No.7）を思い浮かべ、オリオンがなぜ並んでいるかを考えてください。
そしてなぜ天の川があるのかも・・・。星座はオニが教え支配していたのです」

【ロボット】

ロボットとは筆者が名づけた、宇宙意識体の名前です。

ロボットは、人間の肉体のそばにいて何もかも知っています。そしていろいろなことをソラのものに伝えているようです。ソラのものはその情報を元に相談し、まちがいの情報がないかを確認します。

ソラのものや霊などの取次ぎをしたり、いわばメッセンジャーボーイのような存在です。

「“ロボット”とは“星の子供”のことです。形がまだできていないので、自由に地球に降りることができるのです。そして人間のしていること、思っていること（主に潜在意識）を知ることができます。ロボットの意識は子供の意識に似ています。何でも星達に報告してくれます。クロップサークルの小さな円が星の子供をあらわしています」

「ロボットと呼んでいるのものは、ソラのものの部下です。“星になる前の存在”のことです。光の粒の原子の仲間が集まってできたもので、目に見える形はないけれど、意識はあります。まだ経験が少なく言葉もあまり上手に話せません」

９８年に初めてつながった頃は、すぐに壊れてつながらなくなっていましたが、次第に成長してゆき、今では壊れる事はなくなりました。

ただ、周りが騒がしすぎたり精神的に安定していないとつながりにくいです。

太陽系の惑星

太陽系の惑星は、地球を希望の星にするために作られました。

【太陽】

「太陽の炎がなぜ熱いのかというと、プルトニウムなどの様々の物質が燃えて気化するからです。太陽はプルトニウムの石の星で、プルトニウムは燃えてもなくならないので、永久に燃え続けるのです。プルトニウムにも意識があり、2つの働きを持っています。一つは石に戻ろうとする働きと、もう一つは石から蒸発しようとする働きです。太陽のフレアの写真は、太陽さんが笑顔で挨拶しているのです。また、なぜ地球にもプルトニウムがあるのかというと、いにしえに太陽から地球に送られたのです。地球を暖かな星にするために、地球の中に火をつける必要があったのです。それで　地表の近くにもプルトニウムがあるのです」

【土星】

「土星にも水がありその周りに霧が発生し、その霧がとても大きな氷の固まりになって、沢山の小さな星のようになるのです。土星はものすごい勢いで自転しているので、氷の固まりが1列に並んでリングのようになるのです。土星には生物はいませんが、なぜ水があるのかというと、土星は何か変わった形の星になりたいと言ったので、親友の水星がプレゼントしてくれたのです。

土星は地球に土をプレゼントしました。地球に実りをもたらすためには土と水がいるのです。土星と水星は親友なのです」

【木星】

星の宮が木星に対し地球に木をプレゼントする依頼をしました。それで木星の意識体はいろいろな木をイメージし、念じることによって形となって地球に生え始めました。

「私の星にあるこの小さな惑星（エオロパ）は、石からできた岩ではなく生きているひとつのモノなのです。木星は、卵子のような1個の細胞なのです。そして、周りの小さな惑星（エオロパ）が精子なのです。精子は永遠に卵子に入ることなく周り続けます。それは、宇宙の法則を星たちに伝えるためです。星たちは決して人間の中に入ってはいけないということをあらわしているのです。

それで異物（木星探査機）が近づくと爆発するのです。大切な私たちの卵（木星）に近づかないでと、精子たち（小惑星）が探査機を嫌がったからです。

卵（木星）の周りにはいつも磁気がいっぱいあり、何かが近づくと跳ね返すのです」

【水星】

星の宮が水星に対し、「真っ赤に燃えた地球を“冷やして”あげて」と頼んだのです。水星にいる意識体が、一斉に地球に水を落とすイメージをしてくれたことで、実際に水が降り注ぎ、地球は冷えて水の惑星

になったのです。

「地球には最初、水はなかったのです。太陽系にだけある水素（H）は水星が作り、地球にある酸素（O2）と合体して水になりました。何故水星でHが作られたかというと簡単なのです。はるかいにしえにいつまでたっても煮えたぎる地球は、他の星から嫌がられていました。星の宮は地球に『止まって石の星になりなさい』と言いました。けれども煮えたぎった地球は石になることが出来ませんでした。地球の一部は恨みの意識体に入るのが嫌で、飛び出し月になりました。地球に『そばにおいで』と呼びかけて、私（水星）のからだからHを送り込んだのです。Hの原子は1人？では嫌だと2人？で手をつないで（H2）地球に向かいました。一方宇宙中のこわれ物が集まって出来たものが地球なので、星の宮は輪になろうという意識で地球に酸素（O）を作っていました。水星から手をつないできたH2が送られてきたので、地球のOが結びつき水（H2O）になりました。そして水で地球を冷やしました」

「水（の結晶）が何故6角形の形になるかというと、水星のものが水を作る原子に6角形になるようにお願いしているからです。大きなソラ（水星）のものが小さなもの（原子）にお願いするので（6角形に）なるのです。小さなもの“原子”にも意識がある事をお知らせして欲しいのです。空から送る水の結晶の形はいつでもきれいな6角形です。いろいろな模様があるのは水星のものも、できるだけきれいな模様で送ろうと作っているからです」

「人間には水が必要だと言ったのは水星です。水だけでなく他のいろいろな元素が水に含まれますが、水は何でも溶かす事ができるということが一番の特徴です。それは、いつも何とでも仲良くしたいと思って

いるからです」

「宇宙にはたくさんのゴミが漂っています。そのゴミから地球を守るために、地球の周りに水蒸気の膜（成層圏？）を作ってくれたのも水星です。そして、さらにその周りに結界を作ってくれているので、宇宙のゴミが地球に衝突しないのです。水になる前の水（＝水素）が膜を作ってくれているので、ゴミが来ても自然に燃え尽きてなくなるのです。そのため、イシカミが地球にやって来た時は、燃えない油の泡で身体を包んで降りて来たのです」

「水星には非常に多くの霊（意識体）が住んでいます。男性は半魚人、女性は人魚の霊体です。地球の人に好まれる姿ではないかもしれませんが、嫌がらないでください。水星自体はただの岩でできていますが、私たちは仲良く暮らしています。ところで、このまえ少し地球を訪問しましたが、それは人魚や半魚人がいることを証明するために、ちょっと降りさせてもらいました。水星の“霊界“は水で満たされ、居心地は良いのです。3次元の現実では非常に高温の星ですが、霊の世界では水星の皆さんの想念でエアコンいらずの快適な生活を送っています。水が地球にとって必要な訳は、地球に冷たい空気が流れ込みとても冷たくなるからです。水に覆われていると地球がぬるいお風呂に入っているのと同じで、地球の身体を温めておけるからです。水星人の霊より」

【火星】

「火星がかって三次元だった時に、（火星の）意識は肉体に宿りました。その肉体は美しいものではなく

ひらひらのワカメみたいなモノでした。それは意識に意味があるからです。（肉体の形は重要視しなかったので）そして地球の人にいつかわかってもらえるように、火星の砂の原子に集まって（形を作って）もらって、砂で模様（人面岩など）を火星の地上に残したのです。ワカメのような肉体は意味が無いので止めました。（今は形は無いということ）火星が赤くなるのは火星の砂が燃えて飛び上がり、地球に“争いはこんな色になって醜いですよ。”とお知らせしているのです。お水で覆われてきれいな地球に、“争いばかりしているとこんなに、醜くなりますよ。”と見せているのです。火星人の霊より」

【冥王星】

冥王星の女王は白色星団の先頭に立ち、９８年から地球を導いてくれました。今はオニもいなくなったので冥王星に帰って休んでもらっています。冥王星の王様はヨミの国王でしたが、宇宙の大元の弟とともに、再び地球を支配しようとしたため、どちらも宇宙の大元（愛のエネルギー体）に戻ってお休みです。

【金星】

金星の霊は一時は地球を応援してくれていましたが、地球を支配しようとしたために今は愛のエネルギー体に戻っています。

【大王星】

「天王星はいつも宇宙のどこかで、してはいけないことが起きてないか見張っています」

地球の誕生と月

【地球】

「星の戦争の前には、星たちは作られると、きれいに並べられていました。（NO.7）

けれども〝並べられるのを嫌がった星の意識〟が宇宙に満ち溢れ、何とかしなくてはと思っていました。そう思っているとその「意識体」があらわれたのです。そしてそれがたくさん集まり物質化していったのです。星の意識が原子に頼んで集まってもらって物質となってもらったのです。

地球の元の小さな意識体（星の意識）は宇宙を漂い、多くの星の「並べられるのが嫌」という意識が引き寄せられてたくさん集まり、次第に大きくなりってこのような大きな地球になったのです。

宇宙の大元は、宇宙じゅうのあらゆる原子が集まり物質となった地球は、星たちの恨みの意識体なので、燃やして浄化しようと思いました。それで地球の傍に太陽を作ったのです。

地球が完全に燃えたところで、太陽と地球の間に水星を作りました。そして水星で水を作ってもらい地球に注いで地球を冷やして貰いました。又希望どおりのおしゃれな星にしてあげた土星に、土を作ってもらったのです。地球が冷えたので地球に土をプレゼントしてもらいました。何も空から土を降らせたのでは

ありません。原子にお願いしたのです。ついで木や植物を木星にお願いしたのは、以前お知らせしたとおりです。太陽系は地球を何とか希望の星にしたいと思って作られました」

【月】

「恨みの塊の星（地球）になるのは嫌だと、仲間と飛び出しました（No. 193）。けれども地球が“遠くに行かないで”と言ってきたので止まりました。そして地球を見下ろすように一緒にいることにしました。けれどしばらくするととても嫌なオニが来たのです。プレアデスの部下の恐ろしいものが“月人”と名乗り、支配するようになりました。それから（98年秋に）いなくなるまでいうとおりにしていました。月に人は降りていません。オニが降りたように思わせたのです。飛行士が言った「サンタクロース」とは月人のグレイだったのです。当時はとても沢山いましたが、今はいません。

“月が笑っているように見える。”と言ってくれた時はとてもうれしかったです」

最近の満月は口を少し開け笑っているようにも見え、また、柿色がかった変な色をしています。その意味と異常気象（北半球は猛暑、南半球は酷寒）はなぜ起こっているのかを問うと。

「月です。昨日の私の色を見たでしょう?私は激情型なのです。（感情の起伏が激しい?）一生懸命地球のために働いているのに、誰も私の苦労を知ってくれないのでお知らせしているのです。砂漠に雨を降らせたり、地球を浄化するために私が雨を降らせる働きをしているということを人間は認めてくれません。

それで気候をはっきりとあらわしているのです。なぜ地球の気象と月が関係するかというと、上から見ているので地球のことが良くわかるのです。人工衛星の高さですら、とても広範囲に電波を届けられるのですから、それより高い位置にある月が、地球上全体の気圧たちに指令を送ることができるのはわかるでしょう」

「日本のイシカミ」に関するメッセージ

射手座の女王と人間

【御在所岳】

「私は御在所岳になった射手座の女王のイシカミです。

射手座の王様が行方不明になったので、私はすでに地球に降りていた“星の宮”に王の居場所をたずねようと思っていました。そこへ王から地球をすばらしいものにするための“人間”を連れてきてほしいと知らされ、人間（巨人）をお腹に入れて地球に降りてきました。私は日本一古い石のある所（美濃地方）に降りました。しばらくすると身体が崩れていくのがわかったので、海の方へ行こうと思いました。けれども転んで起き上がれなくなり、あのように低い山（御在所岳）になったのです。古い石は地球に降りた時、私の身体から崩れ落ちた最初の『落とし物』なのです。あの濃尾平野に3本の川（木曽川、長良川、揖斐川）があるのは、人間は3つのモノ（肉体、霊、魂）から成り立っていることを知らせるためでした。私は自分の身体が朽ちていくのを悲しく見ていました。たくさんのソラのものと交信して、エネルギーなどいろいろなものを送って貰いましたが、生きていけませんでした。私が女王だという証拠は石の指輪です。それがイシカタ山（愛知県の猿投山）にある菊石なのです。あの石は、息子のイシカタ山が私の身体から取り出してくれたものです。そうでなければ山の中に埋もれてわからなくなっていたでしょう。なぜ

菊の模様があるかというと、宇宙に光があらわれた様子を石の模様にしたいと思ったからです。それであの模様になったのです」

「私の身体を石にしたのはオニの星です。オニの星がイシカミの身体を石に変えたのです。私の身体はあの場所で転んでから少しずつ固まっていくのがわかりました。身体が石になってゆく時の気持ちは、あまりに辛くて言葉にできません。自分の身体が固まるとわかったので、落し物が柔らかいうちに、何とかイシカミの存在を人間達に気づいてもらえるようなモノを作っておこうと思いました。落し物で形のあるモノを作り、人間がその意味をわかってくれるように、昼も夜も思い続けていたのです。“おばれ石”と呼ばれるものは、私の口のつもりで作りました。私たちが射手座から降りてきたことを人間に知ってもらいたいと、ずーっと話しかけてきたことを表しているのです。山の麓から見るととても小さく見えますが、そばで見ると決して自然にはできない岩であることがわかると思います」

「イシカミはお腹の中にソラのものが作った“人間（巨人）”を入れ、泡のような油のようなものに包まれ、地球にやって来ました。それは植物油のようなものでしたが、その泡は内側に命をはぐくんでいたのです。イシカミがお腹から人間を出す時には痛みがありました。可愛い人間と別れるのが辛かったので、出て行くのがわかるようにしたかったのです。それで、わざわざ痛みの感覚を作りました。お腹から人間は滑り台のようにして出てきました。人間が出て行く時は、それは辛い思いでした。外に出てもちゃんと生きていけるか、とても心配だったのです。人間が言葉を話せるようになったのは、ソラのものが教えたからです。いろいろ喉の工夫をしました。一番苦労したのは舌の構造です。動物の舌では様々な変化の

ある動きができませんでした。イシカミは人間にイシカミの光（エネルギーの玉）を当てて、舌の動きを細かくできるようにしたのです。そして、地球上に散らばっている仲間のイシカミにテレパシーでこの方法を教えました。人間達に、イシカミのことを語り伝えていって欲しかったのです。おっぱいを作ったのもイシカミでした。人間の食べ物がなくて困ったので、射手座の女王がおっぱいを作ったのです。最初に連れてきた人間は、おっぱいではなくマナを食べていました。毎日マナだけでは飽きてしまうので、違う食べ物があると良いなとイシカミは思いました。実際、マナだけでは食べ物が足りなかったのです。けれど、いろんな食べ物は歯で噛んでも消化しにくく、特に生まれたての赤ちゃんには無理でした。それで人間の皮膚の一部をつまみ、そこの細胞に何とか栄養のある汁を出して欲しいと頼んだのです。それでおっぱいからお乳が出るようになったのです。最初の赤ちゃんは亡くなりましたが、次からは助かるようになりました」

女王の一族

【君山】

「君山です。末っ子でお母さん（女王）について降りました。（早くに降りた）なぜ星の宮のそばに降りることができたかというと、それは星の宮が光って見えたからです。お母さんがそこに降りなさいと言った

のです。そして部下のモノが丸山を作ってくれました」

「君山のことをお知らせします。本当の名前は君山（キミヤマ）ですが、“ジョウヤマ”とか、土地の者からは“シロヤマ”とか呼ばれていました。私は射手座の一番下の王子でした。星原にある星の宮のそばに降りてきたのですが、未熟児だったので、ただそこにいるだけで何も出来ませんでした。イシカミの血を引く山彦を見守っていました。山彦が殺されたので、何とかお知らせをしたいと”シガサトの7不思議”の事を起こしました」（日本史参照）

【岩木山】

「私は女王の妹の岩木山で、分身のイシカミがアダタラ山です。私がお腹に入れてきたのが“ヤハウエー”ですが、西に向かって行きました。地球に降りてきて食べ物もなく、あまりに悲しくて思い出したくありません」

【六甲山系】

「私は射手座の女王の妹で、六甲山になったイシカミです。仲間と一緒に地球に降りました。六甲山には“しめ縄岩”（小さな石が線状に並んでいる）と呼ばれる岩がありますが、これは人間にとって大切な“歯”をイシカミが考えたという事をお知らせしたのです。“生石神社”（オオシコジンジャと言われていますがこれは嫌な言い方で、本当はイクイシジンジャ）の巨石は、あのように変わった形にしておけば人間が

気づくと思ったのです。未来にこの様な形（テレビ）のものが、大切な役目をすることがわかりましたので、作っておきました。縦に伸びる線（溝）の意味は、イシカミが宇宙から降りてきたことを知らせるためにつくりました。水の中にあるのは、イシカミが海の中にも降りたことを知らせています」

「ここの山が岩山なのは、ある者が淡路島を通ってヤマタイコクを滅ぼしに行くのが見えたからです。それでイシカミ達は固い岩山にして、抗議の気持ちをあらわしたのです」

女王が作ったイシカミたち（デェダラボッチ）

地球に降りて現在の御在所岳になった射手座の女王のイシカミは、自分の体が動かなかったので、巨大な身体から5人の子供（分身）を作りました。落し物で連れてきた人間（巨人）に似せたものを作り、それに向かって「大きくなれ」と思うだけで、山のような大きなデェダラボッチ＝イシカミになりました。

「デェダラボッチ」とは

デェ＝デレ＝ドロ＝イシカミの柔らかいとろとろの身体から落ちる。

ダラ＝だらだら落ちる様。

ボッチ＝それが固まりになる。・・・という意味です。

作られた分身の子供のイシカミは

・長男　↓　猿投山（イシカタ山）　・長女↓　石巻山　・2男　↓　石槌山
・3男　↓　富士山（シラ山）　・次女　↓　青葉山

デェダラボッチのイシカミは自由に体が動いたので、女王は人間のためにしてほしいことを子ども達にテレパシーで頼みました。

【猿投山（イシカタ山）】

“イシカタ山”（猿投山）は決して“猿投山”とは言いません。猿投山というのは、後から付けられた嫌な名前なのです。イシカタ山はとても働き者で、川や輪中を作りました。また、人間のために柿・梨・桃などを作るようにソラのものに頼んでもくれました。それから平戸橋の岩は、人間が水を飲みやすいようにと作られたものです。山の上に（木曽川の）石があるのは、人間に気づいてほしいと置いたものでした。お母さんの指輪（菊石）が山の中に埋もれてしまわないようにと取り出して、イシカタ山に置いておきました。

「イシカタヤマ（＝猿投山）です。イシカタヤマにも好きなイシカミがいました。それがイシマキヤマ（＝石巻山）です。イシマキヤマはこれまで男の子と思っていたでしょうが、おてんばな女の子だったのです。イシマキヤマは好きでしたが、2人?の子供は作りませんでした。大きな子供（デェダラボッチ）を作っても、食べ物がなくてかわいそうだからです。（イシマキヤマと）一緒になれなかったので不満がたまっ

ていたのです。それで何とかしようと思ったのです。（三河湾に大きな断層のできる地震を起こそうと思っていた）けれども私の気持ちをわかってくれましたので、今はよくなりました」

【石巻山】

「私は惜しまれて亡くなった〝イシマキ山〟（石巻山）です。私はおてんばな女の子でした。イシカタヤマが好きでしたが、子供は作りませんでした」

「イシカミの子供を作るのには、2つのイシカミが同じ思いにならなければできませんでした。イシマキヤマは子供（デェダラボッチ）が生まれるのは嫌だとはっきり言いました。その代わりに『タカシ小僧』を作ったのです。良い事のために作りました。それは人間をいじめるオニをやっつけるためでもあり（ピストルの弾のつもり?）、人間（が鋤や鎌を作る原料の鉄）のためになるものでした」

「子供を作る代わりに、一生懸命イシカミの言い伝えを残そうと（霊として人間に降りて?）お知らせしてきました。それでこの地方（中部地方）にデエダラボッチの言い伝えや、大わらじ、大ちょうちんなどの行事が残っているのです」

「アサリは海のお掃除をしてもらうためにソラのものに頼んで作りました。貝殻を二枚合わせたのは、呼吸をするためです。自分の身体が崩れていくので、身体を守るためには貝も固い物が良いと思いました。（竹島などは）私の落し物なのです」

【石鎚山】

「“イシヅチヤマ”（石鎚山）です。私とその仲間は未来が分かったので、イシカミの子孫（大国主）の所にもオニが来ることを知って、一生懸命オニが来ないように（瀬戸内海を）作ったのです。自分の身体が溶けていくのに、一生懸命土を掘って海の水が流れ込むようにしました。そして四国を作り、高い山や険しい谷を作りました。そしてオニが攻めてくる所には渦巻きを作り、舟が渡れないようにしようと思いました。（鳴門海峡）」

【富士山（シラ山）】

「“シラヤマ”（富士山）です。お友達のアダタラ山に会いに行こうと出掛けましたが、転んで手をつきました。そこが湖（浜名湖）になりました。そこに人間の精子に似たウナギを作るように、ソラのものに頼みました。私は自分の身体を地球さんに頼んでピラミッドにしてもらいました」

【青葉山】

「名前がないの。名前をつけて。お母さんが亡くなって泣いていたら、『こちらにおいで』と声がしたので（日本海の方へ）歩いて行ったの。『亡くなったら身体に土をかけるのよ』とお母さんに言われていたので、途中で土をすくったの。そこが（琵琶）湖になったの。お兄さんに聞いて、小さなカレイや鯛を作

るようにソラのものに頼んだの」

※この「名前がないの」と言って降りてきた女の子のイシカミ“アオバヤマ”（青葉山）を、著者は“ハナちゃん”と名付けました。青葉山の中腹にある小石でできた岩?は、女王から作られた山ということを知らせるために、他のイシカミが作ったそうです。

日本各地のイシカミ

【千島列島】

「射手座のものが北の果てに降りました。そして多く仲間が日本にたどり着きたくて手をつなぎました。やっと（北海道に）つながったのです。多くの仲間のお陰でした」

【奥尻島】

「奥尻島のイシカミです。あの岩（鍋つる岩）を作ったものです。（地球に降りてきて）とても困りました。ただ海に降りただけでは、折角地球に降りてきた大きな体も何の役にもたたないと思いました。それでせめて私たちの星（射手座）の形のものを作り、それを眺めて故郷を偲ぼうと思いました。あの形は私達のふるさとの星の形なのです。いくら待っても気づいてくれないので地震を起こさせてもらいました。人間の皆さんには大変な思いをさせたことをお詫びします。私は一生懸命に沢山増える魚を作るようにソ

ラのものに頼みました」

【羊蹄山・オンネトー湖と阿寒湖】

「羊蹄山はイシカミの総司令官でした。花や小鳥や虫の音などで慰められていましたが、じっとしているのが辛かったので、時々耐え切れずにお知らせ（地震、噴火）していました。いまでは霊として移動し人間を通して体験できることがわかってとてもうれしいです。そのことを他のイシカミに伝えました」

「なぜオンネトー湖に生き物がいなくて、阿寒湖にマリモがいるかというと約束したのです。オンネトー湖は羊蹄山と夫婦？になれたら生き物はいらないと。その代わりイシカミの子供を作ると。（雌・雄阿寒岳）一方阿寒湖はイシカミに似せたマリモを作ることで、イシカミをあらわしたのです。

いわばイシカミの羊蹄山を、オンネトーと阿寒湖は取り合いしたのです。（オンネトー湖はアイヌ語で“老いた沼”あるいは“大きな沼”という意味だそうです。）

【見附島】

「私は女王に『人間のためになるものになりなさい』と言われました。人間は火を使うようになることがわかっていたので、少ない木（炭）で火が使えるように考えました。それで自分の身体をコンロにできるような身体にしました」

【沖縄のイシカミ】

「沖縄はムー大陸につながっていました。ムーでは、イシカミと人間は仲良くしていましたが、オニに支配されてかわいそうだったので沈めました。そのため、小さな島になりました。多くの洞窟はイシカミがオニの分身に食べられてできたのです?。その後も大陸からオニが来ていじめられました。“さちまちの人”（幸福を願う人間）の気持ちがわかったので、サツマイモやカボチャを与えました。ゴーヤも与えました。あの苦みはいたずらに入れたのではありません。人間に元気に生きて欲しかったので、胃に良いように入れました。南から神が来るという言い伝えは、イシカミの子孫が南から来て食べ物を与えたことを伝えているのです」

【日本を作ったイシカミ達】

「日本海はオニが攻めてこないようにイシカミたちが作りました。日本海から土を運んで山を作りました。それで今のように大陸から別れて日本列島ができたのです。そしてピラミッドの代わりに、所々に尖った山を作りました。また、未来が見えたイシカミは、流されてやって来るユダヤ人（ノアの親子）が北の方に行ってしまわないように、（能登）半島を作っておいたのです」

【日本アルプス】

「女王が（岐阜に）降りたので、女王をお守りするために、射手座からたくさんのイシカミがその近くに降りました。それで日本の中央には高い山が多いのです」

【剣山】

「剣山と言われるイシカミです。射手座ではいたずら者の若者で、迷惑をかけていました。立山と呼ばれるイシカミと一緒に、王女達を追いかけていました。けれども地球に降りたら星の宮の事を伝えるヒミコが、オニに殺されるとわかったので、オニから守るためにできるだけ高い山を作りました」

【六甲山など】

瀬戸内海に面した山が岩山なのは、あるものがヤマタイコクを攻め滅ぼそうと淡路島を進軍するのを見て、何としても反対の意思をあらわそうとして岩山になりました。そして「生石神社＝寶殿」を作っておいたのです。

【君尾山】

君山を封印されないために、ついて降りたイシカミを君尾山と名づけて仏教の封印から守りました。

【勝浦海岸】

「2人?のイシカミ（デェダラボッチ?）が自然の池になるようにしました。けれども人間がオニに支配されているのが嫌だったので地震を起こしたのです。あの崖は海の向こうにいるイシカミと同じものを作

ろうと思ったのです。（グランドキャニオンに似たような崖があり、いたるところに粘土細工のようにして崖を作ったと思われる岩がある。）

（６つ？の）洞窟は小さな人間のために、（イシカミの）身体をくりぬいて作りました。岩（めがね岩は）あの岩（北海道の鍋つる島？と同じ意味で射手座の形）と同じ形を作りお知らせしました」

【白山】

「射手座では王一族と長老、その部下に別れていました。それは何で決まるかというと、一途に“宇宙の平和を思う思いの強さ”で決まりました」

【イシカミの子孫】

このことははっきりとはまだわかっていませんが、知らされたことは次のとおりです。

射手座から降りてきたいわば宇宙人の分身のイシカミ（デェダラボッチ）は一代で途絶えて山になっています。イシカミの子孫というのは、お腹に入れてきた巨人で半霊体でした。その巨人の純粋の子孫は何代かで途絶えたようです。一番長く続いたのが、食料の多かったエジプトのようです。

世界中にある初期の神と呼ばれる存在が、イシカミの子孫でないかと思われます。イシカミの子孫と人間との間のことは、ギリシャ神話などで記されているように実際にあったようです。

日本においては御在所岳（トヨウケ）とイワキ山（ヤハウエー）の間の子供が、アマテル・アマテラス等で、2人は今は大元（愛のエネルギー体）に戻っているようです。

「イシカミのお腹に入っていた人、トヨウケです。菜の花の咲く地球に降りました。それはとてもきれいでした。そこにはイシカミの女王の妹・岩木山から出てきた私の仲間、ヤハウエーもいました。それでお知らせの物語が始まったのです。

私達はしゃべることが出来なかったので、テレパシーで話をしました。私たち人間のために食べ物を与えてくれたイシカミに、必ずご恩を返さなくてはと思いました。イシカミの落とし物から作られた分身のイシカミ（デェダラボッチ）は仕事をしてくれました。小さな人間が増えるにしたがい、分身のイシカミは

死んでいきました。イシカミは小さな人間をしゃべれるようにしてくれました。それ以外は最初の人間である私と同じです。いにしえでは、皆火の輪でした。燃える油のボールでイシカミと地球にやって来たことを意味します。それで人間に火の輪（オーラ）が見えるのです。オーラは長い年月で色が変わりました。イシカミから生まれし者トヨウケからのお知らせはこれまでです」

「コトシロヌシと呼ばれた者です。私はイシカミの子孫です。南の島には食べ物が沢山あったので生き延びることができましたが、私はひとりぼっちでした。大国主がいじめられていることを聞いたので、私は沖縄から北に向かいました。大きな身体でしたので、海の中を歩いて行きました。そうして小さな人間達が何とかして大国主を（神として扱い）助けようと思っているのがわかりました。それで大国主のために高いお城を作りました。ソラのものが建物の建て方を教えてくれました。私は一生懸命お城を作り、それからまた北に向かいました」

「コトシロヌシと仲良くしていたのは海沿いの人たちでした。そしてコトシロヌシから情報を取り入れていました」

「外国のイシカミ」に関するメッセージ

【射手座の王様　エルサレムのイシカミ】

「射手座の王様は、星の宮が地球のお掃除に行ったきり行方がわからなくなったので、星の宮を捜しに地球に行こうと思いました。また、地球というのは星たちが取り合いするほど素晴らしい星なので見てみたいとも思っていました。それで、王様は泡に包まれて地球に降りてきました。地球は『良い星のモノが降りてくる』と喜んで、大きく吸い込みました。それで射手座の王様は地球の心臓に吸い込まれたのです。そして“岩のドーム”の下に居るのです」

「射手座の王です。星の宮を探しに地球に降りてきました。地球はまだ柔らかかったので、私は埋まったのです。そして私は地球と仲良くなりました。この地球を素晴らしい星にしようと2人（?）で話しをしました。私は、『この地球をすばらしい星にしたいので、それができるものを連れてきてほしい』と、女王に伝えました。それでソラのものと射手座のものが相談して人間を創り、女王や部下のものが人間を連れて来たのです。地中海を作るように言ったのは私です。人間が住むのに一番大切なのは、温暖な気候だとわかったからです。恐竜の灰が沢山あるのも嫌でした。それから眠っていました」

「射手座の王です。地球に起こされたのです。あまりに地球が悲惨なことになっているので、何とかしてほしいと頼まれたのです。それで私は人間に呼びかけたのです。

エルサレムになぜ多くの人が集まったかというと、そこにイシカミの王がいたからです。私が皆に話し掛けていたからです。ここ（エルサレム）に来ると声が聞こえるというので、多くの人が集まってきたのです。イエスの母親も私の声が聞こえたのです」

「2人（イエスとマホメット）とも良い人だったので、私（射手座の王）はなんとか平和な地球にしてほしいと思いました。2人ともイシカミの王がいたことを知っていました。それで話したのです。けれども2人に人々の信望が集まると共に、オニは邪魔をしてきたのです。そして悲惨な最期を迎えさせたのです。それから長年にわたりオニは人間を支配し、2人を信じる人を互いに争わせてきたのです」

「ようやく人間が、地球は生きているということをわかってくれるようになりました。エルサレムは“地球の心臓”の場所なのです。射手座の王様は何も知らなくて地球に降りてきて、地球の心臓に吸い込まれたのです。何とかして脱出しようとしましたが、無理でした。心臓に岩（射手座の王様）が詰まったために、地球もとても苦しく色々なお知らせ（噴火や地震）を繰り返したのです。

そのうち射手座の王様は地球と仲良くなりました。2人?は人間に一番大切なことを知らせようと考え、“星の戦争”があったことを形に残しました。一つはカルナック列石です。かつて星たちはこのように星の戦争前はきれいに並んでいた事を知らせました。そして、もう一つはピナクルスです。

星の戦争の後、星たちはこのようにばらばらになったという事をあらわしています。どうしてフランスとオーストラリアに別れて作られたかというと、それは射手座の王様と一緒に降りてきたイシカミが、それぞれの場所で手伝ったからです。射手座の王様は白い馬に乗って、フランスとオーストラリアを行き来し

ました。イギリスの岩に描かれている白い馬（アフィントンの白馬）は、それを表しています。白い馬とは何かというと、“白い雲”なのです。王様の霊は、白い馬の雲に乗って見ていたのです。射手座の王様は、エルサレムの地中（岩のドーム）に深く入りすぎ、それによって人間達が自分に気づかずに勝手に神を作り、自分をないがしろにしていることを悔しく思い、お知らせしていたのです。多くの人は『自分が神だ』という声をそこで聞いて、王様とは思わず、間違った神を作り上げたのです。それがいくつかの宗教に分かれる原因となり、それをオニが利用して宗教間で争いを始めさせたのです。けれど本当は同じ“射手座の王様の声”だったのです」

■補足説明

『岩のドーム』＝エルサレムにある、岩だけがあるモスク。イスラム教の聖地。

『カルナック列石』＝カルナックの列石（フランス　ブルターニュ地方）総延長約 4km 約 3000 個の巨石が高い順に並んでいる。このあたりは巨石一大展示場という感じで、いたる所にその作品を見ることができる。

『ピナクルス』＝『オーストラリアの荒野の墓』と呼ばれるように、オーストラリアの砂漠の中に無数に

林立する岩のある所。星達が並べられるのを嫌がってばらばらになった事をあらわす。

『アフィントンの白馬』＝イギリスにある岩に描かれた巨大な白い馬の地上絵。

【射手座の女王の妹　イタリアのイシカミ】

「私はギリシャ神話の元となった女神です。地球の思い出はあまりにも辛かったので、今まで降りるのが嫌だったのです。射手座の王様から海とつなぐように頼まれました。恐竜の骨ばかりがあるこの土地に降りたことで、私も何としてもここをきれいな所にしたいと思いました。それで部下達にせっせと骨を運んでもらい、大西洋に積み上げてアトランティスの島にしたのです。イシカミの子孫を連れて行き、理想の国を作ったのです。私たちはオニたちが来ることが解っていたので、イタリアを作って人間の未来を警告しました。長靴のようなイタリアの形は人間の進む道を意味し、その先のシチリア島は長靴がつまずく小石をあらわしています。イシカミの子孫は楽しく過ごしていましたが、オニが入り込んで悲惨な状態を見るのが嫌になり、何もかも埋め尽くしたのです。私はイタリアのベスビオス火山となり、その怒りを現しました」

※イタリアのベスビオス山となったイシカミから生まれた巨人と、ギリシャのイシカミから生まれた巨人が一緒になり、アマンティアとヨハンシュンセンの子供が産まれ、後のアトランティスの女王と王となりました。（本「星からのメッセージ」参照）

「地中海は恐竜の墓場で、死んだ恐竜の骨がたくさんの石灰になりました。その石灰から骨と同じ栄養がとれたので、そこに降りたイシカミは子供を作る時に骨を作る必要がありませんでした。イシカミたちは恐竜の骨からできた土を大西洋に捨て、アトランティス大陸を作り、そこに住んで天国のような生活をしていました。イシカミの子孫であるアトランティス人は骨がなく身体が軽かったため、歩かなくても移動でき、楽しい人間生活を送っていました。しかし、そこへオニの仲間が降りて来て恐怖の支配を始め、アンドロイドにエネルギーを与えてアトランティスを滅亡させたのです。それでイシカミは怒って火山を噴火させて地震を起こし、その結果、アトランティスは地盤沈下したのです。また、オニに支配された後の者は偽りのギリシャ神話を書きました。当時のイシカミたちはお互いにテレパシーで会話をしていたので、今以上に情報網が発達していました。アトランティス人の子供が後に日本へ向かった大国主でした」

【射手座の王様の弟　スタッファ島のイシカミ】

「私はスタッファ島のイシカミで、射手座のおじさん（王様の弟）です。フィンガルの洞窟の柱状節理は、岩の元の元素に『せめて柱の形になって人間に知らせてほしい』と頼んだので作られたのです。人間がいつか柱を使って家を建てるようになるとわかっていたからです。私は人間を連れてはきませんでした。なぜ洞窟の穴があるかというと、他のイシカミの身体からこのような穴が開いて子供が出てきたことを知らせるために作ったのです。私が降りたところは海でした。けれども折角地球に降りてきたので、どうしても人間にイシカミのことを知ってもらいたかったのです。洞窟や柱を作ったのは、いつか人間に登ってもらって、何としても私の作品（フィンガルの洞窟）を見てもらいたいと思っていました。あの洞窟にはバイキングが奪ってきた宝物を隠していました。人間には何度も降りてお知らせしたのですが、本当の意味をわかってはくれませんでした。クロップサークルを描いて欲しいとソラのものに頼んだのもこの私です。私は良いイシカミです。けれどもお肉を食べるために狩りをするように教えたのも私でした。それをあらわすためにあの鳥（パフィン）が作られました」

「良い事が起こったでしょう？（豊田にもクロップサークルができたこと）『日本にもクロップサークルを作ってくださったら、この情報は世界に広まるのに』というお願いを聞いたので、ソラのものが相談しました。そしてご在所の女王とイシカタ山がロボットに作るように頼んだのです。スタッファ島の義弟があのように立派なクロップサークル（イギリスのサークル）を作っていることを、女王様は射手座に帰ったときに聞いてきたのです。それで作ることができたのです。畑の持ち主には申し訳ありませんが、ソラ

からの情報を信じてもらうには仕方がなかったのです」

「（スタッファ島のＨＰを見ていた読者の気分が悪くなったことをメールで知る。）

なぜそのようになったかというと、スタッファ島は女王の義弟（王様の弟）だったからです。その人に射手座の女王の霊が降りていたのです。海の中にポツンとあるスタッファ島を見て、あまりに痛ましい姿を見るのが辛くて、女王の霊は射手座に帰ってしまいました。けれどもスタッファ島の義弟が一生懸命クロップサークルを作るように努力をしていたことを知って、女王も日本でクロップサークルを作ろうと思ったのです」

■補足説明

『スタッファ島』＝スコットランドにある島。メンデルスゾーンの「フィンガルの洞窟」で有名。射手座の王様の弟でイシカミの穴から人間を出したことを表すために、洞窟を作っておいた。6角柱がぐるりと囲んでいるが、将来人間はこのように柱の建物を作ることを知らせていた。伝説によると、これは巨人により作られたと言われている。深さ75メートル、高さ30メートル以上にも及ぶ。素晴らしい大聖堂が持つあらゆる威厳を持ち合わせている。ここはまた、洞窟内に入り込む波と共に発生する風により生み出されるオルガンのブーンと響くような音で有名。

【射手座の王女（長女）　ニュージーランドのイシカミ】

「ニュージーランドのイシカミ（射手座の姉の王女）です。私は射手座で最後の一人になったので、地球に降りて来ました。当時オニが支配していない所は、もはやニュージーランドだけでした。それでそこに降りたのです。お腹に赤ちゃんを入れて来なかったのは、ムーノイアがオニに支配され悲しいことになったのを知っていたからです。ニュージーランドには部下と一緒に来ました。平らな所でした。南からのとても冷たい風が吹いていました。私は落とし物で手足の沢山ある身体の部下を大勢作りました。たくさん手足を持っていると仕事がたくさん出来ると思ったからです。部下は若くて元気な者ばかりでした。一番の仕事は南極からの冷たい風を防ぐ事でした。一生懸命壁を作ってくれました。けれどもそのことをこれまで認めてもらえなかったので、涙の雨を降らせていたのです。私は未来を見ることが出来たので、いずれここへも人間がやってくることがわかっていました。でも、人間が来る前にオニ（大蛇）が泳いでこちらに来ようとしました。オニは私が作った動物を食べようと思っていたのです。そこでオニに『こちらに来ても私は鳥類しか作っていないから、皆飛んで逃げていってしまうよ』と言ったのです。だからニュージーランドには鳥の形をしている動物がたくさんいるのです。また、私はオニに『こちらに来たら丸石を投げつけるよ』と言い、丸い石を作って並べて置いておきました。けれど、その後もオニが嫌がらせをしたので火山の噴火をしました。それでオニはかなわぬと思い（南島には）攻めてこなかったのです。私は自分の身体が溶けていくのでとても心細かったのですが、何としても大蛇にだけはやられたくないと思っていました。一番嫌なのは、せっかくこうして人間のために山を作ったりしても、人間は他の神に感謝し

て、私たち（ソラのもの）には一度も感謝しないことです」

「（ミルフォードサウンドの）巨大な岩は、王女が部下に『南極からの風を防ぐ様にしてください』と言ったので、部下達が一生懸命作ったのです」

「なぜフィヨルドの海が、山からいっきに深い海になっているかというと、山を高くするために海の底の土を掘って乗せたからです。また、なぜ山の上から滝が落ちてくるかというと、水はソラのもの（水星）が作ってくれたことを知らせているのです。（マウントクックの）山は冷たい風を防ぐために横に広げ、三角の山を作ってピラミットの役割もさせたいと思いました。あらゆる山の上に、三角の形の山や半分広げた扇型の山があります。扇形はオーム（？）の形に似せました」

「三角の山はピラミッドです。扇型はどういう意味かというと『これが最後です』という意味なのです。この岩を見て人間が不思議だと思って欲しいので作りました。限られた期間で塀（岩壁）を作るのは大変でした。大勢のモノが塀（岩壁）を作り、あのようになりました。身体に土をかけるまもなく死に、それであのように沢山の足があるような形になったのです。今こうして山の上に雪が積もり、水が沢山流れていることで、私たちの目的は達成されたと思っています」

【射手座の王女（次女）と長老　オーストラリアのイシカミ】

（エアーズロックの写真を見ていると）

「これはオーストラリアの物語です。私はオーストラリアに降りたイシカミで、射手座の王女（次女）でした。このような形になったのですね。私はおなかに人間（巨人）を入れて来ました。そして人間に『争いをしないように』と教えました。けれども悲しいことに、今までこれが私の身体だとは誰も気づいてくれませんでした。本当は、御在所岳になった射手座のお母さん（女王）の近くに降りたいと思っていました。いにしえには大地は全て木で覆われていました。良い所に降りたと思いました。今の姿（エアーズロック）を見ることが出来てうれしかったです。ウェーブロックはあのような波の形で日本のお母さん（射手座の女王）に会いに行くように、おじさん（射手座の長老＝ウェーブロック）が教えてくれたのです。『いつまでも泣いていないで、連れて来た人間のために何かをしなさい』とお母さんにテレパシーで言われました。けれども涙が出てきて何もできませんでした。私は何もしなかったけれど、お供のイシカミが落し物を使って、ピナクルスのようないろんな形にしてくれました。

人間が生きていくのには厳しい所でした。けれども私は、人間が食べるためのいろいろなおいしい木の実を考え、作ってくれるようにソラのものに頼みました。果物の中には平べったい種を作りましたが、それは射手座の形をあらわしたのです。私は地球に降りた時にムーの惨状を見ていたので、『決してこのような真似をしてはならない』と一緒に連れて来た人間に言いました。そして人間にテレパシーの能力を与えたのです。それでアボリジニの人々は最後までイシカミの教えを守って、エアーズロックの岩山を大切に

してきたのです。それでオニに支配された人々に厳しく弾圧されました。

“オーストラリア”という言葉は、『人間は人生の最後でまた戻って来なくても良い』、つまり『人間に生まれ変わらずに星になれる』という意味なのです。この言葉は“ある言葉”に一文字加えた言葉で、その“ある言葉”の意味は、この意味と反対の意味になります。

（洞窟で巨人が人を食べていたという伝説があることについて）オニに支配された人が、人々をイシカミから遠ざけるために、巨石に近づかないように怖い思いをさせていたのです。多くの巨石の遺跡があることを世に知らせてほしいと思っています」

「私はウェーブロックを作った長老のイシカミです。人間のために雨水を貯める穴をイシカミの身体の上に開けました。その時身体から取り出したものが、あの丸い色々な姿わった岩です。（実際、以前はこの場所にアボリジニが水を汲みに来ていたそうです。）そして近くに洞穴を作り、連れて来た人間をその穴に住まわせました。巨石の洞窟は人間の暑さや寒さを防ぐ場所だったのです。

ウェーブロックを波の形にしたのは、王子たち（の霊）が女王の元に行く時に、あのような形（台風）で行けば良いと教えるために作りました。又、台風はイシカミが関係していることを人間に知らせるためでもありました」

「私は一番キチンと人間でもわかるものを作った良い星の者です。（射手座の長老であり、ウェーブロックの岩になったイシカミのこと。射手座という言葉は知らなかったようです。）

私が思うに、私達イシカミがいなければ、人間は地球で生きていけなかったと思います。それほど人間は

他の動物に比べて弱いものでした。連れて来た子供の人間が死んではいけないと、夜も寝ずに考えました。人間が地球上で生きていくためには、食べ物がとても重要でした。果物をソラのものに頼んで作ってもらいました。その頃は雨も降って果物が出来ました。けれども果物だけでは寒さを乗り切ることが出来ない事がわかったので、動物も少しは食べるように教えました。また、人間の皮膚は柔らかすぎていつも傷が出来ましたので、草に傷を治すものを入れてもらいました。地球の気候は厳しいものでした。暑すぎたり寒すぎたりしました。それで洞窟を作りました」

「私（射手座の長老）が人間の手を考えたのです。それを知らせるために、洞窟の中にあの人間の手形をつけさせたのです。手の形の花（カンガルーの手に似た花）もソラのものに頼んで作ってもらいました」

「私たちが手の形を担当したイシカミです。指はなぜ5本かというと、両手・足（4）と身体（1）ということをあらわしたのです。あちこちに洞穴を作るように指導したのは長老（ウェーブロック）のイシカミでした。人間が増えるようにしたのは、ただ人間が絶えないようにするためでした。手を自由に動かす事ができるように考えたのもイシカミでした。落し物で色々なものの形を作ろうと思いましたが、1本？の指で作るのはとても大変でした」

「（オーストラリアの）最初の人間です。だんだん小さな人間が増えていきました。その人間のためにも水が必要だったので、水を得るために、丸い大きなもの（ウェーブロックのイシカミ）は平らになり、その上に穴を開けるように言いました。今と違って、丸い大きなものは柔らかかったので、簡単に穴を開けることが出来ました。そしてそこに溜まった水を飲むように言いました」

「私たち巨人は死んだ後も、どうしても（小さな）人間のことが気になって、いろいろと（テレパシーで）教えていました。私達の身体は（分解して）無くなりました。けれども丸い大きなもの（射手座の宇宙人）は岩になり残りました。イシカミとデエダラボッチは同じなのです」

「オーストラリアの2つの丸い石がなぜ丸いかというと、輪になって仲良くする事が大切だからです（丸＝輪＝和）。星達も丸いのです。なぜ2つ並べたかというと、イエスとマホメットは本当は双子で仲が良かったのに、オニのために争いをする事がわかっていたからです」

■補足説明

『エアーズロック』＝オーストラリア大陸のほぼ中央部にある、世界最大の一枚岩と言われている巨大な岩山。また、オーストラリアの先住民アボリジニの聖地としても知られています。エアーズロックはオーストラリアに降りて亡くなった射手座の王女の体だそうです。

『ウェーブロック』＝オーストラリアにある巨大な波型の岩。射手座の長老がムーノイア達に波型になって女王の元に行くよう教えるために作った岩。人間が上に登れるようになっており、頂上には巨大な穴を作って、人間のために雨水を貯めれるようにしたが、今は木が沢山生えている。穴を掘った時に出た物が巨石として横にある。

『小さな人間』＝ソラのものがオランウータンの遺伝子操作をして、イシカミが連れて来た巨人に似せて進化させた人間。今の人間の先祖。

『ピナクルス』＝オーストラリアのイシカミが、星の戦争後宇宙に自由に広がった星の様子を、無数の岩が林立しているさまであらわしました。

【射手座の王女（三女）　ユーノイア（南極）のイシカミ】

（南極の写真を見た夜）

「私はユーノイア（南極のイシカミ）です。ムーノイアも一緒に降りています。なんとしても日本に行きたいと思っていました。姉（射手座の次女の王女＝オーストラリア）に付いて降りた長老が作ってくれた大波の形（＝ウェーブロック）になって、日本には行っていましたが、どうも歓迎されていないようで残念に思っていました。南極は大陸移動で完全に氷で閉じ込められました。けれどもあの様に美しい姿になっているのを見て安心しました。これが私の言いたいことでした。これからも、降りて人間世界を見てみたいと思います」

「私はユーノイアです。南極になったところに降りたイシカミです。お母さん（射手座の女王＝ご在所岳）

に会いたかったので、お兄ちゃん（射手座の王子＝ムーノイア）と一緒に行こうと思ったら、お兄ちゃんに（中国？台湾？へ）行くようにと言われたの。けれども、そっちは龍神がいるので怖いからどうしようかと思っていたの。さっきいなくなったので今から行きます。（２００１年台湾付近に一週間居続けた台風でしたが、この後動き出して中国に向かいました。）」

「ユーノイアがお水を降らせました（台風６号）。人間がお水がないと思っていたので、水（雨とは言わない）を降らせたのです。イシカミが川になってお知らせしたのです。イシカミが川を作った事、落し物で沢山のものを作っておいたけど、あのようになって見えなくなった事を知らせたのです。（巨石遺跡が濃尾平野に埋まっていること？）

大風をやめたのは良い子だったでしょう？（東海地方は昼間ほとんど風がなかった）お水は悪いモノを流しだしてくれました。生きているイシカミのユーノイアより」

「南極はかつて“レムノイア”と呼ばれていました。アトランティスが作ったアンドロイドの国でした。そのアンドロイドが反乱を起こしてアトランティスを滅ぼした時、自分の国も反動で南極の場所まで飛ばされたのです。それでレムノイア（南極）は厚い氷で覆われたのです」（南極に恐竜やシダの化石がある。）

【射手座の王子（長男）と乳母　ムーノイアとイースター島のイシカミ】

「ムーノイアは、はじめはとてもきれいな所で、仲良しの太陽の霊が遊びに来ていました。ここは太陽の魂を持った者が作った国でした。太陽の霊たちは、イシカミさんが地球に送ってくれた人間と仲良く暮らし、人間の中に魂として入っていました。

ムーノイアには誰もけんかをする者はいませんでした。子供のように純粋な心を持った人ばかりでした。毎日暖かなので食べ物はたくさんあるし、きれいな花や魚もいて、皆楽しく暮らしていました。ここ（ムーノイア）では、いにしえに降りたエネルギーについて学びました。そのエネルギーが体の具合を良くしてくれたのです。イシカミは地球上では身体が溶けていくので、射手座に帰りたいと思い、射手座の形に似た石の輪（石貨）を作って遊んでいました。

ある日、恐ろしいことに醜い一匹の大蛇がやって来て、人間を呑み込んだのです。オニが降りて来たのです。オニのエネルギー体はある人間に乗り移り、毎日人間を生け贄として差し出すように言ってきました。オニに支配された人間が権力を持ち、恐ろしいまつりごとが始まりました。それを見たイシカミたちが怒って地震や火山の噴火を起こしたので、島のほとんどは沈んだのです。けれども、今その人たちの霊は愛のエネルギー体に戻りました。いにしえの出来事でした」

「私のお母さんは女王で、先に地球へ降りましたが、いつになっても帰って来ませんでした。でも、おばさんたちが『地球に降りるとお母さんに会えるよ』と言ったので、私も降りることにしました。降りる前に、おばさんが私のお腹の中に人間を入れてくれました。そして『なんにも心配ないよ』と言ってくれた

ので、私は安心して降りることが出来ました。お腹の中の人間を外に出しましたが、少し早く出しすぎたので、人間は（大気圏外？で）焦げて色が黒くなり、髪の毛も縮れてしまいました。けれどもすぐに生き返らせてバナナとタロ芋を食べ物としてあげました。又ソラのものは連れて来た人間（巨人）に似た小さな人間も作ってくれました。バナナは子供がたくさんできると良いなと願って、同じ形をたくさんつけたのです。私は一人だけで寂しかったので、人間に似た“猿”をソラのものに降ろしてもらいました。他には、射手座の星の形に石貨を作って、私がいたことを知ってもらおうと思いました。しばらくして、私の側に誰か降りて来ました。それは私を育ててくれたおばさんでした。おばさんはモアイの像を作ったイシカミです。私の弟のシロヤマ（＝日本の君山）が一人前に仕事をしているのがわかり、驚きました。射手座では彼と仲良く遊んでいました」

「いにしえに降りた（ムーノイアの）乳母のイシカミです。ここ（イースター島）には広い開けた土地がありました。そこに降りました。しばらくしてお腹から人間を取り出し、タロ芋を与えました。食べ物はあるし暖かいので、小さな人間もどんどん増えていきました。しばらくして醜い生き物が降りてきました。それがオニ（大蛇）だったのです。そして人間は命を奪われました。私は見ているしか出来なかったのです。射手座に帰りたいと思いました。

イースター島のモアイ像は私が作りました。連れて来た人間に似せて作りました。あの像ははるか射手座を見ているのです。帽子のようなものを頭の上に乗せているのは、脳がとても大切だということをあらわしました。そして石貨は射手座の星の形に作ってもらいました。射手座の星には引力がありません。それ

で大きな身体でも自由に動けました。私はここで山は作りませんでした。いつでも適当に雨が降ってくれたからです。本当に楽しく過ごしていたのに、オニが降りてきてから恐怖の世界になりました」

「(筆者が台風が上陸しなくて良かったと思っていると) 私は皆に忘れられたムーノイアの乳母です。それはとてもうれしい事でした。ムーノイアが皆 (イシカミ達) に声をかけてくれたのです。『みんなでお母さん (射手座の女王) に会いに行こう。そして僕たちのことを知ってもらおう』と。それでみんなで台風になったのです。何としても、台風が意識を持っていることを人間にわかってもらえるように、みんなで揃って動くようにしました。それで同じ頃に3つの台風が生まれたのです。1つはいまだに龍神信仰のある台湾へ。もう一つは北斗七星を信じる朝鮮へ行きました。日本へはできるだけみんなの注目を浴びるようなスタートをし、台風に意識があるということに気づいてもらおうと思いました」

■補足説明

『ムーノイア』 = かつて太平洋の真ん中には、現在のイースター島まで伸びていた巨大な大陸がありました。別名ムー大陸とも呼ばれています。

『イースター島』 = 南太平洋にある島でモアイの石像が有名。ムーノイアの乳母がモアイの石像を作りました。石像ははるか射手座を見ているのです。

ユーラシア大陸のイシカミ

【ユーラシア大陸のイシカミ】

「初めにイシカミたちが地球に降りた時は、そこはとても広い平野でした。大勢の仲間と一緒に降りました。そしてイタリアのイシカミに、人間のために高い山を作るように教えられました。イシカミの上にイシカミが乗り、最後のイシカミはピラミッドのように尖った山にしました。また、イシカミ達が作った事がわかるように、海の中の土を山の上に乗せてもおきました（エベレストの高地に沢山の貝殻の化石がある）。地球の引力をピラミッドの先端から放出し、同時に星からはエネルギーをもらって、私たちの体が動けるようにするためでした。けれどもいつまでたっても私たちの身体は軽くなりませんでした。大勢のイシカミで高い山（エベレストなど）を作ったことで、一年中雪が積もる白い山になり、お水が流れるようになったので、イシカミたちは人間に感謝されました。そこはそれまで平野でお水がなかったからです。それからお米をソラのものに頼んで作ってもらいました。私たちは少しでも自然が人間の為になれば良いなと思いました。ある日、とても小さな人間たちが動いていて、東の果てに行こうとしているのがわかりました。イシカミの子孫の大国主やヒミコ達です。仲間の良いイシカミが、その人間を運んであげたのです。その人間たちをやさしく土ごとすくって、友達のイシカミに手渡して、東の方まで運んであげたのです。イシカミは人間には見つかりませんでした。イシカミはあまりに大きすぎて、生きていることがわからず、それで大国主達はなぜ簡単に日本に移動出来たのかわからなかったのです」

【チベット】

「私はチベットのイシカミです。私たちはお日様に弱かったので、太陽光線の当たる昼間は寝て、夜だけ動きました。それでも何日かは生きていました。私たちは白い山の中にいると何も見えなかったので、落とし物を積み上げました。それで白い山に何人かのイシカミが残されました。私たちの身体はだんだん溶けて行きました。それを見た若者のイシカミが、星から力を得ようと思って故郷の射手座で教えられたピラミッドを作りました。イシカミの力が蘇るようにたくさんのピラミッドを作りました」

【台湾】

「この島には沢山のイシカミが降りました。先に降りたイシカミの上にも他のイシカミが降りたため、下のイシカミたちが押しつぶされて固まり、硬い大理石になりました。山だけだと人間が気づかないので、仲間のイシカミの身体が柔らかいうちに深い溝を作って、その大理石が見えるようにしておいたのです（タロコ渓谷）。泥川はイシカミの無念を知ってもらうためのもので、イシカミの成分が今も流れてくるのです」

「私たちは台湾に降りたイシカミです。星の宮のそばにと降りようと思ったのではありません。ここ（台湾）が、日本と同じ“日いづる島”と知って降りたのです。女王たちの親戚のモノでした。女王のお手伝いをしようと思って地球に降りてきましたが、すでにオニが降りていて支配されたので、それを悔やんで濁り川にしているのです。それから、仲間のイシカミに『岩を大切なモノとして人間が扱ってくれるよ

うに、きれいなものに変化するように』と言われたので大理石になりました。人間に気づいてもらうために渓谷も作りました。垂直の大きな岩壁がどうしてあるかというと、『なぜこのような形になっているか不思議だ』と人間に思ってもらうために作ったのです。

ここのイシカミが優しい人間を連れてきたのには意味があるのです。現地の人はとても楽天的で「ウルシにかぶれません。ウルシを木に塗るとつるつるになります。同じようにつるつるになった石（＝大理石）があることに気づいてもらおうと思ったのです。人はなぜウルシにかぶれるかというと、血液にお知らせをしてもらうように頼んでおいたからです。ウルシにかぶれる人は大理石が作られたことを信じる事ができなかった人なのです」

【パミール高原】

「アフガンに降りたイシカミです。私たちが（パミール高原の）あの岩の橋を作りました。そしてその合図のために、あの貝（アンモナイト）を置いたのです。私はここに降りたことをとても後悔していました。それでも人間のために高い山を作るようにテレパシーで言われたので、一生懸命作りました。あのように高い山を作ったけれど、人間が苦労するばかりであまり役に立たないという事がわかりました」

【メソポタミア】

「メソポタミア・インダス付近に降りたイシカミも、人間に小麦などを与えて助けていましたが、後から

降りて来たオニの部下が神官に乗り移り、別の神を祭るようにさせました。彼らは、イシカミのことをないがしろにするために、人間に小さな像を作らせて、それを拝ませました。またその女神は『死んだら何もないから、今を楽しく生きるように』と言わせ、霊を認めることを禁じ、イシカミの霊の言葉を封じました」

「私は丸い者です。イシカミです。当時メソポタミアと呼ばれる所では、イシカミが一人ずつ死んでいきました。それでも霊とは話していました。醜いことに、人々はみんなして、死んだイシカミの身体を石のお金（シュメール文字の書かれた石）にしていきました。そして何よりも彼らは、『今さえ良ければいい』と、目先の面白いことだけやって生きていた人々でした。イシカミの霊の言うことを聞く人はいませんでした」

【トルコ】

「トルコのカッパドキアにある地下の都市は、イシカミの身体をくり抜いて作りました。これは、イシカミが死んでからまだ柔らかいうちにくり抜きました。柔らかくて簡単にくり抜くことができたので、あのようにたくさんの部屋ができたのです。小さな人間の子孫が作りました。くり抜いて外に取り出した部分は、雨に打たれて肥沃な土となりました。キノコ型の石は、巨人がイシカミの身体がここにあることを人間に知らせるために作りました。それで、とてもたくさんの人が住み着くようになりました。また、小さな石のピラミッドをどのようにして作ったのかというと、巨人が下から手ですくい上げたのです。

【タイ】

「イシカミはイネに光のエネルギーを当てて、美味しくてたくさん取れるようにしてくれました。タイの山奥に降りたイシカミはオリオンが助けに来てくれるのを首を長くして待っていました。それを表しているのがタイの“首長族”で、現在も首に輪をはめて首を長くしているのです。けれども、その後タイにはオニが降りてきて惨劇が起きました」

ヨーロッパのイシカミ

【ヨーロッパのイシカミ】

「私はヨーロッパのイシカミです。何をお知らせしたいかというと穀物の模様（クロップサークル）は私達の部下のロボットが描いているのです。私が地球に降りてきた時、地球に降りた事をとても後悔しました。それで人間にはあまり何も教えず、残酷なことに、動物を殺して食べることを教えたのです。そのことを悔いて、牛の病気（狂牛病）のウイルスを送ったのです。

アルプスのふもとで、ナチなどの悪いことが始まったのには訳があるのです。ヨーロッパに降りたイシカミは、エベレストを作ったイシカミから高い山を作ることを教えられてアルプスを作りましたが、人間には植物の食べ物は与えず、動物を増やして肉を食べるように教えたからです。獲物を増やして、人間に狩

りをさせました。なぜ狩りをさせたのかというと、当時アルプスを作ったイシカミたちは少し遅れて地球に降りて来たのですが、すでにその頃にはオニのグループも地球に降りていて、オニたちはイシカミが連れて来た人間に入ったのです。それで肉食が始まったのです。だから、ヨーロッパのイシカミ達は、連れて来た人間にこのような食べ物しか与えませんでした。いにしえの物語でした。

ヨーロッパのイシカミはそのことを後悔して、ソラのものたち（のロボットたち）にクロップサークルを作ってもらっているのです。穀物の腰を曲げて穀物を教えてくれたことに対して「お礼」をしているのがヨーロッパのイシカミなのです。穀物の腰を折ってお礼の形をあらわしたのがクロップサークルなのです。小麦を作るようにソラのものに頼んだのは中央アジアのイシカミでした。そしてそれをあちこちのイシカミにテレパシーで知らせたのです。良い物（小麦）があると知ったのは人間でした（人間が穀物をヨーロッパに運んだという事）。ヨーロッパのイシカミはただ山を作っただけでした。それに寒かったのです。ヨーロッパのイシカミはひたすら寝ていましたので、体が固まってしまって地震も起こせないのです。地球さんが、『身体の血の流れが悪いので、地震を起こして』と頼んでも、出来ないのです。クロップサークルがヨーロッパや移民の国カナダで作られるのは、そこのイシカミたちがせめて地球の平和のために何かしたいと真剣に考えて、クロップサークルをソラのものに頼んで作って貰っているのです。人間は、そのイシカミ達の真剣な思いを知らないで、いたずらのサークルを作るのは止めてください。ソラのものは昼も夜もあなた達の行動を見ています。ソラからのメッセージを妨害する事は、地球の平和を妨害する事でもあるのです。ソラたちの真剣な思いの作品を見てください」

【オームトリア】

「私はオームトリア（ヨーロッパのある国）に降りたイシカミです。オームトリアの人も、はるか昔に降りていたイシカミの物語に気づいて欲しいのです。何が言いたいかというと、〝何を醜い〟と思うのかということに気づいて欲しいのです。人間の表面的な姿や形で判断するのではなく、何のために人間として生まれているかに気づいてください。真っ暗なトンネルの中では姿や形は関係ないのです（トンネル内の火事）。白人こそが優秀という観念を捨てて欲しいのです」

■補足説明

『ストーンヘンジ』＝イギリス南西部のソールズベリー平原にある世界的に有名な遺跡で、数十トンもの巨石の柱や横たわる大小の岩の群れがあります。

アフリカのイシカミ

【エジプト】

「シナイ山はイシカミでした。オニに支配された人間があまりにひどい事をするので、大泣きしました。あちこちのイシカミが大泣きしました。それで“ノアの洪水”となったのです。

エジプトは食べ物が豊富だったので、エジプトのイシカミの子孫は何代か続きました。

けれども、引力に引っ張られて歩く事がとても困難でした。それでエジプトにある像は歩こうとする姿なのです。ピラミッドは宇宙からエネルギーを貰うためと、引力を地球から放出するために作りました。（ギザの）ピラミッドは仲間のイシカミが亡くなった後に、その柔らかな身体でおにぎりを作るようにして四角い物を作り、それを積み上げて作ったものです。

また、エジプトのピラミッドは子供のイシカミのお墓でもあるのです。ピラミッドの中に亡くなった小さなイシカミを入れて、お墓のつもりで作りました。ピラミッドの中から砂が出てきましたが、あの砂はいたいけな子供のイシカミの身体なのです。当時私は大人のイシカミで、地球の人のために小麦を作ってあげていました。私は、自分が死んだら自分の身体（の元素）に土になるように言いました。『死んですぐ、まだ柔らかい身体のうちに、細かい砂にして畑にしなさい』と教えたのです。時が経ちすぎ堅くなって岩になるイシカミもいましたが、柔らかいうちなら砂にできたのです。柔らかなイシカミの身体から作ったピラミッドは、積み上げて撫でるとつるつるになり、隙間もなくなりました。けれど雨が降ったらざらざ

らになりました。

ピラミッドの中には部屋があって穴が開いていますが、それは人間に見てもらいたいと思ったからです。小さな人間が見ていたので、人間が中に入れるように、棒を刺してから周りを埋めていき、最後にその棒を抜き取り“入り口”としました。部屋に穴があるのは、空気が入る所がないと人間が窒息して困ると思ったからです。ピラミッドの中に空気が入り、中のイシカミが自然の土に戻るようにしました。また、中にある石棺と言われている入れ物は“イシカミの指輪入れ”なのです。ピラミッドをよく知ろうと思うなら、『これはイシカミが祈りを込めて作った子供のお墓』だと思ってください。そして、なぜエジプトが肥沃な土地かというと、成分の良いイシカミの身体から出来ているからなのです。

スカラベが大きな糞玉を転がす姿がイシカミの姿に似ていたので、エジプトの人はスカラベを神聖視しました。メムノンの巨像がかつて偲び泣いていたというのは、人間がオニに支配され悲惨だったのを、悲しんで泣いたのです」

【アフリカ】

「アフリカに降りたイシカミです。私が降りたアフリカはただただ広くて驚きました。アメリカは“雨が降る大陸”、アフリカは“雨の降らない大陸”という意味です。ここアフリカも醜いオニが支配しました。アフリカのキリマンジャロに仲間の遺体があるのです。何としてもピラミッドを作ろうと高い山にしました。そしていろんな動物を送り込みました」

「アフリカの人が黒いのは、イシカミが地球に降りるその前にイシカミから出たので黒くなったのです。そして黒人は〝なぜ皮膚が黒いのか？〟と思います。そしてその意味を知ると、ソラのものに気づき、人間とソラのものがつながりやすくなります。ムーノイアより先に降りていました。けれど、私たちとつながるように作ったのに、強力なオニの方につながってしまったのです。そしてその人間たちに、意地悪なオニはあらゆる恐怖を与えて楽しみました。まさにあやつり人形にされていたのです」

アメリカ大陸のイシカミ

【アメリカ大陸のイシカミ】

「アメリカに降りたイシカミです。とても辛い事でした。何もない荒野におり、とんでもないことになったと思いました。人間をお腹から出し、子供達を作りました。中米のイシカミがピラミッドを作るというので、私も作ろうと思いましたが、何をするにも疲れてしまい、ピラミッドを作る気がしませんでした。それで途中から落とし物を乗せるだけにしたのです。グランドキャニオンが大きな谷なのは、仲間である南米のイシカミから『高い山を作ってもオニが来た』と聞いたので、反対に深い谷にしようと思ったのです。それで皆で谷を作りました。けれどもオニはやってきました。

本当にいつになったら癒して?もらえるのかと思っていました。一人きりではありませんでした。人間を連れてきました。その人間に似せて作られたのがインディアンです。沢山の岩を作ったり（インディアンに）絵を描かせたりしました。トウモロコシを与えましたが、人間のために何も出来ませんでした。もう生きていたくなかったのです。小さな人間がオニに支配され、悲しく思っていました」

「北米の地上絵は人間を描いたものです。5本の道路のようなものは何を意味するのかというと、人の指は5本あることを表すために描いたのです」

『ハーフドーム』

「どうしても（人間の目を通して）見たかったので降り続けてしまいました。

（ハーフドームが）どうしてあのような形をしているかというと、みんなで考えたのです。イシカミの身体がただ寝ただけでは（エアーズロックのように）決して人間達は気づかないと思いました。そして私達イシカミの苦労はわかってくれないと思ったのです。それでイシカミの身体の半分をよそに運んであのような岩を作っておいたのです。（鏡餅を重ねたような岩があるが、それのこと）」

『アーチーズ国立公園』

「（射手座の女王など）女性は丸い石を作りました。（ご在所岳、ニュージーランド、オーストラリア等）（射手座の）男性は反対の空間で丸をあらわしました。それで落し物を穴の開いた形＝アーチにしておきました。それがアーチの岩です」（アーチ形の岩が１５００もある。）

『ブライスキャニオン国立公園』

「沢山の尖塔は射手座の女王と王女や多くのイシカミが地球に来たことをあらわし、洞窟はイシカミのお腹の中をあらわしています」

【中米】

「私は中米に降りたイシカミです。私は生きていた時からオニにいじめられていました。それでアトランティス人に助けに来て欲しいと頼んだのです。でもオニたち（ウミヘビ）が助けに来てくれたケツァルコアトルを殺してしまいました。それでソラから彗星に来てもらい、大陸の一部を沈没させてもらったのです」

「私はソラのものです。中央アメリカには、たくさんのイシカミが降りたわけではないのです。ピラミッドは、あそこに降りたイシカミが必死で応援を求めるために作ったのに、そこに住み着いた人間の中にオニが入ったのです。そしてイシカミが嫌がったにもかかわらず、あの“魔の時間”を利用したのです。イシカミの子供が作ったピラミッドのひとつに、光が射し込んで駆け上がるように見えるピラミッドがありますが、オニに支配された人間はそれをこともあろうに『蛇が駆け上がる』と信じさせたのです。それでイシカミの子供はとても怒って“大きな星”を招いて陸地を沈めさせたのです。それにより陸は消え、多くの人が死にました。人間も登れるような多くのピラミッドを作ったのに、悪いことにしか使われなかったのでイシカミは怒ったのです。“大きな星”が落ちたことで地軸が傾き、気候の激変が起きました。それまで雨が降っていたアフリカには雨が降らなくなり、アマゾン付近にはたくさん降るようになりました。“大きな星”というのは、かつて火星と木星の間にあった惑星“ルシファー”です」

「私はケツァルコアトルです。私はアトランティス人で、何か人間にお知らせしてあげようと、醜い争いを止めさせたり、おいしい物を作ってあげたりしていました。ところが、そこにオニの部下がやって来て、争いとなったのです。その争いで私は負けました。そして助けに来てくれたウミヘビの舟に乗り、『これで逃げることができた』と思いました。けれどそのウミヘビはオニの部下で、私を水の中に連れ込んだのです。それが一番嫌なことでした。そのことをお知らせするために、ユカタン半島が揺れたのです。ユカタンとは“いにしえの物語”という意味です。一日も早く、このことを人間に知ってもらうために、地球さんにお願いして地震を起こしてもらったのです。これはイシカミからのお願いでした」

【コスタリカの丸石】

「（コスタリカの丸石がどうして出来たか聞くと）どうしてあのように丸いかというと、あれもイシカミの落し物から作ったからです。太陽や地球が丸い事を現しています。ニュージーランドの丸石と同じようにして作りました。以前お知らせしたように、薄い布でやわらかい落し物をおにぎりを作るように作りました。その証拠に一枚の大きな布を残しておきました。宇宙のエネルギーで織ったので、今も残っているのです。星がなぜ丸いかというと、星は渦巻きから作られるからです」

【南米】

「これ（ペルーの４０００ｍの高山から貝の化石が出てきたこと）はイシカミが仲間と一緒に山を作り、その時海の土も山の上に盛り上げたからです。なぜ高い山にしたのかというと、ムーから海を渡ってオニたちが押し寄せて来ると思ったからです。それで山を作って侵入を防ごうと思ったのです。高い山にするのはとても大変でしたが、いつまでたっても人間はそれをわかってくれませんでした。やがてオニが来て人間を支配し、山の上に“マチュピチュ”という町を人々に作らせました。オニが山の上に町を作らせた訳は、『いくらイシカミたちが高い山を作っても、征服してみせる』という見せしめの意味からでした。けれども人間が『山の上で生活をするのは嫌だ』と言ったので、オニに支配された神官に皆谷に降りるように言われ殺されてしまったのです。それで町だけが残り、人はいないのです」

いろいろな所に降りたイシカミ

【北海】

「北海のイシカミです。意味無くして鼻炎を起こしたのではありません。私たちは射手座から降りた途端、水の中に落ちました。それはとても冷たく苦しいものでした。それでも、日本に降りた女王に会いに行こうと、イシカミ達は手をつないで海に降りて行ったので、アリューシャン列島や千島列島などが出来たのです。そして、そこにいる沢山のカニの姿で皆さんにお目にかかっています。もう一度、カニの姿を思い出してください。恋しい射手座への想いをハサミで断ち切っているのです。私達は人間を連れてきませんでしたが、イシカミのお腹に人間を入れてきたことを、カニはお腹に卵を持つことで表しています。そして、地球は3次元のまま、これからも進化しない事を、横歩きで表しています。これからはカニの本当の意味をよく思い起こしてくださいますようお願いします」

【海】

「海に降りたイシカミです。海に降りた時は射手座に帰りたいとそればかり思っていました。それは沢山のイシカミが地球に降りてきましたので、海に降りるしか降りるところがなかったのです。それで一度は海以外の外に出てみたいと思い、噴火していたのです。そして、自分たちに似せた枕石（溶岩が冷えてできる岩）を作っていたのです。なんとしても、人間にイシカミのことを気づいて欲しかったのです。

なぜ太平洋に環火山帯があるかというと、太平洋側に女王や王女や王子が降りたので、何としても女王の元に行こうと、みんなが降りたからです。

また、イシカミは地球が生きていくためにお手伝いをしています。そのことにも人間は気づいてください。どこかでマグマを出さないと、地球はえらくしんどくなるのです。それをイシカミたちが手伝って海の中でしているのです。これはすごく意味があることです。海水の温度が高くなるのは、海底火山の爆発が多く起こるからです。海水に変化が起こらないようにイシカミに意識を向けて欲しいのです。海に降りたイシカミの事を書いてくれてありがとう。いつになったら気づいてくれるかと、いつも仲間と話していました。あまりの悲しさに噴火を繰り返しました。異常高温（＝エルニーニョ）にならないように、お水に頼んでおきます。仲間が珊瑚を作りました。その珊瑚が北上しているのは私たちのお祝いの気持ちなのです」

【寒地】

「いにしえに降りたイシカミです。イシカミがいたことを誰も気付いてくれませんでした。私は寒い所に降りました。あまりの寒さにたちまち凍ってしまいました。それで凍った身体から人間を取り出すまでもなく死んでしまいました。何も知らず、急いで射手座から降りたのです。何故かというと、地球に降りる陸地がないと言われたからです。海に降りたモノもいました。急いで落とし物で子供を作り大きくしました。それはとても急いでしないとできないことでした。人間を入れたまま死んだ者もいるのです」

「射手座の者は地球に降りて来て、肉体を持つことがとても大変なことを学びました。それがたった一つ

の収穫です。それほど地球に降りて生活することは大変でした。けれども、肉体を持つことが大変だということを全宇宙に知らせることができました。地球への移住計画のことは知らせずに、肉体を持つ旅に出ることだけを知らせました。

皆は希望に満ちて地球へやって来ましたが、何も良いことはありませんでした。他のイシカミとテレパシーで話をしましたが、皆でピラミッドを作って地球から脱出しようということしか知らされませんでした。けれどもそれすら行うエネルギーもなく、命が尽きました。

今は射手座の者が人類のためにお手伝いしてきたと聞き、地球に来たことが無駄ではなかったとわかり、うれしく思っています。これでやっとイシカミの気持ちをお伝えすることができました」

【巨石のカタチと意味】

世界各地に残る不思議な形の巨石は、イシカミ達がテレパシーでアイディアを交換しあって作りました。とても自然にはできないような形は、人間たちに気づいてほしくて一生懸命に作ったものなのです。

《ストーンサークル》

「イシカミの丸い姿を、石を丸く並べてまん中に石を立ててあらわしています」

《丸い岩が半分に割れているもの》
「『登り＝登る』です。輪をあらわす丸い石が割れると、真ん中を登ることはできないでしょう？登ることが出来ないと段々離れて生きます。そして争いになる事をあらわしました。『和＝○』が大切ということをあらわしたのです」

《レインボー・ブリッジ》
「ソラの仲間に言われたのです。『イシカミは地球と星をつなぐ役目をする』と。沢山のアーチ（弓形）は、地球は丸いということをあらわそうとしたのです。落し物を丸めただけでは『枯草でさえ風に吹かれて丸くなるのだから、岩も風で丸くなったのだろう』と人間が思い、私たちの事を思ってくれないだろうと。だから、自然には出来ないアーチをがんばって作ったのです」

《何段も重なり小さな塔のようになっている》
「原子が重なり細胞になり、肉体を形作る。または原子が集まり物質化することを表しているのです」

《スリー・シスターズ》
「以前お知らせした射手座（イシカミ）の王女達です。すなわちニュージーランド、オーストラリア、南

極（ユーノイア）に降りたイシカミ達をあらわしました」

《エル・キャピタン》
「私たちの降りた平野はとても広い所でした。この岩は、私たちがいる所の入り口をあらわしているのです」

《ブライス・キャニオン》
「女王と3人の王女、それに沢山のイシカミが射手座から降りてきたことを尖った岩であらわしています。その下の洞窟はイシカミのお腹の中を思い出してもらおうと作りました」

《グランド・キャニオン》
「南アメリカのイシカミが高い山を作って、海（ムーノイアの方）からオニが来るのを防いだので、私たちは深い谷を作ってオニが来るのを防ぎました。けれどやはりだめでした」

《デビルズ・タワー》
「高い塀を作るようにテレパシーで言われましたが、意味がわからなかったので、あのようになりました」

《ストーン・ヘンジ》

「これは変わらぬ真実を伝えています。射手座の者たちが地球の人間を支えているという意味です」

【食べ物と人間の祖先】

「今ようやく記憶が戻りました。私は『イシカミが地球に連れて来てくれた人間』で、イシカミから出てきた巨人でした。連れてきてくれた大きな丸いもの（イシカミ）に包まれて地球に降りてきたのです。大きな丸いもの（イシカミ）とは、テレパシーで話しました。そして言われるままに私は柔らかなもので洞穴を作り、そこに入りました。

私たちの大きな身体では、食べ物がいくらあっても足りませんでした。それで大きな丸いもの（イシカミ）は、このあたりにいた大きなネズミのようなものを食べるように私たちに教えてくれました。それでいくらか元気になりました。大きなネズミたちは私の近くに集まってくれました。ソラのものが集めてくれたのです。それで今も動物達はソラのものに導かれて移動するのです。

私は1人でしたので、もう1人話をする人が欲しいと思いました。離れた所に女の人がいて、仲良くなりました。私と女の人は一緒になり子供が生まれました。子供はすぐ歩きましたがあまり賢くはありませんでした。その子供からは子供は生まれませんでした。そうするうちに私たちに似た小さな人間（原人）が別の所で生まれていました。ソラのものがオランウータンを遺伝子操作して作ったのが原人です。オランウータンは毛があっても雨に濡れて早く死ぬので、家を作ることが出来るようしました。家に入れば毛はいらないと思い、体毛を少なくしました。その原人の脳を更に改良する事で原人は進化していき、今の人間となったのです。

その人間をイシカミが連れて来た人間（巨人）やイシカミの分身（デェダラボッチ）などが、テレパシー

で指導したのです。
その人間は小さくてもよく動くことが出来ました。果物を食べることで育ちました。そして大きくなると、私が食べていた大きなネズミも食べました。
一番人間が喜んだのは、穴に溜まった水を飲むことでした。それで川を作ったのです。山は丸い大きなもの（イシカミ）が集まって作ってくれましたので、がんばって川を作りました。（イシカミが作ったのではなく、巨人が川を作ったという事）それで年中、水が飲めるようになったのです。（この後、山が燃えている夢を筆者は一瞬見る。すると）稲妻が降りて、そのような山火事になりました。その時には私たちは川にいました。しばらく燃えた後、大きなネズミは焼けていました。それで、火で焼くとおいしい事がわかったのです」

「日本史」に関するメッセージ

【日本史のあらすじ】

アトランティスは、アトランティス人と人間との間の子孫“大国主”が幼い頃に滅びました。助かった大国主はイシカミに導かれながら、星の宮が降りたという“日いずる国・日本”に向けて東へ進みました。道中サマルカンドで“ヒミコ”と出会うと、共に日本を目指しました。イシカミたちはテレパシーでお互いの情報を交換し合いながら、時には大国主たちを指導したり運んであげたりして手助けしました。そのおかげで大国主らは無事に日本へとたどり着くことが出来ました。

大国主たちは四国に落ち着き、そこにヤマタイコク（山台国）を築き上げました。イシカミたちから食料を与えてもらったり、生きていくいろいろな知恵を教えてもらいながら平和な生活を送っていましたが、やがてその生活に不満を持つ若者が出てきました。その若者は、大国主とヒミコとの間に生まれた一人息子・タケルノミコトをヤマトへ連れ出し、そこに住む乱暴な“ある者”にヤマタイコクが大きな国であることを知らせました。

ある者はタケルノミコトが持っていた刀を見るや、そのような刀がたくさんあるヤマタイコクを我が物にしようと、若者に案内させました。けれども実際には文字の書かれた紙しかなく、怒ったある者はヤマタイコクを徹底的に焼き滅ぼし、シコク（死国）と命名すると、大国主を出雲へ追い出し、ヒミコを自殺へと追いやり、ヤマタイコクのことを封印しました。そんな中、大国主とヒミコの子である“ヒミコの娘”

だけは、イシカミの声に導かれながら、どうにかイカルガ（何鹿）の星原へと逃れることが出来ました。星原には“星の宮”が降りていたことをイシカミから知らされていたからです。

同じ頃、世界中の巨大なイシカミたちはオニに支配された地球の様子を見て大泣きをし、後に「ノアの洪水」と呼ばれる大洪水を引き起こしました。その洪水により、ある一組のユダヤ人の“ノアの親子”が日本に漂着しました。彼らはイシカミの言葉に導かれて星原へ行き、そこで“ヒミコの娘”と出会いました。“ノアの息子”と“ヒミコの娘”は一緒になり、長男・山彦をもうけました。家族は由良の海辺へ移り住み、砂鉄を取って鉄を作ることにより皆に信頼されました。しばらくすると次男の海彦や女の子も産まれて幸せに暮らしていましたが、そこへ再びある者が襲って来ました。

ノアの息子は捕らえられ、籠舟に乗せられて海に流されました。その後富山に流れ着き、しばらく身を隠した後に戻って来ましたが、大江山で惨殺されました。また、その父・ノアは由良から追い出され、放浪の末、金沢のあたりで「私はモーゼ」（エジプトのモーゼとは違う人物）と言って亡くなりました。

一方、ヒミコの娘は捕らえられてヤマトに連れて行かれ、ある者の子供・ニニギノミコトを身ごもりました。ニニギを産んだ後、いったんは由良に戻りましたが、その後はヤマトには帰らずに隠岐の島に渡って身を隠しました。そこで、やはり逃げてきた大国主と親子の対面を果たし、親子仲良く最期までそこで暮らしました。

彼女の息子の山彦はイカルガの星原に隠れ住み、イシカミに見守られて大きくなりましたが、ユダヤ人の風貌であったために捕らえられ殺されてしまいました。それを嘆いたイシカミの君山は“シガサトの7

不思議”の奇跡を起こしました。一方、弟の海彦の方は、兄・山彦の悪口を言うことにより、ヤマトに守られて生き延びることが出来ました。

どうにか生き残ることが出来た山彦の子孫は、大阪の石切に住む“イスキリ”によって教えを受けて育ち、選挙の形で仁徳天皇となりました。（一寸法師の話しの元となりました。）けれども、仏教を広めようとした小野妹子によって殺されてしまいました。

オニに支配された“時の権力者”は、神社や仏教を利用し、イシカミやヤマタイコクの話し（ソラ物語）を言い伝えることを固く禁じました。それでも人々は民話や和歌に隠して密かに言い伝えようとしましたが、長い年月が経つうちに、ソラ物語は人々の記憶から徐々に忘れ去られていくことになりました。

■補足説明

『ノア』＝イシカミの声を聞くことができる者たちを“ノア”と言い、1人だけでなく何人もいました。ノアの洪水により日本に到着したのは、そのうちの一組の親子。“ノア”とは“何もない”という意味だそうです。

『イスキリ』＝日本へやって来たイエス。情報によるとイエスは十字架に磔にされた後も生き延びて、その後日本へ渡来したそうです。

【大国主】

大国主はとても働き者で、農業の指導をして多くの人々に慕われていました。
ヒミコと一緒にヤマタイコクを築きましたが、ある者に滅ぼされ出雲に追いやられました。
別れる時、ヒミコの髪の毛とヒミコが頭に刺していた櫛を形見として持っていきました。（大国主は泣きながらこのことを伝えてきました。）そしてそれを大切に飾っていましたが、それが“しめ縄”と“鳥居”という形になり、大国主を慕う人たちにより伝えられ大切にされてきました。（本「星からのメッセージ」参照）

「私はアトランティスの女王、アマンティアです。（人間の）双子の一人のミネルバと夫婦になり、3人の子をもうけました。長男の大国主は真面目な子でした。なぜ“大国主”という名前かというと、アトランティスの大きな国を意味しているからです」
「私は大国主です。今で言うサントリーニ島にいました。大きな地震が起きて島が沈み、私の母は生き埋めになって死にました。死んだ母から離れるのをいやがる私を、お供の者が連れ出しました。
海に囲まれた陸地・日本列島は、オニに支配されるとわかったイシカミ達が、オニに支配されないように大陸から離れた島を作ってくれていました。その日本の“星原”という場所に宇宙の神＝星の宮が祭ってあると聞き、イシカミに助けられながら私はそこを目指しました。
マナがあったので食べ物には困りませんでした。そして、サマルカンドでヒミコと一緒になりました。日

本に着くと、イシカミの身体を少しだけ切って石の家を作り、皆で仲良く暮らしました。イシカミの身体は次第に固まっていきました。イシカミは“これで終わりです”と言いました。明るい柿色だったイシカミの体は暗い梨色に変わってゆき、命が亡くなりました。

しばらくすると大粒の雨が降ってきて　イシカミが泣いているのが解りました。私たちも泣きました。そしてイシカミの身体が溶けて砂のようになっていくのを見たヒミコは、それを“高砂”と名付け、歌を作りました。

私たちはイシカミのことを後世に伝えねばと思い、ヒミコは文字を考え、そのことを書き記したのです」

「私はチベットのイシカミです。ある時人間の臭いがしたので見てみると、仲間のイシカミが人間を手の平に乗せて運んでいました。何もない砂漠を何人かのイシカミで、人間が寝ている間にそーっと土ごとすくって運び、海のそばに置いてやりました。土を取ったところは大きな湖になりました。現在は砂に埋まっているので湖はありませんが・・・。

イシカミは途中マナが生えていたので食べていましたが、やがて皆死に絶えました。

人間が何とか海にたどり着けたので、四国のイシカミにもテレパシーで連絡しました」

「大国主はとても働き者で、田の作り方を考えた人でした。ヨシ（葦・植物）の仲間が水の中では元気だったことから、田に水を溜めて稲を植えると良いと考えました。そして水の中に植えておくと、夏の暑い時でも枯れずにすみました。こうしてお米がたくさん採れるようになったのです。当時はお米のことを“米”とは言わずに“イネ”と言っていました。“イ”とは、イノル（祈る）と与えられたとても貴重

なものという意味で“ネ”はネ（根）が乾かないようにという意味で名付けました。お米は、食べ物をイシカミに頼んでいたら自然に生えてきました。そしてその種を増やしていくとたくさん採れるようになりました。いろいろなことは全部イシカミが教えてくれました。それで大国主たちはイシカミの遺体の山や、落とし物の巨石を神と思うようになったのです」

■補足説明

『マナ』＝　かつてキノコのように地上に生えていた、粘菌が増殖したもので、わらび餅のようなおいしい食べ物だったそうです。これは射手座の者が作り、地球に送ったそうです。

【ヒミコ】

ヒミコはイシカミと会話が出来、イシカミからいろいろなことを教えてもらっていました。

ヒミコは文字・織物・紙や墨まで作ったので、人々がそれらのことを教えてもらうために、彼女の周りに集まってきたようです。とても平和に暮らしていたのに、息子は誘拐され、ある者の襲撃によりヒミコは入れ墨を入れられ、大国主と別れさせられます。娘は何とか逃がすことが出来るも、ヒミコは生きる希望をなくし、密かに逃げ出し、土柱の洞窟の中で喉をついて自殺したと知らせてきました。

「いにしえに生きたヒミコの名前の由来です。ヒミコのヒは太陽の日ではなく、釜戸（かまど）から火が吹き出ている形をあらわしたもので、ミは“見る”、コはコドモを生むところがある人＝女性、つまり“かまどの火を見る女性”から言われるようになりました。それまでは存在しなかった“かまど”を作り、土で作った壺を使って、その上で煮炊きをするようになりました。そしてそれらの学びの言葉として、私が『ホツマツタエ』を作りました。これは女性の皆さんにお伝えしようと思って書いたものなのです。雨が降ると、イシカミの山のように大きな身体から一部が溶けて流れてきたので、それを私は“たかすな（高砂）＝すなわち高い所から流れ落ちる砂”と呼んでいました。『たかすなや　惜しまれながらいきしかた　そのすなを　いのちにかえます』今思い出すのは、そのように歌ったことです。そのイシカミはテレパシーで何でも親切に教えてくれました。そのイシカミの教えてくれたことを伝えたかったので『ホツマツタエ』を書きました」

「ヒミコに漢字を習うために、ヤマタイコクまでやって来た人がいました。漢字一文字の人（＝チンさん？）でした。けれども、漢字があまりにたくさんあるので、嫌になって帰ってしまいました。彼はヤマタイコクで漢字の大元を教えてもらい、それを中国に帰って伝えました。そして、それを基に新たに多くの漢字を作りました。ヤマタイコクよりも自分の国の方が大きかったため、ヤマタイコクを“邪馬台国”という文字で侮辱して書きました」

「古文に出てくる卑弥呼は）私ではありません。古文に出てくる人は、霊の言葉が聞こえた（チャネラーだった？）私の名前を真似た人です。戦争が好きなオニに支配されていた人でした。（魏志倭人伝を見

て）あの様に沢山の文字が書かれているのを見て、ただただ驚きました。“一つ一つの文字は意味を考えて作ったので、それを重ねていくといくらでも文字が作れますよ”と私は中国の人に教えました。魏という字を見て驚きました。“イナホノ女”は私のことなのに、横にオニがついているからです。鬼とは、田が人間のように自分で考えイネを作ると思っている人（＝田が勝手にイネを作ってくれると思っている人＝農業が嫌な怠け者）という意味で作った文字でした。私がいた頃は、隣の国の人とあの様な争いはありませんでした。最後は悲しいことになりましたが・・・」

「文字はヒミコが考え、墨も作りました。なぜ黒い棒にしたかというと、イシカミに知らされたのです。家の中で火を燃やすとススが沢山できるので、それを沢山集めて粘土とこね合わせ、乾燥させなさいと。それを書き残しました」

「息子のタケルノミコトはある時、君（大国主）に君の刀を貸してくれるように頼みました。君が『大切な物だからいけない』と言うと、『今度だけだから』と何回も言いましたので、優しい君は大切な刀を渡したのです。ところが次の日の朝、息子はある若者に刀を突きつけられて連れて行かれたのです。『お母さん怖いよー！』と泣き叫びながら。それまで私たちは本当に親子仲良く暮らしていました。家族はこのように良いものだと思ったので、一つの家族として暮らす結婚制度を作ろうと思ったのです。けれども、オニに入られた若者は、快楽だけを求めるようになってしまい、それでヤマトにヤマタイコクを売ったのです」

「ヒミコです。ここ（徳島県神山町）で捕まえられました。そして奴隷として舟に乗せられる前に再び逃げ出し、土柱の洞窟で自殺をしました。（今は洞窟はない）
（著者が以前“土柱の上で飛んで跳ねている夢”を見たのは、死んで自由になれたのでうれしかったので知らせたそうです。）」

「（土柱は）イシカミが吉野川の河原の石を持ってきて積み上げました。なぜ土柱になるかというと、将来ここでヒミコが自殺をする事がわかっていたので、ヒミコの墓標をあらわすように、（土の元素に）立った姿になってほしいと頼んだのです」

■補足説明

『ヤマタイコク』＝丸いイシカミの身体は地上に降りると平らな台地になり、そこにヤマタイコクが作られましたが、長い年月雨などに浸食され険しい山となりました。当時は九州と四国が陸続きで、ヤマタイコクは四国に作ったそうです。また、現在では漢字で“邪馬台国”と記述されますが、本来は山の台地に国を作ったことから“山台国”と記されるのだそうです。

『白い木の者』＝白い木とは稲妻のことで、はるか昔に星の宮が地球を掃除するために、稲妻となって地球に降りて来ました。白い木の者とは、“ソラ物語を伝える者”という意味のようです。

【タケルノミコト・ニニギノミコト】

タケルノミコト（以下タケル）は大国主とヒミコの子供で、ヤマタイコクで幸せに暮らしていましたが、ヤマタイコクの若者の裏切りにより、幼い頃にヤマトの“ある者”の所に連れていかれました。そこで、ある者の妹であるアツタ・ウネメ姉妹に可愛がられて育ちました。ニニギノミコト（以下ニニギ）は、ある者”と、彼に誘拐された“ヒミコの娘”との間に出来た子供で、タケルとは兄弟のようにして育ちました。ある時、ある者は「出雲の国が黄泉の入り口と言われるのは、イソナ（朝鮮）の8人の霊が乗り移っているからだ。その8人を殺せ」と、タケルに命令しました。タケルはアツタが預かっていた、父である大国主命の形見の刀を持って出雲へ行き、その8人のイソナの使者を殺しました。ところがタケルが帰って来ると、ある者は彼に「実はその8人はお前の実の父の家来であったのだ」と告げました。その事実を知らされたタケルは激しく絶望し、イシカタヤマ（猿投山）の山頂に行き、自殺しました。ある者は、タケルに祟られると困ると思い、タケルのために猿投神社を造り、また、殺された大国主の部下8人を神として奉る八柱神社も造りました。

一方ニニギは、イシカミの物語を乳母から聞いて育ったことや、タケルが自殺したことなどにより、実の父であるある者に不信感を抱くようになりました。そんな折り、ニニギが石物語を話していたことを、何者かがある者に告げ口したことにより、ニニギはある者の命令でイソナ（朝鮮）へお詫びに行かされることになりました。

当時は中国がイソナを支配していたため、彼は中国の人と会い、そこで倭の印を作ってもらって持ち帰ろ

うとしましたが、途中の志賀島で悪代官にその印を取り上げられてしまいました。しかしなんとか命は助けてもらい、ヤマトへ帰ることが出来ました。
その頃、ニニギをイソナに行かせたことで、彼の恋人であったウネメはある者に強く抗議しましたが、ある者により彼女は股を刺されて殺されてしまいました。イソナから帰って来たニニギは、ウネメが殺されたことに抗議しましたが、今度は西の方へと戦いに行かされることになりました。彼はウネメを愛していたので妻は娶らず、生涯子供を作らずに一生を終えました。
またニニギは、ノアの息子へのお詫びの気持ちからか、自分が死んだ後はノアの息子と同じ所に葬るよう部下の者に頼みました。そしてニニギが死んだ後、ノアの息子の一部が葬られていたイセに葬られました。

■補足説明

『ニニギノミコトの乳母』＝彼女はニニギノミコトに石物語をしたため、股を刺されて殺されました。それで“天橋立の股覗き”の風習が始まったそうです。

『猿投神社』＝現在、愛知県豊田市の北端にそびえる猿投山の麓にあります。

【ある者】

“ある者”とはヤマトの国を作った王で、小さな国だけでは満足せず、次第に領土を広げていき、ヤマタイコクを跡形もなく滅ぼしました。またその後、ヒミコの娘を連れ去り、ニニギを産ませました。彼は大変気性が荒く、逆らう者はすべて滅ぼし、さらには様々な神を作り出してイシカミに関する話を封印するなど、当時ありとあらゆる悪事の限りを尽くしたそうです。

「陰湿な人殺しの計画がなされていました。“ある者”は、ヤマタイコクに行けば、タケルが父から借りた刀“草薙の剣”がたくさんあると思い、ヤマタイコクを攻めたのですが、そこに刀はありませんでした。それで案内した若者を殺したのです。そして仕方なくヒミコが大切にしていた文字の書かれた紙を持って帰ったのです」

「我はいにしえの王と呼ばれた“ある者”なり。オニに支配され、ひどいことをしてきた。また、近親相姦の罪も犯したのだ。今思い出すと苦しくなる。真実の話を世に出す手伝いをすることで、これまでの罪を許して欲しい。妹のアツタは他の者よりなまめかしく美しかった。また妹はやさしくて、ヤマタイコクから連れて来られた大国主の子供・タケルを育ててくれた。私は妹に言われて、大国主の刀は形見として彼に渡した。しかし本当はその刀がとても欲しかった。代わりにそれに似せて作った刀と勾玉や水晶を宝とした」

「イシカミの話を封じた“ある者”の娘、ヤマト姫のお話です。彼女は、ニニギの腹違いのお姉さんで

した。彼女は一つの国をもらうと階級制を作りました。とても気が短く、オニに支配され、オニの声の聞こえるままに、何でも豪華で大きなものを作らせては自分の権力を誇示していました。その上、彼女はイシカミを理解できない人でもありました。イシカミが気持ち悪いと皆に思わせるために、あらゆる作り話をしていたのです。そしてイシカミについて話すことを全て止めさせたのです。いつの間にかそれが日本中に広まりました」

【ヒミコの娘】

「私はヒミコの娘です。とても若い時のことを思い出しました。ある時、私たちはイシ（ストーンサークル）のもとに行くように言われ、星原へ行きました。そこで一人のお髭を生やしたヤソ（外国人）の若者“ノアの息子”と出会いました。彼は、彼の父親や多くの仲間と一緒に来ていました。そして肩から提げた大きなものから、固いお餅のような食べ物を出してきてくれました。それを見てお供の者が“イシのおかげだ”と言いました。私とお供の者たちと数人のヤマタイコクの者たちは、そのヤソの人と一緒に星原から海へと向かって行きました。ヤソの人はとても親切で力持ちでした。イシカミが私たちを結びつけてくれたのです。山を越え海に出ると、人々は皆歓迎してくれました。ヤマタイコクにも大きな家はありましたが、ヤソの人のお家はまるでお城のように大きくて広く、眠るにはとても良い所でした。私と君（ノアの息子）はそこで幸せに暮らしていましたが、ある時、私は“ある者”に襲われました。以前に、君は私に護身用の刀をくれ、戦いかたを教えてくれていましたので“ある者”の追っ手が来た

ときも、彼らは私を取り押さえることができなかったのです。でも彼らは漁師の網で私を捕らえてしまったのです。（アミダ如来の言葉の始まり）

私は連れて行かれる道中に白い藤の花を見て、これを君（ノアの息子）と思い胸に入れて持って行きました」

「私が囚われている間、小さかった子供達と離れて暮らさなければならなかったので、きれいな石を子供達と思って手に握っていたのです。するとあの形＝勾玉の石になっていたのです。母が子を思い悲しむ心が、石をあのような形にしていきました。それでその石を首にかけていたのです」

「その後、ある者との間に子供（ニニギノミコト）が生まれたので、ある者は私を由良に行かせてくれました。けれども息子の山彦と海彦は行方不明で、娘はふぐを食べて自殺していました。それで私はヤマトへ帰らずにそこで自殺をしようとしましたが、それをスセリ姫が見て、彼女が私の身代わりでヤマトへ行ってくれたのです。彼女は三輪山のイシカミの元で亡くなりました。私は身を投げて自殺しようとしましたが、仲間の者が船に乗せてくれて隠岐島まで運んでくれました」

「隠岐の島にはどこかの子供がいて、私を物珍しそうに見ていました。私は何かしてあげることが私の子供への罪滅ぼしと思いました。島の人は数人だけでしたが、イカがおいしかったのを覚えています。当時、南からいろんなものが流れて来ましたが、南の島で大きな地震があったと聞きました。またそこには、当時から交流のあった出雲の人がよく来てくれました。お父さん（大国主）も来てくれて、仲良く一緒に暮らしました。お父さんはヨミの国に行ったと言われていたのです。私は、自分が死んだら隠岐島に葬って

欲しいと頼みました。お父さんもそこに葬られました。これがヒミコの娘の物語です」

「私はヒミコの娘です。ノアの息子は唯一人愛した人でした。私は彼のことを“君（きみ）”と呼んでいました。それで“キミ村”と呼んだのです」

「ヒミコの娘です。私は君と仲良く2人で海を自由に泳ぎたいと思い、お願いしていました。（以前イカは理想の生き方だと知らされていた）君（ノアの息子）の悲しい最後を見届けて、私はヤマトへ連れて行かれました。途中で白藤を胸に抱いて行きました。私が恋した君は、それは優しい人でした。別れるのを嫌がり、釣られたら一緒に釣ってもらうタルイカは、私たちの思いをあらわしています」

隠岐の島は、大国主と娘の由良ヒメ（＝ヒミコの娘）がそこに逃げて一緒に暮らしたと知らされた島です。本当に「由良比女神社」があり、イカよせの浜もあることが解りました。タルイカは夫婦で行動し、片方が釣れると必ずもう一つも引っかかってくるそうです。

■補足説明

『白い藤』＝由良から京都に向かう道中の有路に、天然記念物の藤の巨木があり、現在は紫ですがかつては白藤でした。天皇が昔通ったと記録があります。また、近くのシガサトには藤波神社があり、白藤は次第に紫に変わっていっています。

【ノアの息子】

「悲しみの物語です。私はノアの息子です。私たちはとても幸せに暮らしていました。子供も生まれ、私の父は言葉こそ話せませんでしたが、真面目に仕事をしていました。また　私のところには多くの人がオノの作り方を聞きに来ました。でもある時、何も悪いことをしていないのに、突然大勢の軍隊が私を襲ってきました。わたしは何も悪いことをしていないので、戦いませんでした。それで私は真っ先に捕まりました。それを見ていたヒミコの娘は、仲間のオノを持ち“私の夫を返して！”と敵に切りかかっていきました。悲しいことに仲間は殺されてしまい、その時の様子を女性や子供が見ていました。また、言葉の話せない父をひどい目に合わせ、追い出していました。私は捕らえられて籠に入れられたまま、とてつもなく小さな船に乗せられ、流されたのです。私はなぜ襲われたのか、なぜ船に乗せられたのか、未だに解らないのです。その後、私はなんとか籠から抜け出して、通りかかった船に助けられました。何をお知らせしたいのかというと、これまで仲間の者が応援してくれていたことです。そして“藤祭り”や“剣の舞”や“股覗き”をすることで、私たちの思いを代々伝えてくれていることです」

なお、ノアの親子の霊はその後封印されていましたが、『ウシトラノコンジン』として近年、大本教の教祖である出口ナオに降りたそうです。

■補足説明

『藤祭り・剣の舞』＝元伊勢（籠神社）で藤祭り・巫女の剣の舞が伝えられています。

『天橋立の股覗き』＝真名井神社の近くにある松林の砂州を、股の間から覗いてみると空と海がつながって、神が降りてくると伝えられている。それはノアの息子とヒミコの悲劇を伝えています。

『ノア』＝父親のノアは由良で追放されて放浪の末、金沢のあたりで乞食と間違えられ篭に入れられ亡くなったそうです。日本語が話せなくて、自分のことを“モーゼ”とだけ言ったそうです。現在、石川県押水町には『モーゼの墓』がありますが、彼はエジプトのモーゼとは別人で、その人の名前をもらっていたそうです。

【山彦・海彦】

「山彦です。私が“ヒミコの娘”と“ノアの息子”の最初の子供でした。そして、いつもシロヤマ（君山）のイシカミと話をしていました。それは他の人間には聞こえず、私だけに（テレパシーで）話してくれたようです。そして、そのことを知った人が次第に集まって来ました」

「瞳の色の違う者でした。私が山彦と呼ばれた者です。私は叔母と仲良く星原で暮らしていました。叔母は結婚していましたが、私をとても大切に育ててくれました。私たちは、命の水がわき出るところに住んでいました。そこでは当時行われていた意味のない入れ墨をしないようにしました。そこは山奥なので他人には知られなかったからです」

「私は“みなつきさん”という祭りに行きました。それは由良川のほとりにある小さな村で行われていて、そこでは海の物と山の物が交換されていました。“みなつきさん”とは“湊の人が着いたよ”という意味で、湊の人がお塩や海の幸を持って来てくれて、山の物と交換していました」

「私がいた時は、イカルガ（綾部）のキミ村は栄えていて、私は頼まれて“オサ”（長）になりましたが、それを快く思わない者がヤマトから制圧に来たのです。私は星原に戻りましたが、沢山の人が刀を持ってやって来ました。私は叔母や叔父と一緒に山を越え、隣のシガサトの村に逃げましたが、そこで殺されました。そして私たちの遺体が置かれたところに神社が建てられ、家の土地は取り上げられたのです。権力者は祟られるのを怖れて離れた所に神社を建て、ヒヤソ踊りをさせたのです。“ヒヤソ”とは、“ヒミコの娘”のヒと、“ヤソ”（外国人）の子供という意味です。ヒヤソ踊りの竹は刀で刺し殺したことを

あらわし、自然と星の宮神社を忘れるようにしたのです。私が殺されたため、それを見ていた君山はシガサトの7不思議をおこしました。私は殺されたけれど、星述べをしていた子孫には生き延びた者もいました。長い年月の後その子孫が都に行って、イスキリの元で大きくなりました。それが一寸法師の物語でした」

「山ヒコという名前は、山に住んだヒミコの娘の子供という意味でした。私が星原に住んでいた理由はシロヤマ＝キミ山とお話しができたからです。いつもキミ山に登っていました。私は大きくなると父親（ノアの息子）に似た風貌になりました。周囲の人は父親と同じ運命になるかもしれないから気をつけろと言っていましたが、その後、本当に容貌が似ているというだけで殺されました」

「私は山彦の弟の海彦で、海のそばに住んでいました。私は星原が好きでした。なぜなら、兄がいつも私と仲良くしてくれたからです。不思議なことに、兄が腰掛けるところにはキノコが生えてきました。また、そこには小さなグミの実や着る物になる布がたくさんありました。兄はとても働き者で、いつも私を歓迎してくれました。私には父も母もいなかったので、生活に追われていました。でも兄のことが忘れられなくて、生きて行くための何よりの心の支えでした。私は兄が大好きでした。それから兄は殺されたのです。それはなぜかというと、兄は父に似て瞳が他の人と違ったからです。そしてとても大きな人でした。私は父に似ていなかったので、殺されずにすんだのです。私のところに都の者が来て“兄が意地悪だったと言え！”と言われました。そうでないと、父のように籠に入れて海に出すぞと脅されたので、私は言われるままに言いました。でも今になって後悔しています(海彦・山彦の物語になる)」

「海彦はとても親切な人でした。そしていつも山彦を頼っていました。その山彦が殺されたので、他人で権力のある“ある者”に従ったのです」

「君山になったイシカミからお知らせします。ある日、山の向こうから大勢の人が星の宮を目がけてやって来ました。そしてその地を血に染めたのです。それは悲惨な光景でした。山彦は山を越えて逃げましたが、殺されてしまいました。シガサトでの山彦の最期を見て、私も何かお知らせをしなくてはと思いました。私には未来の様子が見えました。それで『シガサトの七不思議』を作ったのです。シガサトの七不思議は、山彦の死を痛んだイシカミ（君山）が奇跡を見せるために作りました。いつか人間がその意味を解ってくれるだろうと思い、これまで待っていました私は君山を頭と考え、別の山を君尾山と名付けました。なぜなら、ヤマトの者に君山を見つけられないようにするためでした。君山の山頂にあるわずかな石が私の落とし物なのです」

「忘れられない人と言えば、それは山彦です。彼とはいつもお話していました。そしてミナツキサン（綾部の夏祭り）の時には、海彦と楽しく過ごしました。山彦が山に入るといつもキノコが生えてきました。それが椎茸でした。君山は大好きな山彦が殺されたことを嘆いて、赤い豆＝小豆を作りました。そして真実が隠されたことをあらわすために黒豆も作りました。（丹波名産）」

■補足説明

『シロヤマ＝君山』　＝ジョウヤマと呼ばれ 旧イカルガ群キミ村（現在の京都府綾部市吉美）にある山。

『ヒヤソ踊り』＝キミ村には、“ヤソ、ヤソ、ヤソ”とかけ声をかけながら、“ササラ”と呼ばれる首にかけた12本の竹を肩に上げていく踊りが伝えられていて、村祭りの時に男の子が集まって踊るそうです。

『みなつきさん』＝現在、綾部で夏に行われる「水無月まつり」として伝えられているそうです。

『イスキリ』＝日本へ渡って来たイエス。「イエス・世界史編」参照。

現在は『志賀の七不思議』として言い伝えられている、君山の起こしたシガサトの七不思議とは、次の七つのことだそうです。『タケノコさん』『ミョウガさん』という神事は、現在も伝えられています。

1　藤の花を白い色にした。
2　萩の花を白くして、冬に咲かせた。
3　雨が降らないのに、松から雫が落ちた。
4　風が吹かないのに、松が揺れた。
5　2月4日にタケノコが出た。
6　2月3日にミョウガが出た。
7　柿を、正月にならないと食べられない“ご用柿”にした。

【出雲の歴史】

「惜しまれて亡くなった大国主の部下の者です。ソラのものから力を貰った人間・コトシロヌシが、ヤマトに対抗するために出雲に巨大建築を造りました。コトシロヌシが城（シロ）を造ってくれたのです。コトシロヌシは沖縄のイシカミの子孫で、鉄の金輪を作ってくれました。昔、沢山作られた鉄は、波打ち際の砂を焼いて集めました。コトシロヌシは出雲の言葉はしゃべれませんでしたが、なんとか思いを伝えることは出来、ただ『南から流れてきた』と言いました。それで出雲の人たちは、南から流れてくるもの（ウミヘビ）をコトシロヌシと同じとみなし、神さまと思いました。

巨大建築を造るため、多くの豪族がお金を出し、多くの人々が手伝ってくれました。けれども建物を建てた後、そこの人間達にもオニは入り、戦いばかりするようになったので、イシカミが怒って地震を起こしたのです。

宍道湖は、日本海の海が荒れても魚が捕れるようにイシカミが作ってくれました。イシカミは、人間が1年中厳しい外仕事をせずとも半年はゆっくりと家の中で過ごせば良いと思いました。それで、イシカミたちは冬をつくり、雪というモノをソラのものに頼んで降らせてもらいました。雪が降ると土を浄化するため、土の原子が喜び、美味しいお米がとれるからです。

そしてまた次の年に、浄化した土で作物を作れば良いと思ったのでした。

当時の人間はいつも暖かな家と食べ物があって、お金持ちにならなくても幸せでした。今の人以上に感謝して食べ物を食べていましたから、元気で力もありました」

「お知らせします。出雲の巨大建築は、大国主を信じる私たちが建てました。意地悪なヤマトに対抗するため、多くの船乗り達が応援してくれました。食べ物に困らないように「田」を考えてくれたのは大国主なのに、ヤマトは自分勝手な神を作り、それを国民に押しつけて意識を他に向けさせたのです。それで「田」の形の柱を持つ神殿を建てて、建物でそのことを伝え残そうと思ったのです。建物は人が住むのではなく、神となった大国主の為に造った飾りです。それは火を燃やして灯台の役目もしていました。昔は今以上に舟を作っていました。だから建物を造る手伝いも出来ました。当時は大きな舟でなく小さな舟で、風を上手に利用して遠くまでいきました」

【イスキリと仁徳天皇】

イスキリとはエルサレムで磔になりながら生き延び、密かに日本に逃げてきたイエスの日本での名前です。

イスキリはオニの支配から逃れ東北に着きましたが、病気を治したり石切の技術が優れていたため人々に尊敬され，こわれるままに南下し大坂に落ち着いていました。ある時イスキリは“ヒミコの娘”のことや、彼女が瞳の色の違う人（ノアの息子）と一緒だったこと、その人の頭がイセにあることを聞きました。又星ノベの子孫が星原にいることも知りました。それで何とかその子孫を自分の所に呼び寄せ守ってあげたいと思い、連れてきてもらうように人に頼みました。

「私は仁徳です。これは私が大坂にいたイスキリの所へ行き、後に天皇になった物語です。私が小さな子

供の時のことです。ヒト買いが（イスキリの元へ）連れて行ってくれました。それが『一寸法師』の話なのです。何事も感謝することに心がけ、皆と仕事をする時にはいつもイスキリの言葉を思い出し、沢山のことを学びました。それで私は選挙で選ばれたのだと思います。“打ち出の小槌”とは選挙のことなのです。皆の助けで国は栄えました。ところがその後、散歩に出かけた時に小野妹子に殺されたのです。私は生前から、死んだらお墓をオーム（Ω）の文字の形にしてほしいと言っていました。それで私のお墓をあのような形にしてくれたのです。皆に感謝します。これは仲間のおかげなのです。そしてお墓もです。あれほど大きなものとは思ってもいませんでした。身に余る光栄でした」

「仁徳天皇は、イスキリが亡くなってからすぐに天皇になりました。お墓は死後、仏教に反対する有力者によって作られました。その後長い間、仏教とイシカミを信じる者との間に争いがあり、ついに射手座のイシカミが負けたのです。信じないと地獄へ堕ちると脅していた仏教が勝ち、日本中に広まっていきました。そのことにより歴史が書き換えられ、年代をわからないようにさせられたのです。イシカミを崇めないように、新しく神社を作っていきました。そして仏教と神社は仲良く共存・利用し、イシカミのことを隠していったのです」

「イスキリからお知らせされたことを何としても伝えようと皆で話しました。覚えているのは、生きている間に人に優しくしておくと、人間として生まれ変わらなくてもよく、死んだ後は天国へ行けるということでした。当時は文字を書くと蛇になる（蛇文字）と言われていましたが、密かに違う文字で記録をしておきました。皆にわかるような文字がいけないのなら形にして残そうと思いました。それで仁徳天皇の墓

をあの形（ロ）にしたのです。これは仁徳天皇に仕えた者たちが最初にそうしてくれました」

「私は小野のイモコと言われた者です。あなた方は私をとても立派な人だと思っていますが、そうではありませんでした。私は仏教を広めるためにイシの学びを止めさせ、妬んでいた仁徳天皇を亡き者にしたのです。このことを知らせるように言われました」

「仁徳天皇の御代は、イスキリの教えを広めて皆で仲良く暮らしていました。また、いにしえの人“ヒミコの娘”の悲しみを歌に託して慰めていました。けれど、イシカミを奉ろうとしたことで、当時仏教を広めようとした者から反感をかったのです。なぜなら、当時人間を支配する星の霊（オニ）の力はとても強く、多くの権力者にオニたちが乗り移り、おもしろおかしく彼らにお知らせをし、都を作り替えさせ、大きな像も作らせました。オニたちを気に入らない者は邪魔者扱いされ、色んな修業をさせられました」

【大化改新と聖徳太子】

「新しい文化が入ってくると、すぐにこれまでのものを拒否しました。それが『大化改新』です。仏教を取り入れ、イシカミの言い伝えはおかしいと言って全て消したのです。それから争いになり、それまであったストーンサークルも壊されました。また地獄絵を取り入れて、言うことを聞かないと地獄へ行くと脅し、戦いに備え搾取を始めました。その方法は中国から学んだのです。当時は何が真実かを見極めることが難しかったのです。それまでは自由に暮らしていたのに、大化改新により、農民は強制的に作物を作らせられ、出来た作物は取り上げられ、家族もバラバラにさせられ、働く若者は村から連れて行かれました。

文化の発展だけが良いわけではないのです。他人の血と汗の結晶により作られた建物は立派でもなんでもないのです。仲良く暮らしていた時代が天国でした」

「当時、隣の国・朝鮮の者はヤマタイコクの時と違ってオニに入られ、内戦により自分たちの国を戦いで滅ぼし、日本の国をも占領しようとしていました。日本の人たちは、言うことを聞かないと攻めて行くと脅かされたので、朝鮮の言うままに仏教を取り入れたのです。そして朝鮮の人は日本国民から税金を取り上げ、自分たちの思いのままの部下にしました。聖徳太子は名のある星に支配されていましたので、未来の出来事が予言できました。それで朝鮮のお気に入りになったのです。なぜ聖徳太子が殺されたのかというと、彼は頭は切れる人でしたが、専制政治をするために憲法の原案を考え、仏教にばかりお金を使いましたので、反対派に殺されました。一方、選挙で決められたのは仁徳天皇でした。それから和歌集が作られましたが、仁徳天皇は小野妹子に殺されました」

「聖徳太子です。私はプレアデスに支配されました。毎晩聞こえた彼らの声を書いたものが予言書なのです。当時は、天の声が聞こえる者がとても大切にされました。知らされるままに信じ、様々なことを決める際に彼らから詳しく教えられましたので“聖徳太子”と呼ばれるようになったのです。私はシロガネダイに生まれましたが、父親は馬やどの使用人で、母親はお妃（＝後のスイコ天皇）でした。私は大切に育てられましたが、陰では私は“馬やどの王子”と呼ばれ、生き地獄を味わいました。それで私は真実を知りたいと、父親に会いに行きました。すると父親は信じられないことに“めしい”だったのです。気性の激しい母親は、家来たちが私の事を“馬やどの王子”と言っているのを聞いて、家来に命じて父

親の目をつぶしたのです。父を哀れに思った私は母を憎み続け、石にかじりついてでも成功しようと思いました。

仏教の教えに従い断食をし、その時にプレアデスに入られ、未来のことがわかるようになりました。私がなぜ若くして死んだかというと、超能力をもらうためにプレアデスに自分の命を売ったからです。私は大勢の声を同時に聞き分けたと言われていますが、実はほとんどわからず、わかったフリをしていただけなのです。私は単に人当たりが良かっただけだと、今でも霊たちに皮肉を言われています」

「物部守屋です。推古天皇と家来の間に出来た子供が聖徳太子で、ウマヤドノミコと呼ばれていました。生意気で陰険な人でした。シリウスにもプレアデスにも可愛がられたので、あの法隆寺を建てるための指導が出来たのです。聖徳太子は国の経済を省みず、次々と工事をしたため、多くのお金が要りました。それらを民衆から絞り上げていたので、皆から嫌われていました。殺したのは普通の民衆でした」

「聖徳太子は憲法を作りました。それは一部の特権階級の人には都合のいい憲法でしたが、一般民衆は悲惨の極みを味わいました。ヒミコがスミレは祈る姿を現しているので紫色が高貴な色と言っていたそうなので、彼はこの色を最高として、色により階級制度を作っていったのです。彼が、いわば一番イシカミ（射手座）を隠した張本人なのです。食べ物を与えてくれたイシカミを信じていた民衆に、言う事を聞かないと地獄へ行くと脅かしたのです。そしてオニの星の力によりあらゆる奇跡を起こしたので、民衆も次第に言う事を聞くようになっていったのです」

【物部氏】

「山彦が殺された事を隣の村の者は隠れて小さな声で語り伝えました。それでその村は“小呂”と言い、呂とはまさに口から口に語り伝えるという意味です。その小呂の峠を通り抜けたところが“白道路＝ハソウジ”と呼ばれています。

それは白い木の者が掃除された所＝討伐された所という意味です。そこを通って、この物語は物部村に伝えられました。物部村から出た人が都で星の宮とイシカミの物語を伝えてくれたのです。それが物部氏です」

「あの丘（綾部の私市丸山古墳）の上にいる者で、物部の守屋なり。物部の守屋＝モノベノモリヤとは、“矢でもって（星述べを）お守りする”という意味で名乗りました。物部の守屋は蘇我氏の一族、厩戸の皇子から追われました。星述べの子孫であるいたいけな子どもも私と一緒に居ましたので、その子を守るために星の宮を目指したのです。極少ない人数で、人目を惑わすために僧侶の身なりをして逃げました。道中サンカに助けてもらいましたが、イシカミの山で捕まりました。（春日富士）

私は殺されましたが、連れていかれたのは身代わりの人で、私の遺体は坊さんの姿をしていたので残されました。それで敵がいなくなってから丘の上に葬られました。昔から丘は“イシカミが作った”と大切にされていました。どうしても君山（城山＝イシカミの末子）の近くに葬って欲しいと言っておきました。（何故、きさいち丸山古墳と呼ばれるのか？）私は、女天皇（推古天皇）に一番嫌われた者でした。（キ

サキイチ嫌われたという意味からきているようです。）

何故私のお墓が忘れられたかというと仏教のせいなのです。私についていた小さな子ども（星述べの子孫）はオニに支配された者につかまり、信貴山の寺に送り込まれ、物部氏の墓を祭ると死んでから救われないと言わされたのです。それでその子は、キミ村付近の家の屋根のところに口をあらわすもの（空気抜き）を作るようにも言いました。真実が隠されたのを家は見ていたということをあらわすためです。それと、この家は“星の宮”を表してもいるのです。茅葺（カヤぶき）の屋根（三角）は、星の宮がその反対の形で地球に降りてきたことを現しているのです。

カヤの花＝ススキは、切るとすぐ枯れて白髪のようになる＝人間の肉体もすぐ年をとることをあらわしています。また、沢山のカヤで屋根を覆い、年月が経つと葺き替えますが、人間の生まれ変わりと同じということをあらわしています」

「物部の守屋です。イシカミに守られてアラビアから日本の青森に着いた人とはイエスの事です。イエスは良い人でした。イスキリとも呼ばれていました。それが私の前世です。すさんだ世の中になっていました。あらゆる所で人が殺されました。石を拝むなと脅されました。そして石の変わりに仏像を拝まされました。私はイエスの生まれ変わりで、射手座のイシカミが応援しましたが、プレアデスに支配された聖徳太子に敗れました」

【柿ノ本人麻呂】

「私は柿ノ本人磨呂と呼ばれた者です。なぜ私の名前が“柿ノ本”かというと、星述べの子孫が柿について、『イシカミが人間に与えたものである“柿”の元をたどれば、人間のことが解る』と言ったからです。『さるかに合戦』の物語によりイシカミのことは知っていましたので、この星述べの言葉より“柿ノ本”（＝柿の元）と名付けました。“磨呂”という字は、木が二つ並んでいます。これは『上の句の板と下の句の板を2つ合わせて歌を作る』という意味でつけ、石（イシカミ）についての歌を作りました。そして垂れ（麻垂れ）で隠したのです。また“呂”の口がつながっているのは、『口から口へ伝える』という意味です」

「私は宮廷につかえていた貴族で、何もせずご馳走を食べ、歌を作っていました。友達の菅原道真が讃岐に行ったので、いつになく自分もしっかりしなければならないと思いました。道真が帰ってきて、ヤマタイコクの話や、いにしえのお姫様“ヒミコの娘”が誘拐され幽閉された話しを聞きました。私はまた、石（イシカミ）のことも聞きました。石になった巨大なヒトが、人間に食べ物を与えてくれたことも。私は“岩のもの”（イシカミ）を信じる者でした。一番大切なものはイシカミとわかったからです。でも、その話は決してしてはいけないと言われていました」

「ヒミコの娘の物語を知った後、仲間は寄る度に『農民にも富を分けてあげよう』という意見と、『今のままで良い』という意見とに分かれ、けんかになりました。そして暴君が勝ち、農民には人間以下の生活をさせ、自分たちは楽をしていたのです。それは外国の考えを取り入れたからでした」

「小野の小町が綾部に行った事があると教えてくれたので、琵琶湖の船に乗り、海まで峠を越えて行きました。海と川の船に乗り、星述べのいる所に行きました。けれども家には誰もいませんでした。小さな子供は隠れていましたが、その他は皆殺しをされたと聞きました。それでそこに柿の木を植えて、いつか私が来た事を知って欲しいと思いました」

「私は一番大切なことはイシカミの事を世に出す事と思い、出雲のイシカミに会いに行こうと思いました。それを邪魔しようとしたのがヤマトの人たちでした。仕方がないので私はイワミの国に住み着き、和歌を作っていました。イワミの国には私の領地があったのです。イワミとは『岩（ストーンサークル？）を見たらお祈りする』という意味だと私は言っていました。それでヤマトに睨まれたのです。私は弱いものでした。イワミでは、大国主もよく働いたと聞いたので、農業に励みました。やさしい女性に出会い、楽しく過ごしていました」

「ある時、歌の選者でもある私は、小野小町と共に、ヒミコの娘のことを込められた歌があることに気付きました。人の命のはかなさがこめられた歌だと話していたら、真実を知らない人が“これは意味のない歌だ”と、その歌を消し去ろうとしました。それで私は真実を話しました。それからしばらくするとヤマトの使いの者が来て、石に祈りをしてもいけないと言いました。それから私が身に付けていた刀を取り上げ、私は人形の形（人型の形？）にさせられ、刀を突きつけられました。真実を知らなかった歌の仲間が私のことを告げ口したのです。何も悪い事はしていないのに、私は刀で刺されて池の水の中に沈められました。あの歌（君が代）は『石に意識があるということ』を知らせた歌なのです。世に知らせること

が出来てうれしいです。私の教えを“出雲のお国”が、歌や踊りでヤマトに伝えようと都に向かったのです」

■補足説明

『柿本人磨呂』＝数多くの歌を作った9世紀頃の万葉歌人ですが、生没年も伝わっておらず、その生涯は謎とされています。

【菅原道真】

「菅原道真です。私は若い頃遣唐使として唐に渡りました。唐の国では何千人という僧が意味もなくただ書物を写し、農民から搾取する事ばかりを考えていました。そして農民を動物以下の扱いにしているのを見せられました。私は唐から戻って来ると、国のために計画を立てました。意味のない遣唐使に沢山のお金が使われている事を知り、私は唐の国の様にならないよう、遣唐使を廃止し、それよりも日本の文化を高めようと思ったのです。ある時、仲間と歌を作って楽しんでいたら、真実の話しである“いにしえにさらわれたヒミコの娘の話し”が出ました。私はそれを調べるために橿原神宮に入り、そこでヒミコが書いた『ホツマツタエ』の紙を見つけたのです。その紙にはカタカナと簡単な漢字が書いてありました。私は仲間とそれを持ち出して写し替えたところ、“文字は中国から知らされた”と言われていましたが、本当はヒミコがカタカナと漢字を作ったのが最初だったことが解ったのです。私はそれをみんなに知らせ

ました。ところがその時、大勢の役人がなだれ込んで来て、それらの紙を持って行ってしまい、そして私は捕らえられたのです。なぜ私が殺されなかったかというと、当時は殺すと祟りで病になると思われていたからです。それで他の者と会うことができないようにされ、しばらくすると、当時仲間うちで“生きては帰れない所”と言われていた太宰府に行くように言われたのでした。私は石の物語だけでも残して欲しいと天皇に言ったのですが、だめでした。そしてその後、石物語の代わりに、現在言い伝えられてる天皇の物語が書かれたのです。太宰府では、私はあしびきの粗末な家に住まわされました。今、思い出しても悲しいです」

「“蝉丸”とは一番勉強のできた人のことです。ヒミコの書いた物を世に出すようにやかましく言ったので、帝が菅原道真の事を蝉丸と呼ぶように言ったのです。それでも道真は止めなかったので、九州に流されたのです」

【百人一首】

「“ヒミコの娘がさらわれて来た”という昔の物語を、何としても後世に伝えたいと、歌人が風景などになぞらえて歌を作りました。けれども当時は物語を口に出すことを厳しく禁じられていたため、首(死)を覚悟で作ったのが『百人一首』なのです。こうして、真実の物語を歌に託したのです。この中には意味のない(関係のない)歌も混じっていますが、そのおかげで歌集を作らせてもらえたのです」(知らされた一部のみ紹介)

『おくやまの　もみじふみわけなくしかの　こえきくときの　あきぞかなしき』
「奥山＝星原　紅葉＝ごよう＝ご用と追っ手が来ること、鹿＝鹿の角＝白い木＝いなずま＝星の宮＝星延べをする者＝山彦　が殺されたのは秋。

『おおえやま　いくののみちは　とおけれど　まだふみもみず　あまのはしだて』
「この歌を詠ったばかりに、ヒミコの娘とノアの息子のことを漏らしたと言われ、神社を建ててお詫びをするために、家族を残してひとり大江山に行かされたのです。いにしえの、ヒミコがカタカナで書いたという手紙を見せてもらえぬまま、行きなさいと言われたのです」（大江山の元伊勢を建てた？人）

『わたのはら　やそしまかけて　こぎいでぬと　ひとにはつげよ　あまのつりぶね』
わたのはら＝たくさんのノアの部下が、お腹をさかれて殺されたこと。
やそしまかけて＝外国まで
こぎいでぬと＝漕いで逃げて
ひとにはつげよ＝そして人に伝えて下さい。
あまのつりふね＝ノアの息子は籠船に乗せられ海に流されたので、神様につり上げてもらいたかったろうに。

【カタカナ・ホツマツタエ】

「私はヒミコです。私が考えた『カタカナ』の意味をお知らせします。“ワ”が最初の言葉でした。ワ”（輪＝和）というのがとても大切だと思いました。輪になって踊ったりして、お互い助け合ってヤマタイコクを作りました。これは若者と一緒に考えました」

『ア』＝アナタのア。頭と身体。
『イ』＝イノリのイ。頭を下げています。
『ウ』＝ワの上の点で、先頭に立ってウタウ。
『エ』＝橋＝エニ＝川と川を結ぶ＝連絡する＝話を伝える。
『オ』＝男のことで、付いているモノがある。
『カ』＝力強いこと。動物の皮を力を合わせて剥ぐ。
『キ』＝木の板に文字を書いて綴じた物。記録するという事。
『ク』＝苦労のク。タから点を取るとク。点は人間をあらわし、田に入らないと（＝働かないと）後で食べ物がなくて苦労するという意味。
『ケ』＝毛のケ。イシカミが神＝髪だということをあらわすために、丸い形のものを頭にのせていた。
『コ』＝子供が産まれるところ。
『サ』＝めざしを刺す＝人を刺す。男と女がサス。

『シ』＝死ぬのシ。2つの点が魂と霊をあらわし、長い線が肉体。肉体からそれらが離れると死ぬという意味。
『ス』＝好きのス。これは若者が考えました。
『セ』＝磯の精のセ。砂浜に穴を開けている貝。
『ソ』＝ソのものということ。指さしてソレということ。
『タ』＝田んぼのタ。高いのタ。稲を干す高い所に登った人の形。
『チ』＝命の元である血。＋は死。ノに散ると死。
『ツ』＝罪のツ。肉体から魂と霊が離れると悪いことをする。
『テ』＝身体の上に2本あるものが手。
『ト』＝トモという意味。自分をちょっと支えてくれる。
『ナ』＝ナニの意味。ナ＝＋＝死とはどういうものか、意味が解らなかった。
『ニ』＝2本。肉体と霊だけでは死ぬということ。死ぬとはナニ。
『ヌ』＝スとともに若者が考えました。
『ネ』＝植物の根の形。
『ノ』＝野原のノ。本当は横線でした。
『ハ』＝歯。
『ヒ』＝かまどから火が出ている様子。

『フ』＝フーと口から息が出る様子。
『ヘ』＝なだらかな土地の形。
『ホ』＝死んだ後、善人は左、悪人は右と別れる死後の世界のこと。
『マ』＝マナブのマ、何かを調べている姿。
『ミ』＝魂・霊・肉体の3つという意味。
『ム』＝無理をして身体が曲がること。
『メ』＝芽が出た様子。
『モ』＝モノをもらう時に手を差し出す形。
『ヤ』＝矢の形。
『ユ』＝舞台の形。その上で踊ったり情報を伝えること。
『ヨ』＝たくさん食べ物が採れて、棚に並べている様子。良かったのヨ。
『ラ』＝楽をすると後でフーとため息が出る様子。
『リ』＝利口のリで、2通りのことを考えることができること。
『ル』＝礼をしている人の前に立っている人が、瑠璃（ルリ）を身に付けている様子。
『レ』＝頭を下げて礼をしている様子。折れ曲がるのとは違うので、上下反対にしました。
『ロ』＝家の中の炉のこと。
『ワ』＝輪になって踊る様子。

『ン』＝シから点が一つなくなっている様子。魂が天界に行くと、死んでも生まれ変わらなくても良いという意味。
『ワシ』＝輪・和が死ぬと独裁者という意味です。）

「ヒミコです。『ホツマツタエ』の意味をお知らせします」

『ウタタネコ　コレオノブ』＝これは女の物語です。うたた寝をすると（怒らないで下さい）女の人はお変わりなく?こちらへおいでという意味なのです。ちゃんと聞きなさい。
『アメツチノ　ヒラケシトキ』＝夜明け
『フタカミノ　トホコニオサム』＝お釜が焦げないように（気をつける）
『タミマシテ　アマテルカミノ』＝お釜の蓋の石が重くて取れない時に“アマテルサマ　力を貸してください”と頼むのです。
『ミカカミヲ　タシテミクサノ』＝お腹にお煮しめを食べて
『ミタカラヲ　サツクミマコノ』＝身体の肩まで降ろした
『トミタミモ　ミヤスケレハヤ』＝髪の毛をまとめて束ねる
『トミガオヤ　シイルイサメノ』＝起きなさいと皆を起こすこと
『オソレミニ　カクレスミユク』＝遅れることなく固い炭火を埋めて

『スエツミヲ　イマメサルレハ』＝仲間の人にこんにちは（と挨拶をする）
『ソノメグミ　アメニカエリノ』＝自然の恵みの河に行って
『モフテモノ　ホツマツタエノ』＝もうけモノの河の水にミズホの妻が
『ヨソアヤヲ　アミタテマツリ』＝伝えられることを感謝する
『キミガヨノ　スエノタメシト』＝私の君（大国主）に、いつまでも試練が
『ナランカト　オソレミナガラ』＝ありませんように恐れを取る
『ツホメオク　コレミンヒトハ』＝お勤めを苦にしないような人は
『シワカミノ　ココロホツマト』＝しわが重なるまで心がほつれて（心穏やかに）
『ナルトキハ　ハナサクミヨノ』＝亡くなる時はきれいな花の咲くあの世の
『ハルヤキヌラン』＝春にあなたは行けます。

「これらは、私が幸せだった時に作りました。面白くてたくさん作りました。でも、長い年月の間に違う意味に変わったのだと思います。ところで、どうして“ツマ（妻）”という言葉には、罪の“ツ”がつくのかいうと、結婚を決めても他の人とセックスをしたくなるのは“マ（魔）”の者が入るからだと思ったからです。また、どうして結婚制度を作って相手を決めるようにしたのかというと、当時は女の人を取り合って争いが絶えなかったからです」

■補足説明

『ホツマツタエ』＝ヒミコがビジョンで知らされた文字。その内容の一部は当時の生活の知恵が記されています。（現代では日本古代の神々の歴史や文化を伝えていると言われています）

『カタカナ』＝“ホツマ文字”が難しかったので、分かりやすく簡単にしたもの。

『漢字』＝書くときに紙が少なくていいように、ヒミコはカタカナを組み合わせて漢字を作り、それを“男文字”と呼びました。

【日本の行事】

◇お正月◇

『鏡餅』＝イシカミをあらわしています。

『みかんと干し柿』＝みかんも柿もイシカミがソラのものに頼んで作ってもらったことをあらわしています。

『ウラジロ』＝真実（ヤマタイコクの話）が隠されている事をあらわす植物で、裏の方が白い。ぎざぎざ

の葉はオニ（大蛇や蛇）は尖っているのが嫌いなので、形であらわしました。
『しめ縄』＝大国主がヒミコの形見の髪の毛で作ったものが始まり。（鳥居は、ヒミコの髪を飾った櫛をあらわしています。）
『書初め』＝ヤマタイコクの言い伝えを消されたので書いて伝えました。
『ドンド焼き』＝（元旦に書いた書初めを燃やす。）
書初めの紙（ヤマタイコクの言い伝え）を燃やして天まで届かせようとしました。
『節分』＝小さな人間が子孫を作る事をあらわしています。豆は人間の精子をあらわし、豆まきは人間の射精をあらわしています。
『ひな祭り』＝その結果（節分で精子＝豆をばらまいた）沢山の子供が出来たことをあらわしています。昔は人形の形をしたものを並べるだけで、後年権力者の指示で段飾りの形になりました。
『七夕』＝元はタナハタと呼び地球を星の宮がホウキで掃除をする、という意味で笹を立てただけでしたが、のちに仁徳天皇が貰い物のメモを笹にくくりつけて、お返しがすめば燃やすようにしていました。
『月見』＝満月＝○は真実をあらわし、小さなお団子を盛るのは、肉体の細胞分裂をあらわします。ススキを切るとすぐに枯れるように、人間もすぐに老いるので意義ある暮らしをするように教えました。人間の生まれ変わりを知らせている意味もあります。

【いろはにほへと】

何としてもこの歌の意味を知って欲しいこの歌は、菅原道真が詠みました。

「いろはにほへと」

いろ＝いろいろなこと。におう＝隠されていてもそれとなくわかる。におって欲しい。（昔の事がおぼろげながら伝えられています。）

「ちりぬるおわか」

ちりぬる＝（権力者によって）消された。おわか＝（かつての有力者の）お墓。

「よたれそつねならむ」

よたれ＝世の時が経たら。そつねならむ＝それらの事をいつでも習う（知る）事ができる。

「ういのおくやま」

ういのお＝始めの王で。くやま＝苦しんでいる山（イシカミ）。

「けふこえて」

け＝ケ＝うやうやしく頭上にささげ戴く物。ふこえて＝ふご（籠）に与えてくれる。

「あさきゆめみし」

あさき＝朝木をゆすって実を貰い。ゆめみし＝夕には（もみの）芽が出ているか見る。

「えひもせすん」

え＝エッタ＝田作りを教えてくれたヤマタイコクの人を、非＝非人にしてはいけない。

【ストーン・サークル】

「ストーンサークルとは、イシカミの身体が丸いことを伝えるために、石を集めて丸く並べたものです。人間はイシカミに食べ物を与えてもらっていたので、イシカミが亡くなった後も、『食べ物を下さい』とその丸い形を拝んでいたのです。また、その周りを踊っていたのが盆踊りの始まりです。これはイシカミをしのんで踊っていたのです」

「イシカミが亡くなった後、人々は真剣にイシの物語を伝えようと思いました。それでストーンサークルを作ったのです。イシカミ達はテレパシーでそのことを伝え合い人間に教えたので、世界中にストーンサークルがあるのです」

「ストーンサークルはイシカミをあらわし、人々はイシカミのことをしのんでその石を拝んでいました。ところがヤマトの家来がやってきて、イシカミの石を拝むことを禁じ、石を墓石として拝むように仏教が利用しました。こうしてイシカミをあらわす石は忘れられていったのです」

【竹内古文書】

「たくさんの天皇の名前の中に『イシの物語』を隠して書いたものが『竹内古文書』なのです。“泡の船に乗って空から降りて来たイシカミの話しを、ある者が隠した”ということを書いているのです。ノアの息子によって知らされた、葦（＝イエス）がこの世を救いに来るという話しも書きました。旧約聖書と照らし合わせてもらえればよく解ります。“神”とは、一番はじめにあらわれた“光”のことです。女

の天皇とはホニライのことで、元々はキリストと同じ教えを信じていましたが、オニの部下の女神（＝イシュタル）に惑わされ、違う教えに分かれていったのです。

イシカミのことは『ウガヤフキアエズ』に書いています。当時の天皇は権力でもって横暴の限りをつくし、少しでもイシカミの話をする者は殺していたので、“神聖な石（イシカミ）を大切に”ということを、“億”という隠し言葉を使って書いたのです。“石”という漢字は決して使いませんでした。ウガ（＝上＝空）、ヤノ（＝山のように大きな丸いもの）、フキ（＝飛行機のように空から飛んで来た船のこと）、アエズ（＝泡のようであり違うようでもあったのでアエズ）という表現をしました。

フキアエズの後には、“稲を育て実らせることは、とても人間の力だけではできないこと。稲が実るよう、そしてオニがイタズラしないように、おソラのものにお祈りをしなければならない”ということを書きました。また、皆で輪を描いて踊ったこと（盆踊りの始まり）も書きました。盆踊りはイシカミをしのんで始まったのです。

他には、イシカミの落とし物（岩）についても書きました。当時、若い者がイタズラをすると、岩のところに一人置いて、“イシカミが人間に食べ物を与え、地球のために尽くし、死んで山になったこと。これを必ず言い伝えて欲しい”という、イシの命の言葉を聞かせました。山の神が女であるのは、イシカミの穴から白い着物を着た女の人（一番初めに誕生したトヨウケ）が出てきたり、違う穴から食べ物が出てきたからです。女性の妊娠・出産は、このこと（人間がイシカミの身体に入れられ地球に送り込まれたこと）をお知らせしているのです。他には“億歳”という言葉（“これを信じるな”という意味）や、

イヤ＝祖谷渓にある石、イサ＝イナのことを書きました。今思い出したのはそれだけです」

【言葉の意味】

「『一字が万字？』一字から万と言うくらい沢山の漢字を作ったのは中国人です。けれども漢字の最初の文字はイシカミがヒミコに教えました。人間は早くからオニに支配されましたが、イシカミ達は一部の人間の頭の上に連絡できるモノを作り、テレパシーで人間と会話をして教えていました。オニはこのことに気づかなかったので縄文時代は平和に過ごせたのです。けれどもついにオニに知られてしまい、支配されてしまいました」

【相撲】

相撲取りはイシカミを思い出してもらうために、イシカミをあらわす大きな人に時々生まれてもらうのです。丸い土俵はストーン・サークル＝イシカミをあらわしています。塩は浄化の意味もありますが、煮えたぎった地球をより強く冷やすために塩が加わりましたが、そのように強いエネルギーを得ようと力士は塩を撒くのです」

「人を倒すことは好きではありませんでした。でも相撲という事を始めました。何故相撲をするようにさせたかというと、長い人生の間には、投げ飛ばされ大変な目にあっても、また起き上がって頑張って生きて欲しいと思ったからです。野見の神と呼ばれるものからお知らせしました」

【宮と社】

「【宮】という字は「口から口に伝えられた事（＝イシカミ）がウカンムリで隠された」という意味があり、「大社」の【社】は「土と根＝農業」で、まさに「田」を考えた“大国主”をあらわしています」

【イスキリ文字】

「イスキリ文字というのが残っていますが、あれは私、イスキリが書きました。イスキリは長髄彦（ナガスネヒコ）とも呼ばれていました。当時、日本は“文字を書くと、その文字が蛇になる”と言われ、文字を書くことを禁止されていましたので、文字がヘビになることはないと私が知らせ、あの様な文字を考えたのです。書いた文字は、舟に乗せ隠してもらいました」

【アラハバキ】

「アラハバキの神というのは、イスキリ（イエス）のことなのです。アラーは太陽、ハバキは流星＝ほうきを意味しました。アラハバキ、ナガスネヒコの痕跡はあちこちに残っています」

【因幡の白兎】

「『因幡の白ウサギ』の物語は、イスキリ＝イエス＝白ウサギが日本に来てワニ（和二＝東大寺＝仏教）を乗り越えて出雲に行き、そこでヤマトが差し向けた盗賊に身ぐるみはがされたことを童話にして伝えた

のです」

【星原】

「星原は谷間の村ですが、なぜ“星原”と呼ばれるかというと、はじめは“星のべ”（＝星述べ）と呼ばれたものが、“星野辺→星野原→星原”と変わったからです」

【イカルガ＝何鹿】

「ヒミコの霊が“白い木の者”（星述べ）に生まれ変わり、イカルガ（何鹿）の星原で星物語（ソラ物語）を伝えていました。

『イカルガ』という地名は、“イ＝祈る、カ＝力が与えられる、ル＝ひざを折り曲げ、石（巨石やストーンサークル）を拝むと、ガ＝力が倍になる”という意味で名付けました。星原には、並べた石（ストーンサークルでイシカミをあらわしたもの）がありました。何鹿とは鹿の角＝白い木＝稲妻＝星の宮をあらわしています」

【土ぐも。サンカ】

「土蜘蛛もサンカも仲間の事でした。蜘蛛の子を散らすというように、蜘蛛はたくさんの子供を生みますが、全部生き残る事は難しい。人間にも同じコトがいえます。

サンカの人たちはいにしえに争いに破れたため、土蜘蛛の人たちは中央の権力者に刃向かったため、殺されぬようにと山の中に住みつきました。土蜘蛛とは、山の中に洞窟を作って暮らすところが土蜘蛛に似ているため、そう呼ばれました。サンカは簡単な家を造って暮らしていました。身の危険を避けるために煙を焚いて山から山へと移動し、情報を伝え合いました」

【鏡】

「面白いことを思い出しました。キミ村には本当の鏡がありました。石の表面がつるつるとして顔が写るものだったのですが、それは壊されて今はありません。キミ村ではオニに支配された人は鏡を見ると怖いと思い、鏡を見ませんでした」

「昔、醜い生き物を描いた鏡（銅鏡）が沢山作られました。オニに支配された人がオニの星たちから醜い生き物をビジョンで見せられ、その姿を鏡に描かされたのです。そしてその生き物が襲ってくると脅かされ、支配されていたのです。彼らは鏡にかかれた生き物を神として祭り、その神から守ってもらうようしたのです。また、その鏡を物と交換していたのです」

【猿かに合戦】

「『さるかに合戦』の物語の意味は次の通りです。臼、栗、臼＝イシカミ、栗＝イシカミが作ったもの、カニ＝イシカミを信じる人＝大国主、蜂＝民衆、サル＝ある者。

柿や栗やカニはイシカミがソラのものに頼んで作ってもらった食べ物で、ウンチ＝肥料にすると良い、臼は米や麦を粉にして食べるようにとイシカミが教えました」

【遮光土偶】

「これはイエスと一緒に日本に来た人が作りました。大きな目は来る途中に見たインドの仏像を真似したのです。頭は冠のつもりです。インドの人はおっぱいを出していたのでそれを表現しました。ブッタは筋無力症で、半分しか目が開いていませんでした。一本の足は折れたのです。あの姿は宇宙人ではありません。外国にはこんな人がいるというのを教えるために作ったのです。なぜ小さく作ったかというと、インドでは小さなもの（土偶）を神として拝んでいたので真似をしたのです」

【キトラ】

「キトラとは黄色の虎という意味です。中国の人に、それが陸上にすむ一番強い動物だと言われました。その動物に守ってもらっているので、誰にも墓を荒らさせないという意味です」

【ちょんまげ】

「仏教では頭の毛には悪霊が住み着くと教えられたのです。けれど毛を全部剃ってしまうと鉄兜が暑くてかぶれないため、苦心して〝ちょんまげ〟の形にしたのです。髪＝頭の上＝ソラのもの＝たくさんの名

のない星を否定する仏教に支配されていたのです」

【山椒大夫】

「山椒大夫のあの物語は、大昔の話を霊がテレパシーで伝えました。ノアの息子とヒミコの娘の子供達の物語なのです。山椒大夫は蘇我氏で悪い人という意味で知らされました。ヒミコの娘は長いこと真っ暗闇の中に閉じこめられたため、外に出た時には目がとても弱っていました。物語では佐渡が島で盲目になったと書いてありますが、実際にはヒミコの娘が長い間幽閉されていたために目が弱っていたことを知らせているのです。なぜ、隠岐島でなく佐渡にしたかというと、本当のことを言うとヒミコの娘のお墓が壊されると思ったからです。あの物語の息子は海彦のことで、最後には母子の対面はあったことをあらわしています」

その他の人物

【スイコ天皇】

「スイコ天皇です。私はプレアデスに支配され、イシカミのことを抹殺させるために、イシカミと星の宮の話をすることを厳しく禁じたのです。〝キミ〟という名前は残しましたが、それまでの全ての言い伝えを封じました。そのために監視役を置いて、イシカミの話をする者を脅かしていました」

「聖徳太子の母親であるスイコ天皇はオニの部下に支配され、悪政をした人です。人々の先頭に立ち、物事を巧みにまとめることができましたが、怖い人でした。当時、簡単に大きな建物ができたのは、彼女が自分を支配しているプレアデスの言うことをはっきり聞き取ることができ、さらにそれを人々にてきぱきと指図できたからです。けれども彼女は意地悪だったので、次第に人々の恨みが高まり、彼女が亡くなった後は、若くしてすでに亡くなっていた聖徳太子と同じお墓に簡単に埋葬されました」

【猿丸太夫＝坂之上田村麻呂】

「猿丸太夫は坂之上田村麻呂のことです。とてもユーモアのある人で、ヒミコの話を世に出そうとした人でした。それでヤマトの権力者が嫌がって変な名前にしたのです。けれど面白く朗らかな人でしたので、憎まれることなく、それで道真のようにはならなかったのです」

「坂之上田村麻呂です。なぜ初代征夷大将軍だったのに〝猿丸太夫〟とおかしな名前にされたかという

と、上の人から嫌われたからです。私もヒミコの書物を見つけ、この事を皆に知らせようとしたからです。私は戦争をするために東国に行かされ、理由も無く東の人を悪い人に仕立て上げるよう命じられました。けれど私は人の扱いがうまかったので、戦いはしないで東の人にヤマトに従う振りをさせ、東の国にはオニがいるので行かないほうが良いと、ヤマトの人々に知らせたのです。それがオニの話なのです。戦いをしなかったので東の人が感謝して、私の神社を作ってくれたのだと思います」

【空海】

「私は空海です。足摺岬にいた時、太陽が私の身体に入ってきたように思いました。でもそれは違っていて 入ってきた者は私に生き地獄を見せてやると言ったのです。そして（ビジョンで）地獄を見せられ、“地獄があることを信じると救ってやる”と言われ、御仏の教えを広め“御仏の教えに従わないと地獄に行くと皆に言え”と言われたのです。私はそれを言うのが嫌だったので、他人様のためになることをして歩いたのです。けれども、地獄の教えもしたため 人々が死を怖がり、恐怖心が育っていったのです。真理が今解き明かされます。いにしえに山で光ったものは何だったのだろうかと思いました。脳に操作をされ、光である生きる力や気力を奪われたのです。人間を操作して楽しんだ者が“昴の星（プレアデス）の者”です。それがどれほど支配力の強い者であったか。もはや死人に口なしです。

プレアデスを“昴”という言葉で言ったのは私です。この言葉は“優れた、遙か彼方の者”という意味だと教えられました。空にいると言われましたが、空には何もないので私は“空（くう）”と言いまし

た。私は自分から即身仏になりたいと思ったわけではないのです。“必ず霊体で昴に連れて行ってやるから実行せよ”と言われたのです」

「イシカミを理解できる空海は山に入り、お詫びをしていました。彼はイシカミと仲良くしたいと思いながら、真実を胸に秘め、お詫びをして回ったのです」

【出雲の阿国】

「私たちの声を知らせてくれてうれしいです。ヤマタイコクの人たちはいつも、この本当の話しを皆に知って欲しいと思っていました。それでいろいろとお知らせしていたのです。それほど一生懸命に気づいて欲しいと思っていました。

『歌舞伎の柿落し』は『カキオトシ＝書きとおす＝ヤマタイコクのことを書きとおす＝ヤマタイコクの事を言い伝える』という意味なのです。又別に柿＝イシカミが与えたもの。落とす＝イシカミの物語が隠された事をあらわします。

私は出雲で生まれたヤマタイコクの子孫の者です。代々話を語り伝えるように言われていました。当時の出雲はヤマトから度々攻められていました。多くの人々が殺され、私の両親も殺されました。それで私は生きて行くために踊りを始めたのです。最初は、私と白狐の真似をした者が家の前で踊ったのが始まりでした。

白狐の動作（頭を振る）は宇宙の始まり＝白い光が渦巻きから始まったことをあらわしています。踊りを

踊って食べ物を恵んでもらっていました。それが歌舞伎の始まりなのです。出雲の「阿国」と呼ばれるのは、阿波の国にあったヤマタイコクのことを伝えていたからです。物乞いをしながら毎日踊りの振り付けを考えていました。そしてにぎやかな村を訪れては踊っていました。（孤児の）子供達にも踊りを教えていました。踊りは必ず泣けてくる踊りでした。大国主とヒミコの別れを踊りであらわしたのです。皆（ヤマタイコクの子孫）の気持ちは一つでした。幸せに暮らしていた大国主達の話しやヤマタイコクの悲劇を語り伝えていかねばと思っていました。現在の歌舞伎は全く違うものになっているのが悲しいです」

【明智光秀】

「私は明智光秀です。“実れる者は頭を垂らす”という言葉が好きでした。なぜ私が信長を殺したのかというと、シリウスに支配された信長があまりに残酷なので怖くなったからです。これは人間のする技ではないと思いました。そしてそのことをいつも秀吉と話していました。ある時、信長が聖堂（ひじりどう）？へお参りに行くことを部下が知らせてきました。それで出雲に行く途中に引き返したのです。そして私は秀吉に“いつでも天下を渡す”と書状を送りました。秀吉はそれが気に入り、形だけの戦いをすると言ってきたのです。それで私は死んだことになったのです。その後私は、きれいなものを愛でて天寿を全うしました。私の弟子が千利休です。なぜ彼が殺されたのかは、死んでから知らされました。彼が秀吉に、私・光秀の名誉を挽回するようにと進言して、さらに徳川家康にもそれを言ったからです。秀吉はそれが気にくわなくて、千利休を切腹させたそうです。彼は私の名誉のために殺されたのです」

「明智光秀です。信長のあまりの残虐さに堪えかね、信長を亡き者しようと秀吉と密約していました。また私は、自分の妻が信長から手篭めにされているとも、秀吉から聞かされておりました。私は、自分が出かけた後に信長が妻を誘惑していると確信し、本能寺にひきかえしました。やはり妻は信長のウソの呼び出しに応じていましたので、一緒にいるところを殺しました。けれども信長の実子・森蘭丸がそこに居たため、そのことは隠されました。私は実権を秀吉に渡し、隠居しました」

「世界史」に関するメッセージ

【世界史編　あらすじ】

射手座の王様は星の宮を探しに地球に降りました。王様は地球と相談して、平和な地球にするためには、争いを好む恐竜の代わりに“人間”を作ってほしいとソラのものに頼みました。そのことは女王にも伝えられ、女王や部下達は作られた“人間＝巨人”をお腹に入れて、次々と地球に降りてきたのです。射手座の王様は降りた場所が恐竜の墓場で、骨がいっぱいあって嫌なので海に捨てるようにと他のイシカミ達に伝えました。イシカミの分身達が掘った所は海がつながり地中海になり、沢山の土を捨てた所は大きな島ができ、アトランティスと呼ばれました。（「星からのメッセージ」参照）

その島にはイシカミの子孫のアトランティス人や小さな人間が住みつきました。アトランティス人の肉体は骨が少しだったので身体がとても軽く、歩かなくても移動することができました。全ての労働は小さな人間に似せたアンドロイドがしてくれ、島にはドームのような水の膜があり、一年中温暖な気候に恵まれました。そのうちアンドロイドは増えすぎて南の島レムノイアにも住むようになりましたが、次第にアンドロイドだということを忘れ、アトランティス人や小さな人間を嫉み、恨みの思いが溜まっていきました。その様子を見ていたオニが降りてきて、アンドロイドに謀反をおこさせ、アトランティスの島は沈んでしまいました。レムノイアの島は次第に移動して南極になったのです。アトランティス人はほとんどが死に絶えましたが、アトランティスの女王アマンティアと小さな人間ミネルバとの間の子、“大国主”は地

中海のサントリーニ島に住んでいたので助かりました。サントリーニ島とバミューダ島はアトランティスの保養地でしたが、バミューダ島も沈下しサントリーニ島だけかろうじて残ったのです。

人間ミネルバは双子の兄弟の兄で弟はムネルバといい、2人とも手の甲の同じ部位にほくろがありました。次の人生で生まれ変わった2人には、手の平に今度は同じ傷があり、ミネルバはイエス、ムネルバはマホメットとして、オニに支配された地球で波乱の人生を送る事になるのです。アトランティスがオニに支配されたアンドロイドによって滅ぼされてから、世界はオニの支配により悲惨の極みに陥っていました。それを見てイシカミ達が一斉に大泣きをしたので、その涙が“ノアの大洪水”となりました。その後も相変わらずオニの支配は続いていましたので、射手座の王様も何とかしなくてはと思い、イエスやマホメットに言葉を伝えようと試みました。イエスやマホメットが射手座の王様の降りた場所“エルサレム”を訪れた時に『私が神だ』と語りかけました。その他にも射手座の王様は訪れた優れた人物に語りかけたので、その声が聞こえた人たちは『自分こそが神に選ばれた者だ』と思うようになり、そこ（エルサレム）からいろいろな宗教が始まったのです。

イエスとマホメットは射手座の王様とつながり、人々に善い教えをしていました。イエスもマホメットも誠実な人で、皆の信望を集めていたので、その教えは多くの人が信じるようになりました。けれども後にオニに支配された権力者達は、イエスやマホメットの教えを自分たちの都合の良いように変えて利用し、

我欲のために非道の限りをつくしました。
そしてオニ達は仲良しだった二人を信じる人たちを、何千年も争わせ、それを見て楽しんでいたのです。
オニは平和な時代を退屈と思い、特定の人間を支配しあらゆる権力を与えては、悲惨な最期を迎えさせるという悪事を繰り返してきました。又、オニ達は特定の人につながり、恐怖の未来のビジョンを見せ、予言をさせました。そして予言どおりのような出来事を起こさせ、人々に未来への不安を抱かせ、自分たちを信じさせるように仕向けてきたのです。
これからは人間がどのように思うかで、未来が決まります。三次元では思ったことがすぐ実現するようにはなかなかなりませんが、人間が平和な地球を一生懸命願う事で未来は決まっていくのです。

■補足説明
エルサレムにある三宗教の聖地

『嘆きの壁』＝ユダヤ教徒の祈りの場、ソロモンの神殿の遺構
『岩のドーム』＝マホメット昇天の地とされるイスラム教の聖地
『聖墳墓教会』＝イエスが十字架にかかったゴルゴダの丘に建つ

【ユダヤとイスラム】

「ヤハウエーは日本のイワキヤマのイシカミのお腹に入って地球に降りてきた最初の人間（巨人）です。同じく女王から出てきたトヨウケと一緒になり、子供ができましたが、射手座の王様が降りている事を知り、会いに行こうと思いました。エルサレムで射手座の王様が埋まっている事がわかりそこに留まりました。そして王様の代わりに、私が神だと言っていたのです」

「イスラエルの民が世界中に散らばってしまったのは、私（ヤハウエー）に責任があるのです。イシカミに『争いはいけない』と教えられたのに、私はオニに支配されて、エジプトに戦争を仕掛けました。そしてエジプトだけでなく他の国への侵入も繰り返し、自分の国へ戻らなかったからです」

「イシカミです。私が一生懸命『戦ってはいけない』と言ったのですが、ヤハウエーには聞こえませんでした。イスラエルに留まったヤハウエーには何も聞こえなくなったのです。なぜイシカミの声が聞こえなくなったかというと、中東地方は地球の心臓部に当たり、そこをオニが支配していたからです。そのせいでヤハウエーは、ソラからのお知らせが届かなくなったのです」

「イスラエルの土地には同じ民族が住んでいました。“イスラー族”といって、自分の中の霊と話しができる民族でした。彼らは皆仲良く暮らしていましたが、そのうち一部の人が“ユー族”（あなたの国に行くという意味）を名乗り、自分の土地の品物をよそに売る商売のために、各地に散らばって行ったのです。その頃のエジプトは緑豊かな国で、大木が生い茂りナイル川にはあちこちから支流が注いでいました。

一部のユー族はその支流をさかのぼり攻めていきました。そして捕まえられて奴隷とされ、舟はそのまま残されたので、後年砂漠の中から舟が見つかったのです。一方、イスラエルの土地に居続けた人々は、徐々に違う宗教（イスラム教）を信じるようになっていきました。そのため、以前からの宗教（ユダヤ教）を信じていたユー族は、商売が上手くいき、お金が出来て祖国に帰りたくなっても、違う宗教を信じる土地に帰ることが出来ず、戻る所がなくなってしまったのです。今、イスラム教とユダヤ教を信じる人々は、昔は同じ民族で、そこ（イスラエル）に残った人たちが違う宗教（イスラム教）を信じ始めただけに過ぎません。いわば兄弟同士で争っているようなものなのです。そのことに早く気づいてほしいのです」

【これまでに知らされたイエス】

アトランティス時代、双子の1人・ミネルバは、成長してアトランティスの女王と一緒になり、子供も出来幸せに暮らしていました。その後随分時を経て、ミネルバはエルサレムで“イエス”として生まれ変わります。今度の人生ではとても貧しい家に生まれ、彼は家計を助けるために、インド人の商人の手伝いをし、インドに何度か行っていました。その道中、船主の息子“マホメット”と知り合い、仲良くなります。マホメットは、過去世ではムネルバといい、ミネルバの双子の1人だったのです。2人ともとてもやさしい性格で、互いに手の平に同じ傷があるのに気づきます。2人は会うたびに当時の悲惨な世の中のことを話し合い、平和になるにはどうすれば良いかと真剣に話し合っていました。そのうちイエスは一人前になり、父の元で石大工として働くようになります。イエスは一緒に働いている父が、大酒のみで母・

マリアをいじめることを悩んでいました。そんなある夜、イエスは夜空の流星群を見て、突然空からの声を聞きます。『病気を治す力を授けるので、これからはこの声に従うように』と。そして次の日から、本当にイエスが手を当てるだけで人々の病気が治るようになりました。それからは、うわさを聞いた人々が次々とイエスの元に病気を治してもらいにやって来ます。イエスはとても優しく、当時争いばかりしていた人たちに『お互い仲良くするように』と諭します。

イエスの母・マリアは優しく、孤児達を集めて育てていましたが、そのうちの1人に“バーソロミュー”がいました。バーソロミューという名前は『外国の1人の子供』という意味で、彼は腕白でしたが賢く、大きくなるとイエスの弟子になります。イエスの立派な働きを見た大人の人たちも、『弟子にしてほしい』と次々にやって来たので、イエス達は次第に集団で生活をするようになります。けれども集団生活をしているうちに、いろいろな問題も起きてきて、イエスは規則を作ります。その規則が厳しいと文句を言う弟子もいましたが、“ユダ”だけはいつもイエスの言う事をよく聞きイエスを助けていました。そこで育てられ成長した孤児の中に“エマ”という美しい娘がいました。エマはイエスを好きになりましたが、イエスはエマを妹のように思っていたため、優しく諭します。イエスが相手にしてくれない不満から、エマはある秘密を金持ちのパリサイ人に告げます。その秘密とは、イエスが空からの声でローマの支配から立ち上がるために戦いをするように言われていることでした。そのことを聞いたパリサイ人は、イエスの人気を妬んでいたので、すぐにその噂をエルサレム中に広めました。そのうち、『イエスはユダヤの王様になり、ローマと戦争をしようとしている』という噂にまでなります。そして、戦争になると困ると思った

人たちは噂をさらに広めたので、ついに当時エルサレムを支配していたローマの総督“ピラト”の元にまでその噂は届きます。人々は『イエスを裁判にかけるように』とピラトに頼みますが、ピラトは自分の娘ニアスから『イエスはとても優しく、病人を治しているだけ』と聞いていましたのでどうしようかと思います。また、裁判の前日にイエスの母・マリアから『イエスを無実にしてほしい』と頼まれ、沢山のお金が届いたため、自分で判決を出さずに人々に決めさせます。しかし、噂を信じた人々はイエスを磔にするようにピラトに頼みます。こうして小さな嘘の噂から、何の罪も無いイエスは磔にされました。けれども磔に立ち会った兵士は『イエスを殺してはいけない』とピラトから言われていたので、わき腹を槍でちょっとつつくだけにします。イエスは磔の苦痛で気を失い、それを見た人々はイエスが亡くなったと思い帰っていきました。夜になってイエスの身体を十字架から降ろそうとしたイエスの弟とユダは、イエスが生きているのにびっくりしますが、死んだ振りをさせてお墓まで運びます。お墓にいた皆が帰り、イエスの弟とユダだけが残ると、イエスを密かにマナミの家に連れて行きます。マナミはマリアの手伝いをしている女性で、イエスが好きになった女性でもありました。マナミの懸命な看病のお陰で、イエスは元気になります。それからイエスと弟とユダは日本に行くことにします。

イエスには、空からの声が二通り聞こえていました。一方の弱い声は日本に行くように進めていましたが、もう一方の強い声によって遮られていました。強い声は、イエスに戦争をするように言わせ、イエスはそれが嫌で、強い声が聞こえないように茨の冠をかぶることにしました。すると強い声は聞こえなくなり、弱い声だけが聞こえるようになったのです。けれども、時すでに遅くイエスは磔にされてしまいました。

しかし、その時に母・マリアの声で、〝東の果ての日本に本当の神様がいるので行くように〟と聞いていたので、磔から助かった後、イエス達は日本に行くことに決めたのです。船を操ることができる信者も1人加わり、イエス達は密かにエルサレムを脱出することにします。途中イエス達は、以前より仲が良かったマホメットの所に行き、『追われているので船をゆずってほしい』と頼みます。心優しいマホメットは、イエスの困っている様子を見て、船をゆずってあげました。それでイエス・弟・ユダ・船頭の4人は、船でまずインドに渡り、ユダだけがインドで舟から降り、イエス達はイシカミの助けで日本の東北に到着しました。日本に着いたイエスは、病人を治す事ができたので土地の人に大切にもてなされ、弟と船頭は東北に残ってその土地の人と結婚します。イエスだけが、病人を治しながら、舟に乗って南に下ります。途中イエスは大きな湊に立ち寄ったり、そこから請われるままに病人を治しながら大阪に着きます。そこで『この近くに本当の神がいる』という噂を聞き、そこに落ち着く事にします。イエスは自分の弟子が13人いたことから（12使徒＋バーソロミューを加えた数字）、その場所を〝十三〟（ジュウソウ。今の大阪の十三）と名づけます。イエスはそこで病人を治しながら、平和の教えを広めていきます。

しばらくしてイエスは、ノアの洪水により流れ着いたユダヤ人の子孫が日本にいることを噂で聞きます。イエスはそのノアの子孫を探し出して養子に迎え、争いがいけない事やユダヤに関する様々な事などを教えて育てます。そしてイエスはその養子に看取られながら、安らかな最期を迎えることができました。養子になったユダヤの子孫は、優しいイエスから教えられた事を守り、皆に信頼され、始めての選挙で天皇に選ばれます。彼は仁徳天皇となり、彼が亡くなった後、イエスに教えられたオームの字の形のお墓＝前

方後円墳を部下達により作ってもらいました。

■補足説明

『マホメット』＝ここに登場するマホメットはイエスと同じ時代に生まれており、現代の歴史学上の年代と合っていませんが、その後再び生まれ変わったマホメットが、イスラム教を起こしたマホメットとして現在知られているのだそうです。

【イエスより】

「私はイエスです。星の宮より、降りて話すように言われました。思い出したのです。私が若い頃、星空を眺めていたら、光の玉が空から飛んで来て私の身体の中に入ったことを。その時から『私が神だ』と言う声が聞こえるようになったのです。　まるで、昨日のことのように思い出されます。石を投げつけられ唾を吐かれ、皆の怒声の中で重い木の十字架を担がされました。それが仲間の裏切りではなく、実はエマのせいだったとは・・・。

エマは、捨てられていたのを私の母が連れてきて育てた娘でした。生意気な女の子で大きくなると男遊びが激しく、弟子たちとよく問題を起こしました。それを注意すると怒って家を出てしまい、その後も私を恨んでいたのです。エマはその後、金持ちの囲われ者になり、その金持ちに秘密を言ってしまいました。

私は当時、一日中押し寄せて来る病人たちを仲間たちと治療していただけでした。私のせいでたくさんの人が殺されたと霊界に来てから知らされました。なぜ私が政治に利用されたのかわかりませんでした。ピラトから裁判に出るように言われました。何の罪を犯したのだろうと真剣に考えましたが、思い当たるのは取税人をひどく罵倒したことだけでした。でもそれは、あの時、『罵倒しないと、これまでにお前が病を治してきた人の霊がお前に乗り移り、同じような身体にして起きられないほどの病気にするだろう!』と、聞こえてきた声に脅されたからです。それで私は大げさに取税人を罵倒したのです。裁判所に行く時、母のマリアから渡された宝石を賄賂としてピラトに渡したにもかかわらず、ピラトは逃げたのです。自分で裁判をせず、民衆に結論を決めさせたのです。裁判所に行く時、民衆は冷たい目で私を見ました。病人を治したり、厳しく取り立てる取税人を非難することは、当時のユダヤ人にとっては助けになることなのに、なぜそれほど私が民衆に嫌われているのかわかりませんでした。その時、ピラトは困った顔をして『イエスはどんな悪いことをしたのか?』と聞きました。その時、立会人は『イエスがユダヤの王だと言っています。そしてイタリア（著者・ローマとは言いませんでした）の支配から立ち上がるために戦うと言って民衆を惑わしているのです!』と言ったのです。それを聞いて、私は何のことかわかりませんでした。その時は、男女関係の乱れを注意した私を、弟子の誰かが恨んで訴えたのだと思いました。以前からペテロの態度がおかしかったので、犯人は彼だと思い、私は最後の晩餐の時に言ったのです。けれども彼は泣きながら『私は何も悪いことをしていません』と言ったので、他には思い当たりませんでした」

「私が忘れられないのは裁判所のことです。いきなり（裁判所に来るように）言われたのではなく、3日

したら裁判所へ来るようにとピラトの使いの者が言ってきました。私は必ず戻ってこられると思っていました。けれども神と名乗る声は『人間の罪を背負って行かなければならない』と言いました。それで裁判所に行く前の日に晩餐を開いたのです。

裁判の日は、なぜか沢山の人が集まっていました。何も悪いことをしていないのに、皆は私にツブテを投げたり、罵倒したりしました。私はなぜこのようにされるのかわかりませんでした。裁判所の中に入ると神と名乗る声から『何を言われてもハイと答えるように』と言われました。そして『力を合わせて戦うべきだ』と言うようにも言われました。それで私の刑が確定したのです。悲しくて今でも涙が出ます」

「私はいつも考えていました。人間はどうして生きているものを殺して生け贄にするのだろうと。でも、やがてそれにも慣れてしまい、平気で生け贄が殺されるのを見ていました。こちらの霊界に来てはじめて、このように血を見るのが好きなのはシリウスたちだとわかりました。そしてシリウスがいなくなった今でも、残酷なことがむしろ以前よりもひどく行われているのは、いにしえに知らされたことを今でも信じているからだとわかりました。

『いかなる恐怖も楽しんではならない』と自分に宣言することが大切です」

「イエスです。父は良い人でしたが、病気を治したお礼のぶどう酒を飲むようになってから嫌な人に変わっていったのです。嫌な人になる原因はぶどう酒のせいだとよくわかりました。それで飲みたくなったら私の血だと思うようにと言ったのです。からだをパンだと言ったことはありません」

【磔後のイエス】

「磔（はりつけ）にされる前、みんなから『殺せ！殺せ！』と言われました。私はなぜそのような目に遭わなければならないのかわからないまま、十字架に打ちつけられ、その痛みで気を失なってしまいました。その後暗くなってから、私は弟とユダに、私の体を土の上に降ろしてもらって助けられました。『釘を抜く時、痛みで大声を出して見つかるといけないから、声は出さないで』と言われました。そして2人に支えてもらい、道ではないところを通り、見たこともない洞穴にたどり着きました。そこはお墓でした。そこには何人かの仲間がいました。そしてユダと弟から死んだふりをするように言われていた私は、ずっと静かにしていました。弟とユダは、私のそばには自分たちが残るからと言い、他の仲間には帰ってもらいました。皆が帰ってから、私たちは離れた場所にあるマナミの家に向かいました。マナミの家に着くと、インド人の知り合いの医師が身体の傷に薬を付けてくれました。私はマナミが世話してくれたおかげで元気になりました。その後、一人の仲間（マルコ?）が『ガリラヤ湖に行ってください』と連絡してきました。私はその意味がわからなかったけれど、歩けるまでに回復していたので、皆に見つからないように弟やユダと共に出かけました。そしてガリラヤの信者の家でかくまわれた後は、身体が元気になったので舟で隣の国へ行き、ラクダに乗って港まで行きました。それから、争いのないと言われた“神の国”へ行くために東へと向かったのです」

【支配されたイエス】

「イエスには、優しい声の他に、神と名乗る嫌な声も聞こえだしました。その声は優しい声が聞こえなくなるほど大きな声でした。そしてそれが次第にひどくなっていくことにイエスは気づいたのです。自分は全く戦争をする気は無いのに、その声は『戦争をしなければならないと言え』と命令してきたのです。その声が聞こえない時、優しい声は『オニの声を聞かないようにするには、オニの嫌がるイバラの冠をかぶると良い。』と教えてくれました。けれども、もう遅かったのです。判決が下され悲しいことになっていきました。イエスが磔にされ、その恐怖を楽しんだオニは、その後イエスから離れました。そしてイエスは優しい声に導かれて日本に向かったのです。その優しい声こそイシカミだったのです。イエスは本来の優しさに加え、病気を治す力もまだ持っていましたので、日本ではとても幸せに過ごす事ができました。

【日本でのイエス＝イスキリ】

「日本の東北に着いてから私はイスキリと名乗り、一日中病人を治したり石を切ることを教えたりしていました。不思議なことに、私が病人を診ると病気が治っていくのです。なぜなら、そもそも病気はオニ（シリウス）が作り出していたものでしたから、そのシリウスから力を与えられた私は、その原因がわかり、それを取り除くだけで治るのでした。けれども人々はそれを奇跡と思い、私に頼るようになりました。こういうやり方で、オニの星は人間を支配しようとしていたのです。その後東北から船で南下して行きました。房総半島の湊にもしばらく滞在し、最後は大阪の石切に落ち着きました。アラハバキを祀る神社が東北や浜松などの沿岸部にあるのは、私が伝えていったからです」

「いにしえには命をまっとうできる人が少なかったのです。私は日本に来て本当に良かったと思っています。２０年の間とても幸せに過ごせました。私の教えが良かったと言ってもらえて嬉しいです。今はイネリアのイエスとしてではなく、イスキリとして霊界にいます」

「十三湊（船便の拠点）は、イシカミの教えを伝えるお仕事をしました。“十三”の意味は、キリスト教の十二使徒の人数にバーソロミューを加えた数です。これは私が教えたのです。私は日本に来てからイシカミの教えを知りました。十三（ジュウソウ）は私が住んでいたところです。そこには当時、権力者に反対する人たちが団結していたのです。

■補足説明

『マナミ』＝イエスの恋人

『イエスの墓』＝現在、青森県三戸郡新郷村にあるものはイエスの弟と船頭の墓であり、イエスの墓は大阪の石切神社にあると伝えられたが定かではない。

『アラハバキ』＝アラーは太陽、ハバキは流星（ハバキ＝ハバク＝ほうきで掃くこと＝ほうき星＝流星）

『十三湊（とさみなと）』＝青森県津軽半島にあり、船による交易の拠点として栄えた港湾都市。中世に大津波で壊滅したと伝えられ「幻の港町」といわれてきた。

イエスに関係のある人々

【ノマ】

ノマはエマの妹で、姉に似ずやさしい娘でした。

「賢いノマは子供のために生きる決意をしました。イエス様は神と名のるものに支配され、『戦争をしてでもローマから独立しなければいけない』と言わされていました。『皆に恨まれても、それを言わなければライ病にして目を見えなくしてやる』と脅され、支配されていたのです。本当にお可哀想でした。私がお嫁に行くことになったのはやきもちを焼いた姉の指図でした。イスカリオのユダだけが、イエス様の苦しみを知っている弟子で友達でした。イエス様がお墓から居なくなった時、ユダもいなくなったのです。それで、弟子達はなぜユダ達が居なくなったのか推測していました。

金貨の話が出たのは、奥様（マリア）が沢山のお金を渡して、『ピラトにお土産にするように』とイエス様に言っていたと、バーソロミューが言ったからです。それでご主人（ヨハネ）が怒って、奥様のお腹を蹴ったので亡くなられたのだと皆で話しました。私は嫌々ローマのお役人と結婚しましたが、夫はとても優しい人で、人間イエスを助けたいとも言っていました。そして子供が産まれたのです。イエス様ははりつけの後、マナミの家から女装をしてエルサレムを脱出したのです。ノマのお話でした」

【ピラトの娘】

「ピラトの娘のニアスです。イエス様を逃がしてあげなかったことを後悔していました。逃がしてあげたらイエス様はあのような苦しみに合わずにすんだのにと、今まで後悔していました。イエス様はとても良い人でした。私は（イエスの）仲間だったのです。思い切ってお知らせできて良かったです。今、ようやく星に行くことが出来ました」

【ルター】

「私はルターです。私のことが事実とは違って伝えられているのでお知らせします。私は何も厳しい人ではありませんでした。私は生き甲斐を求めたのです。当時はお金を出すと天国に行けると言って、貧しい人からもお金を寄付させていました。そして、教会だけを大きくしていったのです。私はそれはおかしいと思いました。でも、そのことでとても弾圧を受けました。正しいことなのに認めてもらえませんでした。けれど、やがてそのことを信じる人が多くなり、教会も認めざるを得なくなりました。それで私のことは意地悪く書かれたのです」

「ルターの仲間の者からお知らせします。ルターが一人で宗教改革を決めたのではありません。たくさんの人たちが寄付の強制のため、教会に対して不満を持っていたのです。一生懸命働いたお金の中から、いつでもピンハネされました。収入のない人からは、その人の持ち物を取り上げていました。それが皆の不満でした。それで次第に、同じ考えを持つ人が集まり、話し合いが持たれたのです。やがて皆の推薦を受

けてルターが代表になったのです。彼は人々の信望を集めた人でした」

■補足説明

『ピラト』＝ローマ帝国の領ユダヤの総督で、イエスの死刑を決定する立場にあった。

『エマ』＝ノマの姉で、イエスを妬んでいたパリサイ人の愛人となり、イエスに不利な噂を流した。

【これまでに知らされたマホメット】

アトランティス時代の人間の中に“ミネルバ”と“ムネルバ”という仲の良い双子の兄弟がいました。二人とも手のひらにほくろがありました。時は経ち、双子の1人は“イエス”、もう1人は“マホメット”として生まれ変わりました。この人生で再び偶然出会った二人の少年は、前世と同じくとても仲良しになります。前世のことはもちろん知る由もないのですが、手のひらに同じように傷があるのを見つけたことにより、ますます仲良くなります。二人とも立派に成長しますが、イエスは一部の人間により妬まれて命を狙われるようになります。そこで遠くに逃げようと思ったイエスは、船主であったマホメットに

助けを求めます。マホメットはイエスを可哀想に思い、船をあげます。イエスは無事脱出することができますが、その事を快く思わない悪者は、イエスを手助けしたマホメットを殺してしまいました。そしてマホメットの財産を自分の物にすると、マホメットの息子・ムハメットをひきとり育てます。けれど、悪者はムハメットがいつ本当の事に気づくかと恐れて、何度となく彼の命を絶とうとします。そのようにムハメットは命をねらわれながら、回りの人から愛情を受けることなく育ちます。彼の殺された父・マホメットは穏やかで人望ある人でした。【目には目を】を『見て美しいものをもらったら、見て美しいものをお返ししなさい』、【歯には歯を】を『食べるものをもらったら、食べるものをお返ししなさい』という良い意味に解釈して人々に教えていました。すなわちそれは『神様から与えられるものを独り占めしてはいけない』ということでした。

けれども悪者は『目をやられたら、目を傷つけるように。歯を折られたら歯を折るように』という、大昔の教えで反対の恐ろしい復讐の法律に戻したのです。そしてムハメットも復讐をするように教えられました。又ムハメットは悪者に『お前の父親を殺したのはキリスト教徒だ』とうそを教えられて育ちました。ムハメットはいつも絶えず命を狙われているように感じていたので、人を信じる事ができませんでした。たった一人の妹のことだけを愛していましたが、その妹も自分と同じように命を狙われるのでないかと心配していました。それで彼は、妹が外に出るときは顔がわからないようにしようと思い、女性の皆に布で顔を隠させるように命令します。それでも心が落ち着かないムハメットは、なんとか強くなろうと平野で

修行をします。修行をしていたある日、ムハメットは神と名乗る声を聞きます。『黒い水（石油やコールタール）が出るところを教えてやろう。けれどその黒い水が出たら、お前の命を狙う者も出てくる。妹と一緒になった者がお前の命を狙う事になるだろう』と。

その後、妹には好きな人ができ、その相手はムハメットの部下の者でしたが、ムハメットは悩んだ末、妹の目を刺し、部下を殺してしまいます。その後もムハメットは、声の言う事を聞くことで自国を大きな国にする事ができますが、最後まで自分のしたことを後悔していました。ムハメットはますます強い王様になり、様々な厳しい掟を作ります。『ご馳走を食べ過ぎるので、たまにはお腹を休めるように』という声を聞くと、国民にも同じこと（断食）をするように言い、また、いつも頭の上から声が聞こえることから、その声を他の人も聞こえないようにするため、頭に布を巻くように言いました。それから、太陽と地球に感謝をするようにお辞儀をするように、『豚は悪いドラゴンが変化したものだ』との声に従い、豚を食べる事を禁止します。彼はこのように厳しい掟を作りましたが、仲間を大切にする事などの良いことも決めました。このようにして、大昔に作られた規則が現代にまで残っているのがイスラムの世界です。

本来イスラムの教えは、感謝することや仲間を大切にすることなどを教えるとてもいい教えでしたが、長い年月の間に教えの一部が少し違って伝えられたために、今争いが絶えず起こっているのです。天国のマホメットは、『このことがとても悲しいと伝えてほしい』と言ってきました。

「イスラムの教えは、少し解釈を変えると、ソラのものが言っていることととてもよく似ているのです。ただ一部の『復讐をするように』という教えは間違っていますので、本当の教えに戻してください。『自然が与えてくれた恵みは皆で分ける』という素晴らしい教えに戻してください。人間はおいしく味わうこと、きれいな物を見ること、きれいな音を聞くこと、愛することの素晴らしさなどを、肉体を持つことで体験できるように作られているのです。争いを楽しんだオニ（の星の意識体）はいなくなりました。これからは人間達でお互い助け合って、なぜ生きているのかをよく考えて生きてください。　ソラのものより」

【イエスとマホメット】

「私はマホメットです。一番お知らせしたいことは、過去世で私とイエスは仲の良い双子だったことです。それなのに、後世ではオニのために別れさせられたのです。それをわかって欲しいのです」

「イエスとマホメットです。真実を伝えたので、私たちはソラに戻れました。ここから見ると人間はおもちゃの兵隊のようです。みにくい争いは、ソラのものから見ると、無限の闇に突き進んで行くように見えます。しばらく立ち止まってください。そしてどうしてかわいいお花は咲いているのか？人間はなぜ存在しているのか？みにくい争いのもとになる激しい憎しみの感情がなぜ沸いてくるのか考えてください」

「それはオニによって教えられた嘘を信じているからです。真実を知ると無益な争いということがよくわかります。けれども現実にはなかなか気持ちを切り替えることが出来ません。

そのような感情や思いこみを取り去るには、あなたの霊とソラのものにお願いしてください。『私の頑固な思いを溶かしてください。そして素直な心にしてください。』と。そうするとソラのものはあなたの霊と相談して、何とかその思いを消すようにお手伝いをいたします。直ぐには直らないかもしれませんが、あなたの霊も頑張ってくれるでしょう」

「ムハメット（マホメットの息子）からお知らせします。これまで騙されてイエスを恨んできましたが、それは間違いでした。牛達が“変わった死に方（＝家畜の変死）”をしているのを見てください。これこそ人間には決して出来ない“神業”なのです。そしてヨーロッパなどに出来ている、すばらしく巨大な図（クロップサークル）を見てください。ソラのものは一生懸命、マホメットとイエスが仲の良い双子だったことを知らせてくれています。あのアフガンの山々もイシカミでした。私はそれを悲しい思いで見ています」

【釈迦とブッダ】

「釈迦とブッダはインドのお金持ちの双子でした。兄の釈迦は陽気で、毎日贅沢をして楽しく過ごしていましたが、弟のブッダは身体があまり丈夫ではなく、目をしっかりと開けることもできませんでした。兄の釈迦は快楽を楽しむモノ（＝オニの星）に支配されていたので、苦労もせず楽しい人生を送ることができました。そしてそのような人生を送りたいと思う人々によってシバ神とあがめられました。そして釈迦

のような人生を送りたいと願う人はとても多く、宗教として広まっていったのです。

弟のブッダは、少しでも強い身体になろうと、ヨガの仙人の所に行きました。けれどもヨガの仙人は『食べるものがなく、この苦しさから何とか逃れようといろいろな苦行をしているだけだ』と言ったため、ブッダはどうしようかと思いました。それでもこれまでご馳走を食べ過ぎていたので、断食だけはすることにしました。ブッダが荒野で断食をしていると、そこにオニが降りてきて、『言うことを聞けば、特別な力を与えてやろう』とブッダに語りかけました。それ以来、ブッダは人々の病気を治したり予言ができるようになりました。ブッダはその声に言われるままに従います。ブッダの教え（仏教）は、良い事も教えていましたが、オニに命令されるまま〝ねばならない〟と言った厳しい修行も教えていきました。食事も、食べた物に生まれ変わるからと動物を食べることを禁じるだけでなく、ついには人間に生まれ変わるためにと、とんでもない教えを言ったために、それを聞いた民衆は一度にブッダの教えから離れインドでは広まりませんでした。しかしインド以外の遠くの人達には、とんでもない教えは伝わらずに、『仏教を信じていると死んでから極楽へ行ける』と共に、『仏教を信じないと地獄へ行く』というブッダの教えたジゴクの恐ろしい様子が詳しく伝わり、脅かされた人々は、仏教を信じる信者となり遠くの国まで広まり増えていったのです。

イエスと同様に、ブッダも二つの声を聞いて困った思いをしました。優しい存在の愛に満ちた教えの声に混じり、オニの声もいろいろ聞こえてきたことにより、悲惨な目にあったのです」

その他の人物

【アレキサンダー大王】

「ローマが栄えたのは、オニが力を与えていたからでした。アレキサンダー大王に力を与え、そして若くして殺したのです。オニは人間をロボットのように操り、戦いをさせていました。あの大きな建物を造る技術や力はシリウスが与えたのです。ローマ時代の建物はギリシャの建物の残りで、かつてイシカミの子孫が作ったものの上に漆喰を塗って使っていただけでした。ギリシャ建築の大きな石は、イシカミの子孫が石の原子に話しかけて持ち上げていました。イシカミの子孫はとても優秀で大きく、また力がありました。イシカミの子孫の骨は残っていませんが、イシカミの子孫の身長は５ｍ（？）はあり、彼らは人々から“神”と呼ばれていました。この子孫が石のギリシャ建物を作ったのです。その時代は２５００年前よりもさらに古いのです」

「私はアレキサンダーでした。私についてほとんど知らされていないのでお知らせします。私は元々気の弱い平凡な男だったのですが、ある日『私は神だ』という声が聞こえ、その後いろいろな予言ができるようになったのです。その予言が次々に当たるので、当時の王様は私を家来にし、次々に隣の国を攻めては領土を広げていきました。王様が死んだ後は私が王に選ばれました。私は聞こえてくる声の言われるままに更に攻めていき、領土を広げていきました。私には実らぬ恋がありました。当時私には好きな女性がいましたが、独り身でした。なぜかというと、実は私には性器がなくて子供を作ることができなかったから

なのです。そればかりか、私はまともにしゃべることもできませんでした。それほど身体が不自由だったのです。私のただ一つの特技は未来を予言することでした。そして、それらは全て当たりました。オニの星のものが教えてくれたのです。最初は一番小さな国だったのに、あのように大きくできたのは、知らされた言葉を信じたからなのです。そして今、私は霊界でとても責められています。今、国を広げようとしている人たちへ言います。私はその名の通り“雷のなる男”で、雷が鳴るとお告げがありました。そして次の国を攻めていったのです。けれど、このように他の人を苦しめると、死後こちらの霊界に来てからは、責められ続けることになります。これが一番知らせたいことでした。私は情けない顔をしていて体も小さく、また女性のような身体だったので、王様のようには見えませんでした。それで私が王様だということを知っている人が少なかったのです。これが私の物語です」

【ジンギスカーン】

「私はジンギスカーンである。よく働いた者には必ず十分な報償を与えた。報償をどのようにして決めたのかというと、持っている刀の数で褒美を与えた。当時は皆刀を持っており、女子供も小さな刀を持っていたが、それを取り上げたのだ。そのために女・子供も殺した。しかし、これらをカーン自身で独り占めすることはなかった。だから皆ついて来てくれたのだと思う。それからいつも移動できるように最も簡単な造りの家にした。なぜなら、居座ると気がゆるみ力が保持できないからである」

「ある時ジンギスカーンは“皆の者、これから攻撃するぞ！”と言いました。それから私たちはお互い

をしっかりと確認し合いました。私たちはグループで行動しました。そうしないと敵か味方か解らないからです。また、グループで行動することにより仲間のつながりが強くなって、反旗をひるがえす者が少なかったのだと思います。ジンギスカーンが次々に味方を増やし、領土を増やすことができたのはそのせいだと思います。自然に大きくなっていったと思うかも知れませんが、それは違うのです。そして善良な者まで悪者になっていきました」

「私はジンギスカーンです。こちらの霊界では、仲間が追いかけて来ます。なぜなら、私が殺したからです。……」

「死人に口なしです。ジンギスカーンはとても恐ろしい人でした。全てを奪い、全てを殺し、これまでになく大きな国を作り上げていきました。しかし、彼に従う人には穏やかでした。ジンギスカーンにオニの霊が入ったのです。それから彼は、異常なまでに恐ろしい人に変わっていきました。次々と国を攻めていったのは、やはりオニの声が聞こえたからです。でもなぜその声が聞こえてきたのかは解りませんでした。私たちは、知らされるままに責めていきました」

この他、ヒトラーも感電して意識を失ってからチャネリングができるようになり、アレキサンダーと同じように権力者になったと知らされました。

「現代」に関するメッセージ　（事件・病気・生活など）

【身体に関する情報】

これからお伝えする事はあくまで“ソラのものから見たこと”で、人間ではまだ原子に頼んでもすぐに反応があるかどうかはわかりません。

「人間の身体は小さな原子が毎日たくさん出たり入ったり（代謝）して生きているのだということを知ってください。そして“原子には意識がある”と思うことが一番大切です。原子に意識があると思うと身体に無茶はできませんし、一生懸命細胞たちが働いてくれていることを思うと、原子に感謝する気持ちになるでしょう。たとえ排泄物でも、身体を維持し、その役目を終えて元素に戻るのですから、感謝こそすれ嫌がってはいけないのです。身体に痛みがある場合も、その部分に無理をしていないか？感謝をしているか？などを振り返って、そこに意識を向けてください。病気は自分の霊がお知らせしているのです。不安・悲しみ・怒り・恨みなどの“壊れ物”の思いを捨てることも大切です。病気は『人間は肉体だけではない』ということをお知らせしているのです。病気になった時は、病気を起こしている細菌やウイルスにお願いしてください。『お知らせはわかりましたので、辛い症状を治して下さい。』と。そこに意識を向けることはとても大切なのです」

「歯の痛みや歯周病は、『歯はイシカミが作った』という事をお知らせしています。叉言うべきことを言

わないと、口の中を噛んだり、舌が引っ張られるようになったり、口内炎や咳などとしてお知らせされます」

「“ほくろ”は、麻疹にかかった時にウィルスが皮膚に流れ着いて漂着して居座り、流れ着いた所の一部の細胞が嫌がって変化を起こすために出来るのです。ヘルペスも同じくウイルスが皮膚にたどり着いてそこに居座り、胃腸が弱った時にその周りの細胞も弱るため、その小さなウィルスが暴れ出だして出来るのです」

「顔のシミは古代の意識をあらわし、細胞がお知らせをしているのです。目の横のシミはアトランティスをあらわし、シミは地球の歴史をあらわしているのです」

「脳出血は、顕在意識と潜在意識（霊）がチャンバラをして血管をちょん切るために起こります。頑固に思いこんでいることがその人の霊の思いと違う場合、そのようにお知らせされるのです。脳梗塞も、やはり顕在意識と潜在意識（霊）の考えが違うので、その人の霊がお知らせします。一方くも膜下出血は、本人が生きたくても、潜在意識（霊）は人間としての仕事が終わったと思い、幕を閉じるために膜に出血させるのです」

「リュウマチはイシカミの身体が固まっていく時のことをお知らせしているとも言います。イシカミの苦労を思ってあげてください。また、身体に感謝することなく、無理な要求ばかりしないでください」

「アレルギーやアトピーは、身体の細胞が嫌いな食べ物の細胞とけんかをしているのです。原子にも意識があるということを認めて、それとお話してください」

「人の身体で、弱いところにより強い症状が出るのは、毎日の生活で何が間違っているのか自分自身を振り返って見ることが大切だとお知らせしているのです。痛みがあるときは身体がお知らせをしているので、手を当てて無理をしたことを詫びてください。私たちは人間を、手から病気を治すようなエネルギーが出るように作りましたから」

「足の異常は霊が知らせているのです。右足は霊の命令で働き、左足は顕在意識で働きます。両足仲良くしてもらう事が大切なので、足をそろえて欲しいのです。足や身体の働きにもっと感謝してください。それから、進むべき道から外れていくと足は痛みで訴えますので、これまでの生き方を見直してください。足の静脈瘤は霊がとても強く表に出ているという事をあらわしていますので、いたわりこそすれ嫌がらないで下さい」

「腰から下は霊が主導権を握ります。そしてその霊が腰痛として知らせるのです。なぜ歩けなくなるかというと、霊だけがこの世からおさらばしたいと思うからです。早く別の肉体に変わりたいと思うのです。霊の思う道と現実に進む道が違っていたので嫌になったのです。知らなかったからとお詫びをして、残された機能に目を向けてください」

「手足口病は、ウイルスに手足口にだけ“水”（水泡）を作るように命令してあるのです。手と足は、身体から離れているので大事にしてもらえないことを恨んでいるのです。また、口は食べ物を食べる仕事の他に、話す事もしなければならないからです。その事を思って感謝をしてください」

「鼻水が沢山出るのは、その人の霊が思い込みを流してもらいたいので、沢山の鼻水を出すのです（霊を

認めてほしい)。この物語を良く知っていても鼻水が出るのは、これまでの（記憶）を流したいと思っていると思ってください」

「コンタクトレンズをはめる事は目がビニールのマスクを毎日かぶせられていると思ってください。(充分な空気が吸えないこと?)」

『真っ白な植物の芽が2本生えてくる夢を見る』

「長いことコンタクトレンズを」はめているとこのようになり、目の栄養が偏るのです」

「多くの人たちは、細胞たちが一生懸命作り上げてくれた肉体を持っていても、なぜ人間として生きているのかという目的から大きく外れて生きています。人間として生きる目的は、『肉体を持つことで五感をはっきりと感じることが出来る』ということを体験するためです。美しい、おいしい、気持ちよいなどの感覚を味わうことができるのは、肉体を通してのみ感じられます。どうかソラのものが一生懸命作った素晴らしい肉体を通して、その感覚を十分に味わってほしいのです」

「宇宙は流動的です。何事も留まるとは何とか進もうとします。それは意識やお金もそうなのです。それでお金に執着しすぎて、持ちすぎることも身体にとっては良くない事がわかるでしょう」

【原子について】

「原子はすべての物質を構成する最小単位で、原子とその周りを回る電子から成り立っています。なぜ電子が原子核の周りを回っているのか、人間は考えようとしないでしょう?原子核が電子に『回ってお知らせをして頂戴ね』と言っているからなのです」

「『お願いをしないと電子は回ってくれないわよ。だから原子にも“思い”があるということなの。それを知らせて頂戴ね。』と、」

「物質は、ガスを重ねていくことによってできています。原子を横に並べて、オーロラのようにひだを持たせ、丸みを与えて重ねていきます。そしてそれを何回も繰り返していくと物質になります。オーロラはこのこと（物質の出来方）をあらわしているのです」

「宇宙は原子が高密度に詰まっているのです。そして原子には意識があるのです」

「食べ物の原子にとって、電子レンジは地獄のようなものです。電子レンジを使うときは、電子レンジに入れる前に謝って欲しいのです。以前はタンパク質さんがとても嫌がっていましたが、今ではあきらめたそうです。電子レンジは学校の試験のようなものです。とても嫌だけど、仕方なく受けているものと思ってください。けれどもチカン（ラップのこと）は嫌なのです。仲間のプラスチックのことをこんな風に言うのは嫌なのですが、プラスチックはお友達の振りをして、チカンのように食べ物の原子にひっついてくるのです。食べ物をプラスチックにくっつけた状態で電子レンジに入れないでください」

「石油やコールタール（黒い液状の石炭）は何からできているのかをお知らせします。この黒い水は、大

昔、白い木（稲妻）が降りた時に燃えた植物なのです。はるか昔、凶暴な恐竜を消滅させるために、たくさんの稲妻が一度に地球に降りたため、一瞬の内に植物は燃やされてしまったのです。その植物の原子はあまりにも突然、訳もわからずに燃やされたので、燃えなければいけないと思いながらも長い間眠っていました。眠っていた植物の原子は水で冷やされたことしか覚えていないので、掘り起こされて火に出会うと、反射的にまた燃えなければならないと思ってしまうのです。又なぜ石油からいろんな製品ができるのかというと、石油はあまりにも一瞬の内に燃えて死んだので、自分が何者で、どのような性質なのかわからなくなっているのです。それで石油の原子は『色んな製品になるのが自分の仕事』だと思い込んでいるのです。これまで石油たちの原子は『人間に使うだけ使われて、邪魔者扱いされていたことが悲しい』と思っていました。どんなプラスチックにも意識があることを理解し、それに感謝して欲しいのです。その原子は生きていて、意識があることを知って欲しいのです」

【お知らせのカタチ】

「ソラからのお知らせを、嫌な事件などでなく、もっと人間が喜ぶようなことでお知らせしてほしい」ということに対しての返答です。

《自然界の異常》

これまで“自然界の異常”等でソラのものは人間に向けて一生懸命にお知らせしてきました。極めつけはクロップ・サークルの大きさや内容の変化などです。

「隠されていることに目を向けて欲しいのです。ソラのものが知らせている情報は抹殺され、クロップ・サークルの情報等も外国のホームページからしか得られません。その他、謎に包まれている不思議なことも、マスコミはこれまでの進化論や人為的な説を当てはめて知らせるだけで、それは本当のことではありません。正しい情報が広く世界に届かないので、テロリストたちの意識の向く矛先が何千年前の教えにしかいかなく、ひたすら戦うことのみを考えるのです」

「みにくい事（テロ事件）は、世界大戦を起こそうと計画していたオニたちがそれぞれの（テロを実行した）テロリストたちの脳に時限爆弾付き翻訳機を入れておいたので、それが爆発して実行されたのです」

《シンクロ・夢・直感》

「これら（シンクロ・夢・直感）もソラのものがお知らせしているのです。この物語を信じてくださる方同士のシンクロが、最近多くなってきています。その中に夢の共通点も多く、それはなぜかというと、ロボット（ソラのものの部下）達が本当に皆さんのそばで皆さんの様子を見ていて、ソラのものにそれを知らせているからです。ロボットたちはその人の思いを知ることが出来、ソラのもの達に報告して、このように何らかの形でお知らせてしているのです」

《光の玉（オーブ）》
写真を写すと光の玉が映る場合があります。色が付いたり形のいびつなものの多くはエネルギー体であり、人間生活に影響を及ぼすことがあります。それに比べ、自然の中の白い光の玉はイシカミのロボットです。

《家畜の変死》
家畜が血を流さずに一部の組織だけが切り取られて死んでいる不可解な事件（キャトル・ミューティレイション）に対しての答えです。
「私たちは、牛達の協力（家畜の変死）で人間にお知らせをしてきました。目の部分だけの組織を取るのは『人間が見えるモノしか信じない』ことを、また、耳の部分がないのは『声として聞こえるもの以外の言葉は信じない』ということを、人間たちにそれぞれお知らせしているのです。生殖器だけが切り取られているのは、『人間は、どこから来てどうやって肉体が出来ているかということを知らない』ということをあらわしているのです。これらの切り口からなぜ血が出ずに乾いているかを説明します。ヘモグロビン（Hb）は酸素（O）と結合すると赤くなるのですが、この場合は酸素と結合しないのです。なぜHbがOに結合しないかというと、それはソラのものがHbとOに分かれるように指令を出すからです。それにより、Oはソラのものの指令を守って自分たちだけで団結し、Hbと離れているからです。また、切り取られた痕がきれいなのは、ソラの者たちが線のようにエネルギーを肉体に送って家畜の身体の部位に線

を引き、その部分を作っている原子達に『解散してください』と頼むからです。すると、線を引かれた部位の原子達は喜んで、それまで手を組んで物質を作っていた相手の原子と離れるのです。これが家畜の変わった亡くなりかたの原因です。肉体の一部に3点の穴があいているのは『三位一体』のことを表しています」

《月面着陸》

いろいろと言われていますが、以下はソラのものからのお知らせで、真偽の程はわかりません。宇宙飛行士の会話の中でサンタクロースという言葉が出てきますが、それは小柄の小さな宇宙人グレイと知らされました。グレイはプレアデスのロボットだそうです。

「人間が実際に月に到着したことはありません。霊体だけが来たのです。なぜなら、プレアデスたちは霊体だけを他の惑星に連れて行くことができたからです。彼らは人間の想像をはるかに越えたことができたのです」

「月はプレアデスに気が遠くなるくらい支配されて、とても嫌でした。(月にプレアデスの基地があった?)なぜなら、月と地球の間には見えないトンネルがあるので、地球に降りるのに都合が良かったからです」

《カゴメ紋》

読者の方の間で、カゴメ紋のビジョンを見たり何も知らない子供さんがカゴメ紋の絵を描いたりというシ

ンクロが重なったことに対して。

「金色の翼の物語です。今、ソラからの情報を知っている仲間の人たちの霊には、金の翼がついています。霊たちが別次元で出会っているのです。それで遠く離れた人達が同じ模様（カゴメ紋）や夢を見るのです。これで、ソラのものが多くの人に同じことを伝えられることがわかりました。カゴメ紋、すなわちソラの意識（霊）と地上の人の意識（霊）がつながることができるようになったのです」

《手》

「左の薬指には、人間が目覚める知識が隠されています。その指は右の脳とつながっているのです。これまでオニの星たちは、そこに指輪をはめさせて支配するためのエネルギーを送っていました。手の内側の薬指の下のへこみが大きくなると、そこと脳とがつながり、ソラからのメッセージが受けられるようになるのです」

【映像の恐ろしさについて】

「２０００年から少し次元が上がりましたが、今の若者は生まれた時からいきなり恐怖の映像を見せられ、次元の違いがわからなくなっています。ＴＶ番組やビデオを見ることで現実から逃避できる環境が与えられ、その中に閉じこもり、しばしば異次元に行くのです。それでますます現実に戻ることができなく

なり、それをオニが利用したのです。現実の自分ではないと思っていけない行動をするのです」

「地球の未来は皆の想念によって作られていくのです。そしてそれを握っているのが“マスコミ”なのです」

「なぜ“殺すこと”はいけないのかというと、それは生きることを止めさせるからです。生きたいと思っている人に生きることを止めさせるのは一番いけないことなのです。醜い意識は連携作用（連鎖反応のこと?）で、類は友を呼びます。それに対抗するには、一切そのようなものを脳に知らせないことです。ソラのものから見ると、人間たちの思いはつながっているのに、人間はそれに気が付いていないのです。殺すことの映像を楽しみで見る人は“違う次元で人を殺しているのと同じ”なのです。似たような事件が続くのは、（その事件を起こす人たちの?）次元がつながり思いがつながっているからです。鏡に映る自分が違う次元の自分だとわかれば、カメラに映し出された他人のように見える人間も、実は“つながっている違う次元の自分”なのだということがわかります。そのことを知ると、カメラが本当の自分を映し出していることがわかるでしょう?それで心霊写真には、実際にはいないものが写るのです。映画を作る人はこのことを考えて作って欲しいのです。『現実は一つの次元だけではない』ということです」

「今のように、映画やＴＶ番組などで恐怖を生み出す作品ばかり作っていると、やがて恐怖の想念で満ち溢れた地球になっていきます。現在人間は、あまりに安易に恐怖の映像を作りすぎています」

【チャネリングの際の注意】

■チャネリングが始まった場合に「注意をして欲しいこと」

エネルギー体（意識体）はこちらの様子をよく見ていますので、より巧妙に話しかけてくるようです。エネルギー体は“人間の形がない”というだけで、本当にいろいろなモノがいます。人間のために働いてくれるモノもいますが、一番はやはり「自分を崇めて欲しい、自分の言うなりに人間を動かしたい」という欲望のあるモノが多いようです。

■チャネリングが始まった場合に「おかしいと思って欲しい相手」

特に「・・・をするように」と指示する相手は一番怪しいと思ってください。ソラのモノたちは希望は言いますが、決して強制はしません。

1）とてもハッキリとした声で人間の都合に関係なく、聞きたくないと思うことでも言ってくる。
2）色々なことをするように命令する。
3）仕事を変えさせる。または仕事を辞めさせる。
4）エネルギーを与えて病気を治す超能力を与え、本人も若返ったように元気にさせる。
5）地獄などの悲惨なビジョンを見せたり、「言う事を聞かないと地獄へ行く」と言って脅かす。

６）「地球の終わりがある」と恐怖を与え、「自分の言うことを聞いていると、その時には助けに来る」と言う。
７）他人に対して横柄な態度で命令したりする様に言う。
８）「地球がだめになっても、違う星に連れて行ってやる」と言う。
９）金粉などを出現させ、このようなことができることはあたかも神と同じと思わせる。
１０）エネルギー体が言った事を決して他人に言ってはいけないと言う。
１２）突然身体の一部にちくちく刺すような痛みや電気を流されたような感じを受ける場合は、エネルギー体がいたずらしています。
１３）光の神や女神や天使の姿をあらわす（９８年まではよく見られた）。

仏像などを熱心に崇めていると大きなエネルギー体が生まれてきて、人間生活に影響を及ぼします。その他書物、ＰＣ、ＴＶなどからも、とても強いエネルギーが発せられ、それがエネルギー体を形成していると思われる場合もあります。そのように感じられる場合は、それらから一度離れてみると良くわかると思います。

オニの意識体、エネルギー体について

【オニの意識体】

オニの星というのは、人間に愛という概念や科学などの知識も教えましたが、人間を支配し、ロボットのように争わせて楽しんでいた星（シリウスやプレアデスなど）の霊のグループです。一番の大元は“宇宙の大元の弟”でしたが、表には出ないで陰で人間を操っていたそうです。宇宙の大元でさえ弟の行動を止められなかったそうですが、２００２年に宇宙の大元の弟も消滅し、愛のエネルギー体に戻ったそうです。

「オニの物語です。オニとは、野放しにしていた子供が『何か面白いことはないか』と探検をしていて思いついた“単純な思い”が現実になったのです。それを作った時はどんなことになるかもわからず、ただ子供が何気なく『面白く遊びたい』と思う気持ちと同じでした。けれど、それが恐ろしい事になっていったのです。その事を穀物の模様で表しました。（No. 201）」

「良いことを言っているようでも、“～しなければならない・～せよ”などの強制や命令の言い方をしたり、恐怖を与え続けて支配する存在もこのオニのグループなのです。１９９８年にオニの星のグループの霊はいなくなり、今はその想念だけが残っていますが、その想念が集まると大きなエネルギーになるので

す」

「本当は星は皆仲間なのです。ただ一時期、意地悪な星の意識体（霊）が住みついただけなのです。かつて地球を支配していた星の意識体“オニ”は全て、現在は愛のエネルギー体に戻り融合しています。かつてオニたちがいた星そのものは、今では名のない星の霊が住み、皆仲良く暮らしています。今霊界はとてもきれいで、現実の生活でオニたちの意識がちょこちょこ出てくるのは、これまでの想念が強いだけですので心配ありません」

「四獣神（龍・トラ・玄武・鳳凰）は、オニの星が送り込んだモノです。それを神と思わせることにより人々にイシカミを忘れさせ、それらの模様をあらゆる所に描くことによりイシカミを封印していったのです。人類は四獣神を神と思うことで争いを好み、絶えず戦争をするようになり、それをオニの星たちは空から見て楽しんでいたのです。また北斗7星は、オニの星の霊が人間に『ひしゃくで地球をすくい取る＝支配するぞ』と脅かし、その模様を星座として教えたのです。ひしゃくの形として星を見なければ大丈夫です」

「脳に組み込まれた“争いを好む”という感覚は、本人が一生懸命取り除くことを希望しなければ取り除けません。それが取り除かれるのがいつになるかは全くわかりませんが、ソラのものは希望を捨てません」

「人間の体はほとんどが水からできています。あらゆる宗教で水を扱うのは、その（宗教の）水と人間の身体の水とがつながり、水に呼びかけることで人間の身体の水を支配するためでした」

他には、“蛇口”や“龍の口”から水が出るのも同じ目的だったそうですが、今はオニがいなくなったので全く影響はありません。

「マニラについてお知らせします。マニラには、マヤと同じように支配するオニが降りました。そのオニがイシカミをないがしろにしたのです。オニは自分の身代わりの蛇に日本に渡るように命令したのです。それでものすごい数のマムシや蛇が日本に渡って来て、国中に広がりました。それから醜い龍神が蛇の王となり、人間を支配していったのです。醜い龍神は今はいなくなりましたが、それを神と敬う人たちがたくさんいるので争いが絶えないのです」

“名のある星”（星座の星）はオニの部下でしたが、以前はそのことがわかりませんでした。現在はそれがわかったので、『星から』という代わりに『ソラのものから』と書くことにいたしました。ソラのものは人間を、昼も夜も見守ってくれています。お願いはソラのものにしてください。

【エネルギー体】

「エネルギー体は強い思い込みの固定観念から自然に発生します。また、像などの形のあるものを拝むと、そこにエネルギー体が住みついて支配するようになります。なぜかというと、そのエネルギー体が『自分は神というものになれた』と思うからです。そして、そのエネルギー体から新たに小さなエネルギー体が発生し、人間に話しかけることが出来るようになります。その存在を多くの人が崇めれば崇めるほど、大きなエネルギー体となるのです。愛などきれいな言葉を並べていても、意味のない内容はエネルギー体な

のです」

「見えない名の無いソラのものより、はるかに大きなエネルギーを持つ“目に見える星”に願いをしないでください。そうする事で、とてつもなく多くの星の意識が、『また地球を支配しよう』という意識に変わっていくのです。お風呂の蓋の内側に水滴が出来るように支配するエネルギーは生まれ、その水滴が大きくなって落下するように、地球に降りて支配しようとする意識も大きくなることがよくわかりました。星座はこれまで支配していた者が作り上げたものですので、星座として見るのではなく、星たちを“星の戦争”の前の形として見てみてください。（No. 7）」

■補足説明

『玄武』＝頭が蛇で体が亀の生き物。亀（＝イシカミ）を蛇がやっつけている姿と言われる。

【UFOについて】

あるホームページに、ニューヨークのテロ事件（2001年9月11日）の時、崩壊していくビルのそばにUFOらしき形が載っている画像がありました。

「UFOについて、ソラのものからお知らせします。これらのUFOは一部のソラのものたちが作りまし

た。このＵＦＯは物質ではありません。別の次元にある半物質のモノなのです。すなわち違う次元にあるのです。このことをなぜ知らせなければならないかというと、地球の人たちは現実の世界しか認めないからです。ソラのものはオニの星のように大きな力がありませんので、このような半物質のものしか作れません。ましてや肉体のある宇宙人は作れません。では、なぜ半物質とはいえこのようなモノを作れたかというと、オニに地球が支配されている時に、ソラのモノはＵＦＯの作り方を見ていて覚えたのです。一生懸命見ないと見えないモノなのです。それはアンモニアの分子が集まったモノなのです。それによって空気が冷やされ、水滴になるのです。

ＵＦＯをあらわしたのはなぜかというと、ＵＦＯを信じる＝オニの星を信ずる人の想念がとても大きいので、それを形であらわしたのです」

「ＵＦＯが一部の人の写真にしか写らないのは、人間たちはそれぞれ、微妙に違う次元にいるからなのです。たまたまＵＦＯと同じ次元に居あわせた人間だけが写せるのです」

「これまで地球を支配してきたオニの星の霊を認めることは、“汚れたゴミと一緒に住む”とか“汚れた服をそのまま着ている”のと同じですので、オニの考えとはきっぱり離れてください。悪をも認める。悪も愛で包む”ということは、一見良い事のようですが、火種となってまた大きく育っていきます。厳しい言い方ですが、“悪いモノは悪い”と、きっぱりと言う勇気を持つ事がとても大切です」

【クロップ・サークルについて】

クロップ・サークルの模様の説明は、最初、こちらから問いかける前にソラのものたちから知らせてきました。これまで２３０個以上の模様が説明されていますが、それらの説明は、これまでの情報や現実に起きていることと合っています。

「クロップ・サークルは人間が作ったのだ」と主張する人もいますが、人間が作ったサークルの模様は雑で、まわりには足跡などがついています。ましてや雨の降る真夜中に、しかも短時間に、複雑で巨大な模様を作ることは人間には到底できません。情報によると、クロップサークルはロボット（＝宇宙の意識体）が作るそうですが、そのロボットのエネルギーの量やアイデアによって、いろいろな模様や麦の倒れ方があるようです。これまでほとんどのクロップ・サークルがヨーロッパで作られた理由は、ヨーロッパのイシカミ（スタッファ島など）がロボットにテレパシーで作るように頼んでいたからだそうです。ヨーロッパのロボット達は、数十年にわたりサークルを作ってきたため、とても複雑な模様ができるようになったようです。日本においては、麦畑が狭い、それから家が密集しているという理由で、これまでは作られておりませんでしたが、２０００年からイシカタ山の指示を受けたロボットが作り始め、２００２年には惑星直列をあらわす模様が日本のイシカタ山の近くで沢山作られました。

クロップ・サークルの作り方の一つに、見えないスライドガラスのような物に模様を描いて、それを押さえて作る方法があるのだそうです。ロボットが描いたサークルの模様の上の部分は、空気が圧縮されて高

密度になり、模様が描かれた部分の土中の窒素や炭素の量は、他の土中のそれよりも多くなるようです。（約３０～４０％多い）また、そこには磁場の異常なども見られるようです。これは、空気が圧縮されることにより、その空気中に含まれる窒素や炭素の量も増え、それに伴い、その部分の土は窒素や炭素を他よりも多く取り込むことが出来るためです。また、圧縮された部分は酸素が他よりも多くなるため、普通よりも余分に土中から鉄を吸い上げることが出来、それによって磁場異常を起こすというのです。他にも、酸素がその部分だけ多くなることにより、その場所に行った人間の気分が良くなること、空気が圧縮されることによって生じる熱でその場所が暖かくなり、他の場所と比べて作物の新芽が出やすくなること、作物の茎は空気で押さえられるだけなので折れずにそのまま曲がること、などが知らされています。

ある番組でクロップサークルがあらわれる瞬間が放送されました。白い光が空間に2つあらわれ、穀物が倒れていき、円が描かれていく様子を映していました。この白い光の玉はロボット＝宇宙意識体だそうです。

「（なぜ人のいない時にしかクロップ・サークルは作られないのかを尋ねると）ロボットは意識があるので、人間が見ていると、そちらに意識＝エネルギーが向いてしまい、エネルギーが弱くなって作ることができないからです」

「風船を押さえるとはじけますね?その時にできるエネルギーで穀物を押さえつけるのです。いわば“押

し文字”なのです」

「“地球に住む”というのは、見事な奇跡で出来ることなのです。私達が作る模様（クロップ・サークル）を人々がわかってくれないので、私たちはカール・セーガンが宇宙に宛てて送った送信コードの図を一生懸命真似して描きました。（No. 213）ですが、それすら信じてくれなかったので、オニが準備していた計画が実行されたのです。ひたすら仕返しをすることばかり考えないで、よく穀物の図（クロップ・サークル）を見てください。人間に出来る技ですか？」

「（人面とカール・セーガンの返信の模様について）なぜ穀物の模様に人の顔を描いたかというと、以前火星に顔を描きましたが、人間はそれに気づきながら、嘘の発表をして信じてくれないからです。（カール・セーガンの送信コードを真似して）あの人間の顔を描こうと思ったら、空から見るしか描けないでしょう？あの訳のわからない模様をロボットが知らせてきたことを、あのサークルでは描きました。左の螺旋が2回半なのは、霊の存在を認める人でも、3位一体（人間は肉体・霊・魂から成り立っている）は完全には認めていないことを表しました。右の線は、おなじみの“見えない世界を信じない人達”です。彼らは、肉体と生きる力（＝魂）しか認めておらず、死ぬと意識（＝霊）はなくなると思っているのです。そのことが一番現在の混乱を招いているにもかかわらず、彼らは自分達が一番えらいと威張っているのです。それで、皮肉って人間の頭を大きく書いたのです。見えない世界のことを否定して、何でも頭で考えるので、頭を大きく描いたのです」

【亡くなることの意味】

「ソラのものよりお知らせします。人間が亡くなることは、肉体がある以上避けられないことです。寿命を全うされて安らかな死を迎えられるのならともかく、癌などの病気や事件や事故などにまきこまれて亡くなる場合は、残されたものはより深い悲しみに包まれます。愛する者が亡くなることは本当に辛いことですが、ソラのものからすると、亡くなることにも実は大きな意味があるのです。原爆で亡くなった方は、（とても信じられないでしょうが）身体が溶けていくような姿になることで、同じような辛い体験をしたイシカミの女王達のことをあらわそうとしたのです。原爆の犠牲者となられた方々は、自らそうなることを申し出た『とても勇気ある優しい霊の持ち主』だったのです。癌で亡くなられる場合もそうです。『あんなに良い人がなぜ・・・?』と言われるような方が癌で亡くなられる場合、それは『イシカミの存在に気づいてもらおう』と、自らお知らせ役を買って出てくださった“射手座の霊の方”の場合が多いのです。その方達の霊が、イシカミが人間のために一所懸命尽くしてくれたのに、感謝されるどころか封印され逆に忘れられ、地上での酷い扱いを受けていることを知り、たまらなく辛く思って癌でお知らせしたのです。逆に、例えばプレアデスに関係する霊の持ち主のように、殺されることにより、霊が自ら進んでお知らせ役を買って出る場合もあります。彼らのように『優秀だけれど人を支配してきた霊』は、長い霊界の生活の中で他の霊達から責められ続けるので、それが嫌でお知らせ役を買って出るのです。もし、あなた（またはあなたのお子さん）がそのような霊で生まれたとしても、ご自身やお子さんご自身が生きてい

るうちにそれに気づいて霊の入れ替えを頼めば大丈夫です。なぜなら人間の意志は尊重されるからです。いろいろな事件で自らお知らせ役となってくださった方々は、こちらの世界（霊界）では、敵・味方なく手を取り合って仲良くしています。どうか、亡くなられた方達の本当の思いに意識を向けてください。せっかく彼らがお知らせ役を買って出てくれたのに、生きている皆さんがそのことに気づかずに悲しんでばかりいるのは、それは彼らの望むところではありません。まして相手を恨んでばかりいるのは、お知らせ役を買って出た人たちにとって一番悲しいことなのです。本当の意味に気づいて下さると、その人たちの近くで亡くなられた方は生まれ変わろう思う人もいますし、お空からいつもあなた方を見守っているのです。どうかそれを忘れないでください」

【予言の真相】

「これまで地球を支配していたオニの星たちのいう“次元上昇”とは、『地球の人類の肉体をなくして、他の星のように、地球を意識（＝霊）だけの星に作り替えること』でした。それをオニの星たちは本当に計画し実行しようとしていたのです。光の国とは、すなわち霊だけの世界なのです。１９９８年までは多くの人が“次元上昇”についての様々な情報をオニの星たちによって知らされ、予言がなされました。今はもうオニの星たちはいなくなったのですが、それまでの情報を未だに信じることが人々に恐怖をもたらし、新たに“オニのように恐怖を楽しむエネルギー体”を生み出す原因になっています。そして現実

に、今の若者がそのエネルギーに蝕まれているのです」

「極小単位の“ナノ”という言葉はオニの星のモノが教えました。これはカタカナのいわれを知っている人には意味がわかりますね。

“ナ”＝十字架＝お墓、“ノ”＝ノハラ　（野原にお墓を並べる？）

すなわち名のある大きなオニの星たちが、人間を支配するために、もう一度石器時代に戻す計画をしていたことを意味します。（あらゆる世紀末の予言はそれをあらわしています）人間の大きさとは、彼らから見るとそれほど小さいのです。（ナノ単位ほどしかないという意味）」

「オニは、その悪の想念を未来に残そうと、そのエネルギーの一部を人間の肉体に残しました。そしてそのエネルギーで、病気を治したり相手を倒すことが出来るようにし、それにより、そのエネルギーを持つ“支配する側”と持たない“支配される側”に分かれる図式を残しました。オニは地球を大変な危機に陥らせる計画を立て、その計画では、現在の地球を石器時代に戻し、地球が混乱している時にオニのエネルギーを用いて再度地球を支配しようとしていたのです」

ロズウェルに墜落したＵＦＯに模様として描かれてあった図の説明。

1）三角を3つの線で横に分断する絵＝人類が3分の1死亡、3分の1怪我、3分の1生き残る予定だった。

2）トップが突き抜けた三角のまん中に縦線＝助かった人を支配する人と支配される人に分ける。それ

をオニの星のものが操作する。

3）2の模様の縦線が突き抜けて、左右に○がある＝その争いは宇宙にまで広がり、オニの星が別れて戦う予定であった。

【富の分配】

「星の宮からお願いします。世の中の富の不公平を正してほしいのです。一部の人は過去に多くの利益を得て、国民をかしずかせてきました。その人たちはこれまでに充分すぎるほどの恩恵を受けてこられたはずです。その富を他の恵まれない人たちに振り分けてあげてください。今世界中に溢れるホームレスの人たちも、恩恵を受けてきたあなた達も、同じ人間に変わりありません。古代の歴史から学んでほしいことは、再びあのような悲惨な時代に決して戻らないようにしなければならないということだけです。その頃に手に入れた富は地球に戻すべきなのです。それがなされずに続いているのが不思議です」

【癌（ガン）について】

次の内容ももちろん医学界で認められたものではありません。見えない世界からの情報ですので、そのつもりでお読みください。

「なぜ細胞の一部だけが勝手に増殖を始めるかというと、ソラのもの達がサインを送ってエネルギーを送るからです。なぜガンになるかというと、その人の霊（潜在意識）が『お知らせして下さい』とお願いしてくるからです。癌になって早く肉体から霊が『おさらばしたい』と言ってくるのです。だから私達を恨まないでください」

「“ガン”は、細胞の一部が分裂してミニ帝国を作ろうとするのです。暴君と化したそのミニ帝国の細胞が伝令を発し、他の細胞にも、一つの国として独立するようにそそのかすのです」

「“ガン”は“癌”、つまり“岩のように固くなる腫瘍”で、これはイシカミに気付いて欲しいことをあらわしているのです。“癌”という字に、なぜ“山”が入るのかを思い出してください。山＝イシカミのことを大昔は口伝え（口3つ）ていたのに、それを”病だれ”で隠してしまったので、癌に沢山かかるようになったのです。ガン（癌）のことを“カニ”とも呼ぶのは、カニがイシカミをあらわしている動物だからです」

「血液の元は膵臓で作られ、骨髄に運ばれてから血液は成長します。それで膵臓にガンができると、そこから血液に混じって全身に運ばれるので、早く亡くなるのです」

「大腸癌は頑固な思い込み（霊を認めない）を捨てないので、お知らせしているのです。それは回りの人に対してもお知らせしているのです。いわばお知らせ役でもあるのです」

【こころの病について】

「心の病は潜在意識（霊）と顕在意識の仲が悪く、霊の方が強い状態なのです。なぜ霊が怒っているのか、その意味を知ることが大切です。血液の流れが滞ると、肉体は病気になります。これと同じように、思考の流れが滞って同じところで留まりすぎると、心の病気になるのです」

「引きこもりは、その人が過去世の嫌な時代を思い出し、生きていくのが嫌になるからです。その思いを変えるには、地球を見守ってくれているソラのものに変えてもらうことです。それを、本人は勿論、違う人にも念じて貰うのです。

一生懸命念じることで霊が入れ替わる場合もありますが、念じる人が霊を信じないと聞いてくれません」

「鬱病はなぜ起こるか？ソラから見ると、それは“物まね”なのです。いにしえにはあらゆる不安があり、その不安を思い出しているのです。いにしえの不安を消すには、あらゆる恵みを与えてくれたイシカミのことを思い出すと良いのです。いつでもソラのものが見守っていることがわかると不安はなくなります。そしてああでもない、こうでもないと頭で考えるばかりでなく、無理なく簡単なことで体を動かし、できることから始めて下さい。決してご自分を責めるのでなく、がんばって生きていると誉めてあげてください。ご自分の潜在意識に語りかけることも大切です」

「心にゆとりを持って生きていくことがとても大切です。イシカミやソラの物語は、心にゆとりがないと理解できません。思い込みがあるとソラのものを寄せ付けないのです」

「恐怖を楽しむ世界から抜け出さなければ、平和な地球は来ないと思います。それは『いかなる恐怖も楽しんではならない』と自分に宣言することです。そして、その言葉をソラのものに祈って欲しいのです。いにしえから繰り返される“恐怖を楽しむ行為”を止めることでしか、今世界に広がっている恐怖を取り除くことはできないのです」

「多重人格は、たんに多くの霊＝意識体が降りるだけです。その人の霊が他の霊に降りることを許すからです。それが嫌ならば、他の霊に『これからは（私の）身体に降りないで、光の方に行きなさい。そこには必ず天国があるから、あなたの会いたい人に逢えます』と、丁寧にそして厳しく、伝えることが大切です。それをしていくと霊は離れます。ただ、ご本人が現実から逃避して霊と仲良くしていると、霊は居心地がいいので離れてくれるかどうかはわかりません」

「いかなるエネルギー体も人間を支配してはなりません。エネルギー体は人間が頼るモノに生まれたり取り憑いたりして大きな力を持つようになり、人間を支配するようになります。人間が超能力を得て人様のために病気を治そうと思うことは、実は大きな落とし穴があるのです。その力を得ようと思い、そればかり願っていると、そのようなエネルギー体に支配されるようになります。それに、せっかくその人たちの霊がその人たちにお知らせをしているのに、他人のエネルギーで病気を治そうとすることは、その人たちの霊にとってうれしいことではないのです。他人のエネルギーで病気を治してもらおうとすることは、椅子に座ったままおしっこをするようなものです。その時はスーとしますが、かえって大変なことになると後で気がつくでしょう」

左の（前頭葉）脳は、不安や恐怖を司るようです。不安を感じる時は、右の（前頭葉）脳を意識して、『がんばってね』と話しかけてください。また、左手を意識して使い、右の鼻の穴から強く息を吸い込むようにすると、右脳の刺激になります。

自然・地理・動物・植物　など

自然現象について

【台風】

「お母さんである射手座の女王（御在所岳）に会いたいと思う（ムーノイアなどの）南のイシカミの気持ちが“台風”という強くて大きなエネルギーの形になってあらわれているのです。そして大昔、南のほうに大きな大陸があったということをお知らせしているのです。台風は海のお掃除をして、勢力が衰えて消えた後は、消えた場所でお休みをとってひたすら眠り続けます。そして目が覚めるとお家に帰るのです。台風のお家は南の海です。そこにはきれいな魚や珊瑚がいます。台風は、南のイシカミや人間の意識を乗せて、お知らせをするためにゆっくりと進んでいきます。そして人間の世界を見物させてもらっているのです」

「人々がまるでアリのように見えて面白いです。そしてそばに行くと人間がとても可愛く思えます。人間の思っていることも良くわかります。暑くしてすみません。良い心のイシカミがお知らせしました」

「（非常にゆっくりと台風が日本列島に沿って進んだ時）ムーノイアのイシカミです。なぜこのようにいつまでも台風が日本のそばにいるかというと、日本をゆっくりと見てみたいからです。これまでは面白いので上陸していましたが、人間がとても困るようなので止めました。今回も弟の君山が『来ないで』と言

ったけど、桃を食べたかったので行ったのです。この間は梨を食べました。（石巻町の梨を落として行った。）

シラ山さん（富士山のこと）と会うことが出来ました。『きれいな形の山で残れて良かったね』と言っておきました。

人間の皆さんは、台風が大きな波を作って海のお掃除をしていると思ってください。大雨でご迷惑をかけたことはお詫びいたします」

【異常気象】

「乾燥した空気はひたすら水蒸気を呼び寄せます。それで今度は非常に湿度が高くなるのです。いつしか地球はこれまでの気象パターンの繰り返しではなくなります。それはいたずらに科学が全てを征服したと思いこむところから始まります。その心からは何ら良い結果は生まれません。月より」

【低気圧】

「なぜ低気圧になるかというと、原子達が“おしくらまんじゅう”をするからです。原子の仲間の中には、ものすごく早く移動したいモノがいるのですが、その集団が“低気圧”を起こさせるのです。逆にのんびりとした原子の集団は“高気圧”になるのです。低気圧になると、身体の細胞の原子もおしくらまんじゅうをするのです。低気圧の空気の原子が『いつまで身体で固まっているの？』と身体の細胞の原

子に言うので、身体の原子は嫌になって早く自由になりたいと思うのです。それで低気圧時に身体の辛さとなってお知らせするのです。低気圧の時に身体がだるく辛い時は、ゆっくりと大きな呼吸をしてください。食べ過ぎないで良く噛むこと。いつも身体の細胞さんに感謝とお礼をしてください」

【エルニーニョ】

「（エルニーニョのように）海水の温度がなぜ上がるのかというと、海底火山の噴火があるからです。イシカミ達が『この海の下にもいますよ』とお知らせしたくて、火山の噴火をしているからです。それで海水の温度が上がるのです」

【大陸移動】

「かつて大陸はひとつでしたが、現在言われているほど古いことではありません。大陸の真ん中でいつも恐竜がケンカをしていて、それが嫌でした。それで、少しずつずらして大陸を分けたのです。大陸が分かれたら、地球の“顔立ち”が良くなったそうです。それでオニの星のものが上を向いてと言われたので、上を向いたのです（地軸の移動）。地球神より」

【地震】

これは霊的な答えなので、現実にはわかりません。

「太平洋プレートというものは無いのです。イシカミ達が知らせているだけなのです。陸地が少し動いているというのも、イシカミ達が少し動いているだけなのです。イシカミに目を向けください。最近は津波が無いでしょう?あれはオニの星が、星達に一斉にエネルギーをまとめて送るように命令していたからなのです。あたかも大きな空気の手のひらで海を叩くと、あのような津波になっていたのです。それが津波の起こり方です。クロップサークルも、形のある空気の“押し型”で押して作るので、同じ原理なのです」

【海水、死海、デスバレー、岩塩などの塩】

「地球が火の塊だった時に地球を冷やすために、水星が水が降り注ぐイメージをして、元素に集まってもらい水（H2O）を作りました。その水はH2O（純水）だけではなかったのです。地球は火の塊だったので、H2Oの水だけでは冷えませんでした。それでNA、CLなどの元素が加わってくれたのです。いわばいろいろな元素が、地球を冷やすために、H2Oと一緒に地球に降りてきてくれたのです。一緒に降りて応援してくれる事で、強く冷やすエネルギーができたのです。それで海だけでなく、地球上のあちこちに塩があるのです」

【生き物について】

「地球が誕生してから、ソラのものたちはいろいろなものを地球に送り込みました。水星は水、木星は樹木、土星は土を送ってくれました。これらをもとに、魚・鳥・動物・草花など、あらゆる生物がソラのものにより送り込まれ、地球は生命であふれるようになりました。地球上に生存するたくさんの生き物はソラのものによって作られ、地球に降りたイシカミたちがソラのものと協力して改良を重ねた結果、現在のようなカタチになったのです」

※お願い　いろいろな生き物についての説明は巻末のソラ生物辞典にまとめて載せてありますので、そちらをご覧下さい。

【遺伝子】

「遺伝子（ＤＮＡ）は知れば知るほど、研究すればするほど、シンプルなことがわかるでしょう。ソラのものは、そのシンプルな遺伝子を組みあわせて多種多様な生き物を作っているのです。遺伝子にも意識があります。それを扱う時は遺伝子にお話しをしてから扱ってください。意味なくして白い生き物（アルビノ）が生まれたのではありません。白い生き物は基本の形であって、突然変異ではないのです。普通と考えられているものは、白い身体に後から色素がつけられたものなのです。そして、その時に遺伝子の配

列を間違えることにより、異常な身体になるのです。それを直すには遺伝子に『仲間のように並び替えて下さい』と本気で頼んでみてください」

【物質化】

「いろいろな生き物を作る場合、ソラのものが『このような形や色にしよう』と決めたら、次ぎはその姿を思い浮かべます。そして地球の原子たちに集まって来るように号令をかけるのです。生き物を作るには、それはもう気が遠くなるほどの長い時間、思い続けなくてはなりません。なぜならソラのものの力はとても弱いからです。ソラのものは“思い”をまず“卵や種の形”にして、地球上の希望する場所に“物体化”させます。以前、『卵は引力で引っ張られてあのような楕円形になった』と言いましたが、それは『卵はソラのものが作った』ということをあらわしているのです。それに、この形だと生みやすいからです」「ソラのものは退屈を紛らわせるためにお仕事を始めました。そしてあらゆる生き物を考えたのです。まず、思いついた形や色を目の前の画用紙に描きます。集まったガスを幾重にも重ねたものが画用紙です。それは“押し絵”（クロップサークル）を描く時と同じなのですが、押し絵は少ないガスの重ねで済みますが、物質を作る場合はとても沢山の重ねが必要です。そして作るものの形をそこに想像し、色を付けるために太陽の光を集めてから、一気に押し出します。それを大きな“ボール”に入れて地球に送るのです。ボールは“成分の違うシャボン玉”のような泡で出来ています。そのボールは地球に着くと割れて、中の生き物が自然発生するのです」

「（ビジョンで、大きな渦巻きの中に背広や野球服などを着ている色々な人の姿が見える。その後“内臓の模型”のようなのが見え、心臓のような形のものがトクントクンと動いている。）このように宇宙からエネルギーが渦巻き状になって地球に降りてきて、その真ん中でまず最初に心臓が作られるのです。そのためには、いつも言うように原子に集まってもらって最初の細胞を作らなければならないのですが、その際、細胞が丸いことが大切です。なぜ地球も星も細胞も丸いかというと、丸い形が一番良く細胞同士と連絡し合うことができるからです。細胞同士は連絡し合い、これからどのように増えていくのかを相談するのです」

【人間】

「初めの細胞である“卵子”は星の宮が作りました。それに“精子”が入ると細胞分裂する仕組みにしたのです。遺伝子も星の宮が作りました。その他、細かいそれぞれのお仕事をする部分は、ソラのものに作ってもらいました。そして、そうやって出来た人間を地球に降ろしてもらうように、射手座のイシカミに頼んだのです」

「猿は雨に濡れたら死んでいきました。それでソラのものは一生懸命考えて、雨に濡れない“家”を造ることができるように人間の脳を改良したのです。人間の身体に毛が無いのは、家があれば毛はいらないと思ったからです。

猿から自然に人間になったのではありません。ソラのものが一生懸命考えて改良したのです」

「ソラのものは、女性にX染色体を一個多く作りました。（女性はXX、男性はXY）なぜなら、X染色体がひとつ多いと“みなぎる力”が生まれるからです。また、この一個のX染色体には“耐える力”も入っているので、女の人に子供を産んで育ててもらうことにしたのです」

「子育てをする時、その子供のことを信じると、その子は物事を感謝するように育っていきます。その子の霊とよく話をして育ててあげると良いのです」

「カカポ（ニュージーランドの飛べない鳥）がなぜ作られたかというと、イシカミが『人間には歯が必要だ』と言ったことを証明するためです。（カカポはくちばしが歯の働きをする鳥です。）他のソラのものたちは『人間は何を食べても胃で消化出来る』と言いましたが、イシカミは『食べ物を味わうということも楽しみの一つに加えてあげたい』と言いました。そしてそのためには口の中でよく噛むしかないので、歯が必要だと思ったのです。カカポも、イシカミがオニに狙われたように、絶滅させられる所でした」

（カカポの他にも、岩と岩の間に細かい石が線状にはさまれ飛び出している“しめ縄岩”などが歯を表していると知らされました。）

【人間の身体】

「人間の身体の細胞のお話をします。自分の可愛い細胞の苦労を全く知らずに、人間はいつも細胞をいじめています。私たち（細胞）は毎日“生みの苦しみ”を感じながら、狭い肉体に閉じこめられているのに、一度もいたわりの言葉をかけてもくれません。仲間の細胞は毎日数え切れないくらい死んでいくのに、

人間は皆、それを汚いと思うだけです。私たちはそのことが気に入らないのです。健康な時は、単に調子が良いと思うだけで全く気にもかけず、私たちが一生懸命訴えて症状を出すと、病院で長い列を作ることしか思い浮かべません。身体（細胞）は欲しくないのに、脳の命令ばかり聞いて食べることが多すぎます。細胞も生きている人間と同じだと思ってください。私たちが一生懸命働いても、感謝もせずお礼すら言われず、それどころか、少し働きが鈍ると嫌みばかり言われるのでお知らせするのです。人間がなぜ老いていくかというと、はじめは綺麗だった素晴らしい肉体も、いつもいじめられ続けるので嫌になるのです。また、人間生活を長く続けているうちに、顕在意識はまだ生きていたいと思っても、細胞たちが別の人生を生きてみたいと思って少しずつ次の人生の準備を始めるからです。それで老いていくのです」

【人間の血液】

「細胞分裂をするのにより強いエネルギーを得るために、人間の血液は海水と同じ成分なのです」

【人間の意味】

「人間は意味があって作られました。ソラのものは、悪いことをするより良いことをして生きたほうが、自分だけでなく宇宙全体までもが気持ち良く暮らせるようになるとわかっていました。それで、行いによってどれだけ宇宙が変わるかを知るために、人間を作りました。それを思って生きてください。楽しく美しいものを見て、心を感動させて暮らしていくと、宇宙全体がそのような感動の空間となります。これが

一番大切なことなのです。ソラのものが一生懸命作った色々な生き物の働きを見てください。可憐に咲いている花を見てやってください。そうするとソラのものは、よりがんばって感動するものを作ってくれるでしょう。心配ばかりしなくても良いのです。ソラのものから皆さんへお伝えしました」

「肉体を持つということがとても大変だと、地球に降りたイシカミ達から知らされてよくわかりました。けれども肉体を通すと、とてもはっきりした感覚を得ることもわかりました。人間は何のために生きるのかというと、それは“生きているということを実感するため”です。霊だけだと“美しい・気持ちがいい・楽しい・美味しい・嬉しい”などといった感覚を、ぼんやりとしか感じることができません。人間の皆さんは、それが実感できる肉体に感謝して欲しいのです」

【生まれ変わり】

「人間がどのように生まれるかをご説明します。まず最初に『人間として生きたい』という意識のエネルギーが“魂”として生まれます。その“魂”のかたまりに、『どのような人生を送るか』ということを決めた星からの“意識のかたまり”（＝潜在意識＝霊）がくっつきます。そしてその意識のかたまり（霊）が、選んだ肉体（胎児）に入ります。これが『星から地球に応援に降りて来た人』の場合です。この他に、過去の人生の意識に関係する場合もあります。つまり、かつて人間として生きた記憶のある“意識のかたまり”（霊）が、選んだ肉体にくっつく場合です。これがいわゆる“生まれ変わり”です。“死”というのは、潜在意識（霊）がくっついている肉体とお別れすることなのです。顕在意識が『まだ生きたい』

と思っていても、これに関しては潜在意識（霊）のほうが決定権を持っています。充分に生きるには、普段から潜在意識（霊）とよくお話をしておくと良いのです。肉体の原子と仲良くして、あらゆる原子とお話をしておくことが大切です」

「霊とは“意識の固まり”で、これは質量にするとわずかですが、とても強いものです。長い人生の間には、たびたび霊が入れ替わることがあります。一生同じ霊がその人に入っているというわけではありません。その人の霊がお願いして、他の霊に入れ替わる場合もあるのです。人生を終えて肉体から出た霊は、霊界のある場所に行き、そしてまた生まれ変わるのです。けれど全ての霊が生まれ変わるわけではありません。生まれ変わる必要のない霊もいます。その霊達は星に行くのです。霊が星に行くか再び人間に生まれ変わるかは、ソラのものが決めています。思いの残っている霊は『この人に降りたい』と思った人に再び降ります。そうやって降りた過去世の霊がどれだけその人の顕在意識にも影響を与えるかというのは、人によって全く違います。後から降りてきた過去世の霊が、その人の霊よりも、その人に影響を与える割合が多くなると、いわゆる精神病とされます。その割合はその人の霊が決めていきます」

「霊が降りてきて、あなたに自分の悲惨な前世を知らせることがあります。あなたがその辛い体験から何を学んだかを知ることは、とても大切です。けれどもそのことによって、また再びそのような悲惨な状況を繰り返してしまうのではないかと悩む人もいます。その場合は、その思いを愛のエネルギー体に戻してあげてください。あなたの霊に『私は十分この思いから学ぶことができました。この思いの霊は愛のエネルギー体に戻りました』と強く思えば良いのです。これで辛い過去の思いの束縛から逃れることができま

す。霊的に向上していないことが理由で、再び人間に生まれ変わる人もいますが、単にまた人間として生きてみたいと思う人もいます。特に未練を残して亡くなられた場合は、再び身内のそばに生まれ変わることを望む人がいます」

「（ヒプノセラピーなどで）子供の時から死ぬまでの記憶を話すという事例がありますが、これは、その人に霊が降りて霊自身の体験を話すだけで、実際にその人の前世だったとは言えないのです。前世療法というのは、霊が降りてその人にお知らせしているのですから、その人に降りる霊の希望を聞いてあげれば良いのです」

「霊は星から送られて来ます。どの星から霊を送るかは、ソラのものがいろいろと話し合い、『その人間がどのような人生を送るか』によって決められます。その決めたことに沿って、人間を指導するソラのものとその人の霊が、どのように生きていくかその人間を指導していくのです」

「『人間が動物に生まれ変わる』ということは決してありませんが、悪い事をするとそのツケは払わなくてはなりません。と言っても、今世で不幸な人が前世で必ずしも悪い事をしたという訳ではなく、より早く霊的に成長しようと、自らが望んでそのような人生を選ぶことも多いのです。霊の存在すら気づかず、物質のみにしがみつき、飽くなき欲求を満たす生活では成長はしません。どのように生きていこうと、それはその人が自由に選択していけば良いのですが、『自分の行ったことがブーメランのようにいずれ自分に返って来る』ということを忘れないでください」

「これらのことに気がつけば、死を怖がらないで生きることができるのです。誰もがそのことを知りたい

と思っているのに、道草をしているだけなのです。それを知らないで亡くなると、霊界で眠り続け、生きていた時のことを思い続けます。でもそれが良い人は、そちらを選ぶこともできるのです。また、他人を殺めたり傷つけた人は、それぞれ償いをします。自ら命を絶った人も、やり直しをします。霊によっては霊界に行かずに、守りたい人にずっとついている場合もあります。けれど、その付いている霊に恨みを持つ霊がいる場合、その霊が付いている人間が身代わりになってしまうこともあります。そういった場合は、『心配しなくてもいいので、ゆっくりお休みください』と伝え、そのようにソラのものにも頼んでおくと、その霊はゆっくりと霊界で休むことができます」

【イシカミの身体の変化】

「あらゆる石はイシカミの身体や落し物なのです。丸く揃った石はイシカミの涙なのです。緑色の石は木星が〝木〟を送ってくれたことに対してのお礼の意味で作りました。岩の中には顔のように見えるのもありますが、イシカミが人間に気づいてもらおうと精一杯努力して作ったものです。人間ほどまとまった顔ではありませんが、意識を向けていただけるとうれしく思います」

「岩はイシカミのからだであるため、自分のからだの細胞にお願いすると、希望通りの形の岩になるのです。(柱状節理など)」

「自分の身体を土に変えるイシカミもいました。赤い土に変えエネルギーを与えてくれるイシカミもいました。それで赤い土を身体に塗ると、身体が温かくなり元気が出るものありました。叉布に塗りつけると飛ぶ事ができるようになるのもありました。(羽衣)

「琥珀は自然のものを閉じ込めたものですが、オニが作ったダイヤモンドなどの宝石と違い、なぜ一瞬のうちに石になったのかというと、ソラのものが作ったからです。大勢の名のない星の者が、かすかなエネルギーを集めて地球に送り、『生き物を入れたまま素敵な石を作って欲しい』と地球の原子に頼んだのです。一方、宝石や水晶などの石は、オニの星たちが石に強いエネルギーを与え、あのように綺麗にしました。オニの星は、人間たちがそれを奪い合って争いを起こすように、見かけのきれいな石を作ったのです」

夢・ビジョン

【夢】

夢はその人の霊と指導するソラのものが相談して見せると知らされています。その内容が抽象的で意味がわからないのはなぜかというと、現実の出来事とその人の見たり思ったり考えたりすることを、あたかも現実であるかのようにロボットが報告し、それをもとに夢が作成されるためです。このことは定かではありませんが、しっかりした夢は夢で霊たちはその人に必要なことを教えてくれていると思いますが、あまりとはっきりと覚えていない夢は気にする必要はありません。できれば楽しい夢で知らせてくださいと頼んでいますが、怖い夢のほうが夢を見た人がしっかり覚えていてくれるからとも伝えられます。

生き方を知らされたのでは

《立っている土地の横がストーンと沈下してしまい、覗き込んでも何もない。》

これはこれまでの「悪をも認める」ということはいけない、ということでした。

そして言うべき事はしっかりと言うということでもありました。悪も必要だからとこれまでのオニは言葉巧みに、悪をも認めさせていましたが、すっきりと《悪は悪》と切り捨てるように、という意味でした。悪をも認めているのは、汚れた服を着ているのと同じでもあると知らされました。

《乗り物の夢》は霊的に目覚めて進む速度を乗り物の速さで表しています。早い乗り物だとソラのものか

らの情報を早く理解することが出来ているという意味のようです。これはジェット機から歩くものまで夢で表され、ご自分では進んでいると思っていても、ソラのものたちから知らされる情報を違う意味で解釈していると、全く進まない乗り物の夢を見せられるようです。

《履物がない夢》はその人の霊が「今の道は進まないで」と知らせています。

《トイレの夢》はその人の霊がこれまでの“思い込み”を流してほしい、すなわち見えない世界＝霊を認めてほしいと知らせています。

《楽しい夢など》これは現実にはいろいろと厳しいことがあっても、霊が喜ぶ事をしていると、「せめて夢だけでも楽しい思いをしてください」と言ってきます。

《怖い夢》全て悪い夢でなく、夢をしっかりと覚えて、お知らせしている事を知ってほしいからだそうです。

次は沢山の夢の中の一部です。

1）車の前をぬいぐるみのような小象が2頭、こちらを見ながらトコトコ横切る。その次の日近くの麦畑でクロップサークルらしき、3つのサークルを見つける。

「私たち、ロボットが（クロップサークルを）作りました」という事で、それからも模様は2年続いてできている。

2）墓地で若者が掘っ立て小屋を建てて、ラジカセを聞いている。

「これからはお墓を必要としなくなり、お墓もこのようになります」

3）口（というより食道）から薄緑の柔らかいお餅のようなモノが沢山出てくる。これは、多くの人たちが信じていることと反対の内容の情報だったので、「とても公開できない」と公開をためらっていた時に見ました。

「言うべき事を言わない、すなわち情報を公開してくれないので、あなたの霊が催促しているのです」

（その他にも、口を噛んだり、口内炎、口蓋の腫れなども、「言うべき事を言っていない」という意味のお知らせです。）

4）ポケットから使い捨てカメラが出てきて、そのレンズが少し曲がっているので、これでは正確に写せないと思っている。「ソラのものがこのカメラで現実を写してお互いに見せあっていますが、ゆがんだレンズを通して夢を作り、それを夢で人間に見せるので意味がわからないのです」

5）初老の男性と若者が数人、ウイスキーの水割り?を飲んでいたが、若い人のコップが自然に割れ、若い人は立ち去っていく。すると初老の人はこぼれた液体をすくおうとしている。

「初老の老人＝固定観念から離れられない人のことです」

6）歩いているのに片一方のスリッパが無くなり、戻って履き直している。

「もめ事に神経が向いているので、進む道が間違っていたのです。もめごとには関わらないということです」

7）ある人（口がただれていたひと）が「歯茎がただれた」と口を開けて見せて、楽器を吹いている。窓

から望遠鏡で空を見ている。「地球の平和のために星から応援にかけつけてくれた人たちが、人間に生まれて来るのが嫌だったと言いたいのです。自分は地球の平和のために星から助けにきた人間であると自信を持ってください。生きていくことはとても大変だと思っている人たちの事のことです。自分を責めないで自分を誉めてあげてください」

8）子錦のように太った娘さんと手をつないで、粗末な木の小さな橋を手をつないで一緒に渡ったので、橋が折れてしまう。分かれて渡ればよかったと思っている。「太った娘さん＝イシカミ。初めてこの情報に出会った人にたくさんの情報を一度に知らせても、いっぺんに理解するのは無理だということ」

9）見たこと無いくらいに小さな星が空をびっしりと埋め尽くし、私はその星空の下で何か縫い物をしている。空にはっきりとアルファベットや数字が雲で書かれている。「縫い物＝ソラから伝えられた情報をまとめている。文字や数字はソラのものが教えた」

10）初夢には何が良いのかと星たちに聞いたら「一星、二太陽、三お月さん」と言ってきました。

11）最近は空にカラフルな模様や文字が描かれているのを良く見ます。

12）部屋などが勢いよく燃えている。「これは過去の辛い記憶を消そうと思い、あなたの霊があなたに見てもらいました」

13）着る物が無いのは、外見ばかりかまわないで内面を見つめるようにという意味。

14）エレベーターで急降下する夢は、霊的には目覚めているが、おかしな事（宗教など）に関わっている事を警告している。

15）かわいい子猫が私の頭におしっこをかけている夢＝「98年にプレアデスの女王（＝子猫）と名乗る存在に著者が完全に支配され、精神的に悲惨な目にあったことです」宇宙の大本から見るとオニの星でもかわいいもので、人間がそれほど悲惨な目にあっているということがわからなかった、という意味だそうです。

16）参拝の人がたくさん来ていて 門や鳥居のようなのがたくさんあり、その場所場所にお坊さん山伏のような人がいます。帰ろうとすると、女性の人にともかく山頂に登るように促されて、門をあけて上に登って行くと、梵字が彫ってある巨大な岩があります。山頂で座ってその女性に額を地面につけるように言われたのですが、その岩が気になってじっと見ていたら、岩が光だしてその岩しか見えなくなってしまいます。その岩に彫られた文字は、一言で言うと漢字の介という字に雰囲気は似ていて、らせん状のぐるぐるが介の字の右側の下棒のかわりにあって、その他いくつかの記号があったのです。＝「神社や仏教で封印されたイシカミが、石の謎を探る人に真実を知って欲しいと知らせたサイン」

【ビジョン】

ここでいう《ビジョン》は「目を閉じていても見える」ものをいい、《幻影》は「目を開けていて見えるもの」に分けました。最初に見えたのは、薄くてかすかな白っぽい波のような光が、1点からこちらにめがけて広がってきて、それが何回も見え、「ソラからのサインです」と伝えられました。時々満天の星空のようなものも見えました。

また、目を閉じると真っ赤、ピンク、グリーン、ブルー、紫などのきれいな色が見える時もあります。

最初に見えた模様は、目を閉じると、とても小さな穴から白っぽい光が見えました。そして私が井戸の底にいるような感じで、丸い穴から黒い点がこちらを覗いているようでした。それからその丸の中に一瞬だけいろいろなものが見えるようになりました。ビジョンをよく見られる方は、とてもはっきりと大きく見えるようです。

精神指導者の中には、まず神と名乗るモノの姿を見させられたり、これ以上の恐怖がないと思われるようなビジョンを見せられた人々が語られていますが、それはすべてオニの星に支配されていたためと伝えられます。その人たちはその恐怖のために言われるままに行動することによって、いろいろな超能力を与えられたようです。そして、その恐怖の場面に天使や観音などが立ち会っていたそうですが、そのことで知らされたようにそれらの存在がオニの星の仲間ということをあらわしています。98年にその存在がいなくなり、チャネリングが出来なくなったということも聞いています。その後、オニの星の真似をするエネ

ルギー体が同じように崇めて欲しいので、人間の近く（低次元）にいて、今までと同じように関わっているようです。
また、肉体はその場にいても、霊だけが肉体から離れてあちこちに行き、そこの景色を見てはあたかもそこに行ったような感じを受けている場合というのも多いようです。

《私の見たビジョンの一部》
1）両端に飾りのついたスプーン?型が交差している。
「四大陸の謎が解かれる?」
2）金と銀の房が一緒になった飾り（これは98年に見ました。）
「イスラム教とキリスト教が仲良くなる」
3）ブーメランの形のまん中で分かれ、一方は象、片方はクマが描かれている。
「遺伝子操作をしたのはソラのモノであるということを表している」
4）コアラ、カンガルー、エミューの絵が見え、それぞれ何の目的で作られたか知らされる。
5）渦巻きが見え、次に少し大きい丸の中に小鳥や動物など色々なものが描かれている。次に丸が2つ並んであらわれ、右側は1点の光がジグザグと動くUFOの光のようであり、左側の丸の中には漫画のダンボようなモノが耳?を鳥の羽のようにゆっくりと動かしている。
「ソラからこのようにエネルギーを送って、地球に生き物を送り込んでいることを表している。また、オ

ニの真似をしたエネルギー体(意識体)も降りてきて、人間を支配しようとしたのもいました」(UFO?)」

6) 金色のボワーッとした固まりに、青紫のやはりボワーッとした固まりが近づいてきて並ぶ。次に左下から小さな青紫の固まりがひっついてくる。

「金色の固まり=これから導いていくエネルギー。青紫の固まり=これから助けていくソラのもののエネルギー。小さな固まり=地球のエネルギー」

7) ネクタイを締めた、見たこともないロボットのような男の子があらわれる。

それが消えた後、ネズミのようなかわいいマンガの動物が横たわっていて、ゆっくりと目を閉じていく。

「オニに支配されたエネルギー体(意識体)が、マンガなどに入り込んで悪さをしていたことを表しました」

8) うす赤い背景に細かい点が激しい渦を巻く。その渦は立体の半円になり中心に向かっていく。次は丸まった小さな赤ちゃんのような形が次々と、やはり中心に向かっていく。「ソラからの魂のエネルギーが地球に降りていくことを表しました」次に横の方で銀河系のような渦が見え、激しい渦を巻いて中心に向かっていく。「ソラからのエネルギーが地球に降りているということを表しました」

9) 小さい丸の中に色々な人の顔が映っては消えていく。その中に顔中毛だらけで目も口もなく耳だけの顔がある。「クロップサークルなどのソラからの情報は噂では聞いているが、見たことがないので戦争に意識が向いている」

10) ニコちゃんマークの目を大きくしたものと、その周りにいくつかの丸がつながっいる。「地球が喜

んでいることと太陽系の惑星が守ってくれていることを表しています」

11）大きな丸の中に人、兵隊、戦車などが沢山描かれ、それらが歩いている。「地球の平和が訪れる？」

《読者が見たビジョンの一部》

1）宇宙に沢山の人間が何重にも広がる円を作って立っている。そしてそれぞれの人がある一定の距離を保って立ち、左右前後の人に光る石を手渡している。彼らはその場から動かず、光る石をしっかり受け取り、相手に渡している。石を手渡すときに石から白っぽく光る微粒子が散り、弧を描いて、まるでそれは宇宙に浮かぶ大きな蜘蛛の巣の形を描いているように見える。蜘蛛の巣の中心が見えないと思っていると「みんながそれぞれに中心なのです。それを忘れないで」という言葉が浮かんでくる。

2）渦巻きとダビデ紋が見える

「ダビデ紋の上向きの三角は、地上の人がお知らせを受け取るという意味で、下向きの三角は、いしかみ、空のものたち、人間だった人の霊を表しています。それらがやっと重なって、情報がきちんと届くようになったということです」

その後も渦巻き、それから右上から左下に白い丸い光が降りる。そして突然無数の小さなものがたくさん集まってくる。

「私達もこうやって小さなものがたくさん集まっていますが、それぞれ役割を果たしたり、仲良く相談してお知らせをしています。人間もこのように小さなものが集まっているのに、どうしてもっと仲良くできないのですか？」

【夢とビジョンの連携】

《2月18日に著者が見た夢》

《丸の中に格子があり、その中に小さな黒い点がある。》

「丸は細胞で、格子は原子のお家です。格子はまだ人間が知らないもので見えないものです。その原子に、ちょっとの間お家から出て外出してくださいと頼むのです。そして原子が出た後、残った格子の数を変えることで、動物が進化していくのです」

《その後読者が見たビジョン》

夢で見た格子が大きくなっていたり、線が一部外されたりしている模様が一瞬見える。

夢の整然とした格子の中に、小さな黒い丸が入っているのは、本当の最初の細胞（卵子）。細胞分裂していくと格子の模様がいろいろ変化するという事を知らせた。

《その後読者が見たビジョン》

黒い鳥（と思ったら大きな真珠?）が、大きく開け放たれた窓から次々と入ってくるビジョンを見た。

「昨日（2月18日）の格子の中にいた原子が黒い小さな丸だったでしょう?それが格子の家から飛び出してあちこちに行けるということを表したのです。すなわち原子は本当はあちこち動けるということです」

（それなのになぜ肉体が保持できるか？の問いに）

「それは原子が辛抱しているからです。そして細胞が入れ替わるのです。新しい細胞にちゃんと役目の申し送りをするのです。（辛抱しているのに）無茶をされると怒るのです。あなたが書いた文を読んで、原子の代わりに（鳥のビジョン）を見てもらいました。とても原子も我慢しているのです」

【幻視、その他】

この他に、実際には存在しない？ものなのに、目を開けていても見えるものがあるようです。

私は９８年6月に、実際の人間ではないと思われる人物に遭遇しましたが、これは異常な体験なので、また、別の機会にお話し致します。

私はいわゆる幽霊とかは見たことがありませんので、次の事は直接知らされたことだけです。

幻視対象物の種類として、ゼリー状態のエネルギー体・透き通るようなかすかな形を作っているもの・はっきりと色や形はあるが、現実に存在しないもの（龍など）・いわゆる宇宙人と呼ばれる色々な姿の人物？などが今までに知らされてきましたが、いずれもエネルギー体の変化したものでないかと思います。いずれも意識があり、テレパシーで言葉を感じるようです。

「歩いていると“退屈ではないか、人間って退屈だぁ”という耳元で囁く感じがして、龍の姿が見えた」ということを、アメリカのテロの前後に見たと読者の方から知らされました。ちなみにこの方は、以前から龍が見え、身内の方は新興宗教に特に熱心だそうです。また私は、他の人には聞こえない大きな音から小さな音や、現実には匂わない良い匂いを嗅ぐ経験もしましたが、以上のことは幻視・幻聴・幻臭として扱われ、全て精神異常とみなされることをとても残念に思っています。

最後に

これまでの常識をくつがえし想像を遥かに超えた情報を、最後までお読み下さいましてありがとうございました。次々と知らされる沢山の情報は、当然の事ながら、すぐに皆様にご理解いただける内容ではありませんでした。けれども次のような夢を何度か見て、知らされ情報を公開することを決意しました。

夢は“看護婦の夜勤を一人でしていて、なぜかすぐに朝になり、あわてて巡視に行くと赤ちゃんが産まれていたり、生まれそうになっているのにカルテに何も書いてない”という全く仕事ができていないとても苦しい夢でした。

何故このような夢を何度も見るのかと聞くと「あなたがするべき事をしていないので、あなたの霊が知らせているのです」と知らされました。するべき事とは、当時次々と知らされる“情報を公開をする”ことでした。それで何とか本「星からのメッセージ」を出版しましたら、その後はその夢は一度も見なくなりました。

９８年から与えられた沢山の情報は、長坂 力さんがインターネットでホームページや電子本を作ってくださり、皆様に公開する事ができるようになりました。（現在は https://sora.ishikami.jp/ に移行）

情報は次々知らされホームページの〝お知らせ〟に載せていきましたが、内容が全くばらばらに知らされるために、折角ホームページにたどり着かれても支離滅裂な文としか思っていただけなく、残念に思っていました。
それで何とか筋道の通ってきた情報をまとめて皆様にお知らせしたいと思いました。
フランスではコイズミアキヒコさんがウェブアニメ「イシカミ」を作成してくださいました。
又他の方も応援のホームページを次々と作ってくださり、いろいろな情報も教えていただいたりして過ごしていましたが、ソラからの情報も次第に集まり、ストーリーとして形作られていったのでまとめることになりました。
知らされた情報を1人でまとめる事は不可能と思っていましたが、応援してくださっていた読者によるソラプロジェクトのAフミヒロさん、石井ミイさん、石岡ハナさん、石野民子さん、伊藤ユカさん、太田潤子さん、小田切秀禮さん、木村マリさん、村田弘子さん、Yゴロウさん（五十音順）が手伝ってくださる事になり一冊の本にすることが出来ました。
そのことを感謝し、心よりお礼申し上げます。

これらの内容はとても認められないと思われる方が多いかもしれません。
ただすべてを認めるということは無理でも、何か一つでも納得していただけたら幸いと存じます。

又この情報を知ることで今戦っている方たちも、本当に戦争の無意味さがわかると思います。これまではオニの星に支配されたためにこのようになってきましたが、オニがいなくなった今、人間の力で平和な地球にして欲しいというソラのものの思いで、このような情報がもたらされるようになりました。そして新しい考えを基に生きて欲しいと知らされました。国の指導者の方は、国民が汗を出して働いた大切なお金を、軍備でなく国民の幸せのためにお使われることを願っています。

このすばらしい地球に人間として生まれることができたことはまさに奇跡なのです。

地球上のあらゆる人が幸せに暮らすことが出来ますように、平和が訪れることを切に願ってやみません。

最後になりましたが、陰ながら支えてくださったホームページや「星からのメッセージ」の本の読者の皆さまに、心よりお礼を申し上げます。

参考文献

「星からのメッセージ」文芸社

付録

ソラ辞典

ソラ辞典

◇あ◇

【愛のエネルギー体】

宇宙の大元のこと。宇宙は最初真っ暗闇で大元一人でさみしくて、「誰かを愛したい」と思いながら渦巻きを作っていたら星になったことからきている。

【アフィントンの白馬】

イギリス、バークシャーの丘陵地帯に、地肌の白い土を露出させて有史以前に描かれた、巨大な白馬の地上絵。この近くでよくクロップサークルが描かれる。射手座の王様の霊がこの白馬に乗って移動して、フランスのカルナック列石やオーストラリアのピナクルスを作らせに行ったと知らされる。

【アカネヤマ】

渥美半島になったイシカミで、本州の左足の働きをしようとした。分身は赤石連山。

【アーチーズ国立公園】

アメリカ・ユタ州南部にある国立公園で、確認されているだけで約１５００のアーチ型をした岩が点在する場所。これらの弓形の岩は、イシカミや地球は丸いということを表している。丸い石にしたのでは、人間は自然に丸くなったと思い、イシカミ達のことに気づかないので、自然には出来ない形にして、イシカミ達が地球に降りたことを知らせようとした。

【アッタ姫】
ある者の妹。とてもやさしくタケルノミコトを守った、いわば姉代わりだった。
【アルプス】
ヨーロッパのイシカミが作った山。ヨーロッパのイシカミは、オニが地球を支配した後に降りてきたため、連れて来た人間には狩を教え肉食を奨めた。そのことを後悔しているためあまり降りてこない。
【アボリジニ】
オーストラリアに降りたイシカミが連れて来た巨人に似せた人間の子孫。巨人は少し早くお腹から出したので、焼けて色が黒くなり毛がちぢれた。エアーズロックになったイシカミの王女を神としてこれまで大切に守ってきたが、後年オニに入られ、巨人を悪と伝えてきた。
【アリューシャン列島】
北の海に降りたイシカミ達が手をつないで、日本の女王に会おうとやってきて出来た島々。
【青葉山】
射手座の女王（＝御在所岳）の落し物から作られた女の子供で、名前がないと降りてきたのでハナと名づける。京都府舞鶴市にある三角形の山。中腹にある松尾寺の小石でできた大きな岩は、ハナが女王の分身である事をあらわしている。
【アダタラ山（安達太良山）】
射手座の女王の妹・イワキヤマの子供。シラヤマの友達。

【アラハバキ】

アラ＝アラー、太陽。ハバキ＝ハバク＝ほうき＝流星。イスキリが教えた太陽と星が神という考え、あるいはイスキリそのものの事。

【安寿と厨子王】

ヒミコの娘とノアの息子がいなくなった後に、隠れて逃れた子供達のことを元に書かれた物語。物語では母親が佐渡島で盲目になっているが、ヒミコの娘が隠岐島に逃れた時も、実際に長い間の幽閉生活から目が不自由になっていたと伝えられた。

【明智光秀】

織田信長が気が狂ったように残酷な事をするため、秀吉達と心配して何とか止めさせるために相談していた。信長の命を取ったら政権は秀吉に渡すと相談して、形だけの戦いをして光秀は隠居して天寿を全うしたと知らされた。「実ほどに頭を下げる」という言葉が好きでした、と言って降りてきた。

【天橋立の股のぞき】

山の中腹に立ち、広げた両足の間から砂州を見ると、それが空にかかる橋のように見えること。ニニギノミコトの乳母がニニギノミコトに「石神物語」をしたため、股をさされて亡くなった事を伝えるために始まったとされる。ノアの息子とヒミコの娘を民衆は神にたとえていたようである。

【ある者】

ヤマト地方の小さな国の権力者であったが、ヤマタイコクを攻め滅ぼし、大国主を出雲に追放し、ヒミコ

に入れ墨を入れ自殺に追いやる。タケルノミコトの義理の親。ノアの息子を惨殺し、ノアを追放する。ヒミコの娘を強引に由良からヤマトに連れてきて監禁し、子供（ニニギノミコト）を生ませる。悪徳の限りを尽くし、悪事がばれないように文字を禁じ、逆らう者は徹底的に滅ぼし、自分の都合の良い神をも作ったと伝えられた。

【アトランティス】

大西洋にイシカミ達が地中海の土を運んで作った大陸。楽園のような国が栄えたが、やがて、オニに支配されたアンドロイドが反乱を起こし、怒ったイシカミが大陸を沈めた。

【アンドロイド】

アトランティス人が作ったもので、ロボットというより人間に近く優秀でほとんどの労働をこなしていたが、人間と同じように霊があったためMに支配され、アトランティス人を滅ぼしてしまう。

【アマンティア】

アトランティスの女王。

◇い◇

【岩のドーム】

射手座の王様が地球に降りてきて、埋まったと知らされた場所。エルサレムにあり、ドームの中は岩があるだけで、その岩からマホメットが馬に乗って昇天したといわれ、イスラム教徒のモスク。

【一寸法師】
ノアの息子とヒミコの娘の子孫は星述べをしていて時の権力者に滅ぼされたが、小さな子どもが守られている事がわかったため（山彦の子孫）、イスキリがその子を大阪に連れて来て大きくし、後に都に出て選挙の形で仁徳天皇となった事を伝えた物語。

【イソナ】
朝鮮の国。イソナと呼ばれていた大昔には陸が続いていて、日本とは往来が頻繁で仲が良かった。日本はイナワ。

【石貨】
南太平洋の島に伝わる大きな石の貨幣。イシカミが故郷の射手座のホシの形に似せて作った。

【射手座】
銀河系の中心はこの星座の方向にある。複数の星から成り立つが、それぞれが地球の国のようなものであり、宇宙で一番最初に作られた星で、地球から遠く離れていたが、星の戦争時王様が地球に降りてきて戻れなくなったため、女王が王様を捜しに来る。女王も戻れなくなったため、射手座のものも全て降りて来た。

【射手座の女王】
三重県の菰野町の御在所岳になった。射手座の王様が星の戦いで行方不明になったので、地球に探しに来た。女王は山のように大きく柔らかな餅のような身体で、その中に巨人を入れて地球に連れて来た。女

王と巨人は無事に地球に着いたが引力で思うように動けず、その柔らかな身体はぽたぽたとしずくの様に落ちていった。(落とし物)その落し物から作った五人の子どもがイシカタ山・石巻山・石鎚山・富士山(シラ山)・青葉山。

【イシカミ】

大昔、射手座から降りてきたいわば宇宙人、お腹に巨人を入れて降りてきた。射手座にいた頃は、三次元の生物ではなく所謂、半物体、だったが、人間を作った時に自分達も三次元の形になって一緒に下りて来た。大きさは様々だが山のように大きいイシカミもいた。とろとろのお餅のような身体で、引力によって身体からぽたぽた落ちた物が落とし物と呼ばれている。落とし物から分身の子供達を作り、巨人や人間の為に食べ物や川、山を作った。またピラミッドで宇宙のエネルギーを得たり引力を放散したりしようとしたり、いろいろな奇岩を作りサインとして残した。当事の人間はイシカミの存在を知っておりテレパシーでコミュニケーションをしていたが、今では人間の意識が薄くなりごく一部の人にしかその能力が残っていない。

【石巻山】

愛知県豊橋市にある石巻山の事で女王の分身の長女にあたる。初期には男の子のように伝えてきた。輪中を作ったり、アサリやサザエを作ってくれた。貝を食べ過ぎて亡くなる。イシマキサンの落とし物が、三河湾の竹島など。

【岩木山】

女王の妹。子供はアダタラ山とおもちちゃん。（山の名は不明だが、霊が降りた時に著者がつけた名前）

【石鎚山】

四国の山。女王が落し物から作った子供で瀬戸内海を作った。

【出雲の阿国】

ヤマタイコクの子孫で生活のため踊りを始めて，歌舞伎の始まりを作った人。

阿国とは阿波の国＝ヤマタイコクを表している。

【イスキリ】

イエスの事。イエスは磔では気を失っただけで、その後日本に逃げてきた。（イエス世界史編参照）日本にやってきたイエスの別名で、石大工でもあったので石切の仕事もしていて、大阪の石切で最期を迎えた。

【イカルガ（何鹿）】

京都府綾部市は以前「何鹿」と書いて「イカルガ」と呼んだ。この本に出てくるのは全てこちらのイカルガ。「祈ることで力が与えられる」という意味。鹿の角は「白い木＝稲妻＝星の宮」をあらわしていて、鹿も同じ意味合いを持つ。ヤマトの権力者がこのイカルガの名前を持って行ったと知らされている。

【イシカタヤマ（猿投山）】

愛知県豊田市の猿投山の事で、猿投と言うことを嫌がる。射手座の女王の長男で、中腹にある菊石は母親の指輪を持ってきたと言われる。ヤマトタケルノミコトがイシカタヤマに呼ばれて、ここで自殺したと伝

えられる。

【磐座（いわくら）】

その岩のそばで祈り（イ）を輪（ワ）になって暗（ク）くなるまですると楽（ラ）になる。

◇う◇

【宇宙の大元（おおもと）】

愛のエネルギー体と同じ。最も高次元に存在する全宇宙の元となる意識体。すなわち神の大元とも言える。人間の言葉では宇宙全体を表すことができない。

【海彦】

ノアの息子と、ヒミコの娘の子どもで山彦の弟。容貌が兄に似ず外人の風貌でなかったのと、山彦を悪く言う事で生き延びた。

【臼】

イシカミが、米や麦を臼で挽いて食べる事を教えた。

【うるう年】

大昔地球が、オニの星にちょっと上を向くようにと言われて向いたので傾き、自転にかかる時間が少しずれてきたために起こるようになった。

【ウェーブロック】
オーストラリアに降りた射手座の長老の身体に作られた大波の形の岩。ムーノイアやユーノイアに、台風の大波となって日本に行くように教えた。また岩の頂上は人間が登りやすいような形になり、岩の頂上には大きな穴をくりぬいて人間のために、そこに水がたまるようにしてあげたやさしいイシカミ。今はその穴のそばに巨石が沢山あり、穴には大きな木が沢山生えている。

【ウラジロ】
裏が白いシダの一種で、真実が隠されている事をあらわし、オニが来ないようにぎざぎざをつけた。正月に鏡餅の上に載せる習慣があるのは、鏡餅＝イシカミをオニから守るため。

【ウシトラノコンジン】
ノアとノアの息子の霊のことで、正直者の出口ナオに霊として降りた。ある者が、ノアを牛、ノアの息子を虎にたとえて悪神として言い伝えさせた。ノアの親子はある者によって殺されたり、追放されて野垂れ死にしたため、ある者は祟られるのを恐れ一応神として封印していたが蘇った。

【ウネメ】
ある者とアツタの妹でニニギノミコトの恋人。ある者に抗議をして股をさされ亡くなり、八柱神社の横の神社に葬られた。

◇え◇

【エンジェル】

子供の天使。オニの意識体にエネルギーを運んでいたと伝えられる。

【エベレスト】

中央アジアに降りたイシカミ達が空高く山を作り、その上にピラミッドを作ってエネルギーを貫おうとした。その山のお陰で雪が積もり雨が降るようになり、人間は恵みを受けた。

【S】

シリウスの略で、オニのグループ。

【エネルギー体】

意識体ともいう。ロボットとの違いは、人間に強い影響をもたらす存在。オニがいなくなってから、オニのまねをして、人間を支配し、神、観音などと名乗り、「ヽ、をせよ」と命令したり、あがめてもらいたがる意識体。人によってはモヤのように見えたり、ゼリーのように見えたりする。肉体に入り執拗に電気を流したりして嫌がらせをするものもいる。

【エアーズロック】

オーストラリアのほぼ中央部にある巨大な岩山。先住民アボリジニの聖地。射手座の下の王女の遺体と伝えられる。

◇お◇

【落とし物】
地球の引力に引っ張られて、イシカミの餅のような柔らかい身体から“しずく”のように落ちた物で、イシカミの身体の一部。それは次第に石のように固くなっていったが、はじめは柔らかくて加工しやすかったので、イシカミは自分たちが存在していたことを示すために「変わった形の岩」などを作っておいた。またイシカミはその落とし物で、大きな巨人を作った。それが巨人伝説やデエダラボッチとして世界中で言い伝えられている。

【オーブ（光の玉）】
写真やデジカメに映る光の玉。ロボットが存在をあらわそうとしていると伝えられている。色や模様の付いたのやいびつな形はエネルギー体で、白くて丸いものはソラの部下のロボット。

【おのころしま】
『おのれの心を知ることが大切』という意味で、ある者がヤマタイコクを責める時に立ち寄った所。淡路島の内陸部にある名前。

【大羽根のもの（大人の天使）】
大人の天使のことで、自分たちのことを大羽根と言って来た。神の使いのように言われていたが、オニの星の部下だったといって降りて来た。実際恐ろしいビジョンを見せられた時そばにいて、「言うとおりにしたほうが良い」とアドバイスしてきたと報告あり。これらを崇めるエネルギーが新たなオニの意識体を

育てていると言われる。

【おもらいもの】

宇宙の中の鉄を引き寄せるという壊れ物と同じ意味で、ソラのものの独特の言葉。不満や恨みなどのネガティブな思いの事。

【オシリス（イシス）】

エジプトの女神でオニが作り出した神。

【生石神社】

ソラのものはイクイシと呼ぶが、後年の権力者がオオシコと呼ばせた。六甲のイシカミが未来にＴＶがあらわれる事を知って、その形の巨石を作っておいた。水に浮かんだように作られているのは、イシカミは水の中にもいるという事を知らせている。

【沖縄列島】

かつては太平洋に広がっていたムー大陸とつながっていたが、オニに支配されたためイシカミによって沈められ、その一部が残った。

【おばれ石】

射手座の女王が御在所岳に「口」のつもりで作った巨石。下から見ると山の極く 小さな口に見える。射手座から降りてきた事を人間に知ってもらうためにずっと話し掛けてきた事をあらわす。

【オニ】

恐怖の想念をエネルギーとする、プレアデスやシリウスなどの地球に近い大きな星のグループで、強い力を持ち、星の戦争後から1998年まで地球を支配していた。宇宙の大元の弟が陰で操っていた。その想念や、これに支配されていた人間の事も示す言葉で宇宙の大元がつけた名前。ヘビ、ワニ、龍神などに象徴される。イシカミのように彼ら自身は三次元の生き物として地球に降りてきたのではなく、それらの生き物を地球に送りイシカミを苦しめた。アンドロメダやケンタロウス等の部下がグレイを使い残酷な事をしていた。最近ではプラスとマイナス、光と闇といった相反する概念と善悪の概念を同一視させるなどの巧妙な手法で、他者への支配を正当化しようとした。

イシカミが人間に対し善の概念のみを入れたが、オニがその意識を改造した。

【オシナマエ（刺青）】

ヤマタイコクの国民がある者の捕虜にされた時つけられた刺青の事。

ヒミコは口の上につけられたと痛みで知らせてきた。男性は鼻（目と目の間）につけられた。

【オーロラ】

あの様な形で、意識が伝えられたり原子が重なって物質化する事をあらわしている。

【オーム　トリア】

ヨーロッパのある国を指しており、亡くなっても再び人間として生まれ変わらなければならないという意味。人種差別が激しい事を指摘している。

◇か◇

【観音】

現世ではやさしい顔をしているが、後ろを向くと霊界では般若の顔でオニの仲間だったと知らされる。仏壇の上にいて霊界を支配していた。

【髪の毛、髭】

頭の上にある沢山なもの＝名のない小さな星＝ソラのもの。

それをそってしまう事は、ソラのものを無視している。髪の毛をそるように言わせたのはオニの星。同じく帽子やターバンなどは、全て髪の毛に意識を向けさせないため。髭も頭の毛に意識を向けず、髭に意識を向けさせるため。

【カルナックの列石】

カルナックの列石（フランス　ブルターニュ地方）総延長約４ｋｍ約3千個の巨石が高い順に並んでいる。星の戦争前はこのようにきれいに星たちは並んでいたということをあらわしている。

【柿ノ本人磨呂】

星延べのものに柿はイシカミが与えてくれた物だと教えられ、そこから柿ノ本人磨呂という意味のある名を付けたと言われる。菅原道真の友人で、文字のことを追求したために出雲に流されるが、途中星原に寄り、柿の木を植えたと。出雲で亡くなる。

【漢字】

ヒミコはカタカナを作って紙に書いていたが、まとめて書くと紙が少なくて済むので漢字を考えたと言われる。簡単な漢字は男文字といって、カタカナは女文字と言った。

韓国や中国からも文字を習いに来た。「漢字も私が考えた」と、ヒミコは何回も伝えてきた。

【カタカナ】

最初の文字（ホツマツタエ）は覚えにくいので、ヒミコと若者が考え出した文字。日本史の章参考

【カラニッシュ遺跡】

スコットランドのルイス島にある遺跡で、遺跡の中心からほぼ東西、南北の十字の形に巨大な石の列が並んでいる。ここのイシカミが苦しみに満ちた感じで「レイクエムイシカミ」という独特の言葉で伝えてきた。

【カッパドギア】

トルコにある奇岩と地下都市のある名所。帽子をかぶったような形の石は、イシカミがこの下に都市がある事を知らせるために落とし物で作った。地下都市はイシカミが死んでまだ柔らかい時に穴を開けたので、沢山の部屋が簡単に出来た。

◇き◇

【君尾山】

君山を守るためについて降りてきたイシカミ。仏教により封印されていた。

【ギリシャ神話】

アトランティス人をモデルにした神話であるが、後年オニの意識が入り恐怖の物語となった。

【君山（城山）】

城山、シロヤマとも言う。京都府綾部市吉美にある三角の小さな山。射手座の女王の末子で星の宮のそばに降りて山彦を見守ったが、殺されたためシガサトの七不思議の奇跡を起こした。

【巨石】

イシカミが柔らかな落し物で作った。人間への様々なメッセージをあらわしているものが大変多く、古代人々の信仰の対象であった。現在でも、山や石そのものを祭っている所が数多くある。

◇く◇

【クンダリーニ】

エネルギー体（意識体）が性的な快感を得るために、肉体に入ること。すなわちエネルギー体に身体を明け渡したことであると知らされる。その後、精神的に不安定になったり、チャネリングが始まる事もある。エネルギー体は神などと名乗り、その人を支配することもあり、日常生活に支障を来すことが多い。

【グランドクロス】

占星術の言葉。木星、土星が「おうし座」に、太陽、水星、金星が「やぎ座」に、火星、冥王星が「さそり座」に，天王星，海王星が「みずがめ座」に属し、１９９９年に地球を中心として十字に並ぶ事でエネルギーが増幅されるので、それによってオニの星をやっつけようと計画していた。

【クロップサークル】

ミステリーサークルとも言われる。晩春から夏にかけて穀物畑で、幾何学模様など自然には出来えない形に穀物が倒れる事で、ソラのもの達からのメッセージでソラのもの達のロボットが作っている。

【グランドキャニオン渓谷】

南米のイシカミが高い山を作りオニを防いだのを見て、北米のイシカミは深い谷を作って防ごうとした。

【クフ王】

イシカミの子孫の最後の王もクフ王と言った。クフとは空（クウ）で、空の者という意味。現代ではエジプトの最大のピラミッドがクフ王の墓とされているが、本当はイシカミの仲間の墓で、イシカミが宇宙からエネルギーをもらうためにピラミッドを作った。

クフ王は、イシカミの子孫の王（巨人）が途絶えた後の人間で始めての王で、小さな像しかないと知らされる。最後のイシカミの王から、既にあったピラミッドを直すことと、スフィンクスのネコの顔を人間の顔に作り直して欲しいと頼まれ工事をしたと伝えられ、彼自身はピラミッドを作っていない。

◇け◇

【ケルト】
アイルランドなどに住む民族。妖精伝説が多く、渦巻きの模様など独特の模様を持つ。

【顕在意識】
はっきり表にあらわれている意識。自覚できる意識。潜在意識（霊）に対比する言葉で、霊的に進化するとこの二つの意識が近づくと言われる。

【原子】
物質を構成する1単位。原子核と電子からなり、電子が原子核の周りを軌道を描きながら回るのは、原子核が電子に「回ってください」と頼むからで、「原子に意識がある」ことを証明する。

【ケツアルコアトル】
アトランティス人の一人で平和の神として、中南米にあらわれて人間を助ける。食べ物を与えたり、知恵を授けたりして民衆に慕われたが、Mが遣わした神テスカトリポカに負ける。その時親切をよそおってMがヘビの舟をつかわし、助けた振りをして海に沈めてしまう。
その時ケツアルコアトルは助けられたと思い再びあらわれることを予言していたため、1519年に来たスペイン人を人々が神と間違えたため悲劇となる。

◇こ◇

【柿落とし】

歌舞伎などの芝居の最初の公演の事で「コケラ落し」と言われるが、本当は「書き通す」という言葉。ヤマタイコクの悲劇を言い伝えるために、出雲の阿国が始めた歌舞伎の言葉。

【5角の建物】

5は霊を認めない＝今さえ良ければ良いというオニの考えをあらわしている。五稜郭、ペンタゴンなど。

【コトシロヌシ】

「真実のコトをシロウとする人」という意味で、沖縄のイシカミの子孫。南の島から出雲へ行き大国主を助け、巨大建築を造った。そのため、出雲の人間は南から流れてくるウミヘビも良いものと勘違いして祭った。

【こわれ物】

ソラのものの言葉で、恐怖、恨み、不安、悲しみ、いらいら、不満などネガティブな思いをまとめてこわれ物と呼ぶ。おもらい物とも。こわれ物は宇宙の鉄の原子を吸収するそうで、地球は、星達の不満が集まり宇宙の鉄の原子を引き寄せて大きな固まりとなり、高温で溶けていたと伝えられた。

◇さ◇

【猿投神社】

イシカタヤマ（猿投山）の麓の神社。鎌を供えるのは、タケルノミコトがここに逃げ込んできた時、土地の人が鎌で守って山に逃がしたからと伝えられた。

【サンカ】

村に定住せず山や河原で住んでいた人たち。ヤマタイコクの子孫もいた。

【珊瑚】

ムー大陸の人たちのために、木のヒバに似せて作られた。

【坂之上田村麿呂】

初代征夷大将軍で、人望があり、ユーモアもあった。道真にヒミコの書き物の事を教えられ世に出すように進言したため、東の国を攻めに行かされるが、争いはせず相手に従う振りをさせ、東の国にはオニがいるので行かないほうが良いと報告した。帰ってからもヒミコの書き物の件で嫌がられ、「猿丸太夫」という嫌な呼び方をされた。

【山椒太夫】

安寿と厨子王の項参照

【猿投山】

愛知県豊田市の猿投山の事で、本当はイシカタヤマと言う。猿投と言うことを嫌がる。

「イシカタヤマ」参照

【三位一体】

人間は魂、霊、肉体から成り立っているということ。

◇し◇

【次元】

「次元とは紙芝居の一枚の絵と同じで少しずつずれて存在しています。次元が低くなるほど物質として目に見える形になり、次元が上がるほど光の粒のようになり形にはならないので目にはみえません。一番の高次元が宇宙の大元です」

【静脈瘤】

顕在意識より、潜在意識（霊）が強くあらわれていることを肉体が示している。

【ジプシー】

オームトリアの国民であったが、戦わされることが嫌で、国を逃げ出し放浪した集団が始まりと知らされる。その後いろいろな国から集まってきた。

【磁力】

地球の中心は鉄が多く、その地球を星の戦争の時に星たちが引っ張りあったので生まれた。

【小惑星エオロバ】
木星の周りを回る小惑星。木星の卵子に対し精子をあらわし、ソラのものは地球の人間に降りて支配してはいけないという約束を形にあらわしている。
【信貴山（しぎさん）】
奈良県生駒郡平群町奈良にある山で巨石が多い。
物部守屋についていた子どもがオニに支配され、信貴山の寺に送られた。
【鍾乳洞】
イシカミが肉体の原子に形にならなくても良いと言ったので、岩にならず空洞になった。その他にイシカミが作ったり、オニの作ったナメクジなどにイシカミの身体を食べられたとも伝えられた。
【支配】
霊に命令をして支配する事。（現実のとは違う場合がある）宇宙の法則は【支配してはならない】ということ。人間を思い通りにしようとするオニの星の意識。
ある人間の意志、命令で他の人の思考や行為を思い通りにしようとする事。
【シンクロ】
偶然の一致。ロボットたちが見えない世界でお互い情報を交換していて同じ事が起こるように操作している?。

【シリウス】

地球に近く、大きな力でこれまで人間を支配してきた、オニの星の霊。１９９８年春にプレアデスと共に霊は消滅したがその想念はまだ残っている。厳しいが、あらゆる知識も教えてくれた。今は名のない星の霊が住んでいる。

【消滅する】

支配するエネルギー体を大元の愛のエネルギー体に戻す事。「消滅した」と何回も繰り返すと「消滅しました」と口が動くようになる。“消滅した”と言葉になる場合もあるが、わからない時は思うだけでも良い。

【１３】

ジュウソウ（十三）やトサミナト（十三湊）や十三湖などの数。イエスの十二人の弟子に、孤児だったが大人になって弟子になったバーソロミューを加えた数字。

【白い木の者】

白い木＝稲妻。星の宮が地球を掃除するために、稲妻となって地球の星原に降りてきた。白い木の者とは星物語を伝える者という意味。（星述べ）

【１３の暦】

マヤ暦を元に作られたもので、新年が7月２６日からの1年が１３ヶ月で構成されている。シリウスが作ったいろいろな模様は、オニに支配された神官達が人間の運命をカードで決めて恐怖心を与え、楽しんで

いたと知らされる。

【シガサトの七不思議】

京都府綾部市志賀郷に伝わる七不思議。イシカミのシロヤマが、山彦が殺されたので知らせた。一）白藤、二）白萩、三）ゆるぎ松、四）しずく松、五）タケノコさん、六）みょうがさん、七）ご用柿

【城山】

君山ともいう。君山参照。

【シラヤマ（富士山）】

富士山のことで女王の3男。ウナギを作ってくれた。アダタラ山に行く途中、手をついた所が浜名湖。地球に噴火してもらって、自分の身体の上にピラミッドを作った。

◇す◇

【相撲取り】

イシカミを思い出させるために遺伝子を変えられ太った体格の大きい人がなる。弁慶もその1人。

【スセリ姫】

ヒミコの娘がヤマトに戻らなければならなかった時、身代わりを申し出てヤマトに帰り三輪山で自殺する。

【スタッファ島（フィンガルの洞窟）】

スコットランドのスタッファ島が射手座の王様の弟のイシカミ。穀物が出来ないと意地悪な星に教えられ、狩りを教え肉食を教えた事を後悔して、クロップサークルを描くようにロボットに頼んだ。有名なフィンガルの洞窟の6角柱の岩は、将来人間が柱を使って家を建てる事が分かっていたので、元素に頼んでこの形に成ってもらった。穴はイシカミのお腹の穴から人間が出てきたという事をあらわすために作った。

【スリーシスターズ】

射手座の王女が3人いたことを岩で伝えた。オーストラリアにある岩が有名。

【菅原道真】

宇多天皇に重用され右大臣にまでなったが、若いときに遣唐使として渡り仏教の堕落を見て遣唐使を廃止した。又ヒミコの書いた物を研究したため、仏教を信仰する人たちにより九州に流さる。

【ストーンサークル】

石で丸く形取っているもので世界中にあり、イシカミが丸かった事をあらわしている。イシカミが人間の為の食べ物を与えてくれていたので、食べ物を与えてもらうためにこれを拝んでいたとも言われた。イシカミはテレパシーで会話をしていたため、世界中の人間に教える事ができたようである。

【ストーンヘンジ】

イギリス南西部のソールズベリー平原にある有名な遺跡で、数十トンもの巨石の柱や横たわる大小の岩の群。射手座のモノが地球の人間を支えています、という意味。

◇せ◇

【セキレイ】

セキレイ＝赤霊＝すなわち霊が恥ずかしがる悪い事をする事。

【前方後円墳】

イスキリ（イエス）がギリシャ文字のオームが最後の形と言っていたので、その形をお墓にした。

【蝉丸】

真実の話＝ヤマタイコクの話を世に出すようにやかましく言う人を、ジージーと夏にやかましいセミに例えてあだ名をつけられた菅原道真の事だと伝えられた。

【千利休】

明智光秀の弟子であったが、光秀の名誉を挽回して欲しいと秀吉に言ったため怒りをかって自殺させられる。

◇そ◇

【ソラのもの】

そらのもの＝星：太陽系の星・射手座・イーグル星（小鳥座）・オリオンや“小さな名のない星”で地球

を平和な星に作り上げようとし続けている宇宙の意識体のグループ。星そのものは3次元の存在で人の目で見えるものだが、それぞれの星には別次元の意識体が存在し、人間社会でいう王様や民がいる星もある。星によって民の数は違うが、宇宙の平和を維持する為に各々の星には異なった役割がある。それは星の宮の意識体（または宇宙の大元）がそれぞれの星に与えたもの。ソラのものの部下がロボットと呼ばれる（4次元？）次元の存在で、人間世界のメッセンジャー。今ではエネルギーがとても弱くつながりにくいが、一部のものはクロップサークルで意志を表現している。

◇た◇

【高師小僧】

愛知県豊橋市の南部、高師原（タカシハラ）に見られた褐鉄鉱の団塊。石巻山は子供を作るのが嫌だったので、代わりにオニをやっつけるための物（ピストルの弾？のつもり）と、後年人間が鉄製品を作る時に利用できるので鉄分に集まってもらった。

【立山】

いたずらな若者のイシカミで、射手座では剣山になったイシカミと共に、王女たちを追いかけていたと知らされる。

【タケルノミコト】

大国主とヒミコの長男。ヤマタイコクの若者の裏切りにより、幼い頃ヤマトのある者の所へ連れて行かれ、

そこでニニギノミコトと兄弟のようにして育つ。ある者の命により出雲へ征伐に行くが、自分の討った者達が実の父親の部下であった事を知って絶望し、イシカタヤマで自殺する。（猿投神社）

【台風】

ムーノイアなどの南のイシカミたちが射手座の女王に会いに行こうとするために起きる。

また南のほうに大きな大陸（ムー大陸）があったことを知らせている。

雨を降らせ、海の掃除をする。台風にも意識がある。

【タロコ渓谷】

台湾にある大理石の渓谷。台湾は日本と同じ役目があるので、多くのイシカミが降りてきて、下になったイシカミが圧縮され大理石になったが、山の下になっていたのでは、大理石がある事が分からないので、イシカミたちは仲間の身体がやわらかい内に大きな溝を掘った。それが渓谷となり、巨人の指でなぞったような跡や巨大な一枚岩がある。

【竹内古文書】

竹内家に伝わる古文書で、ノアの息子が富山の竹内家に助けられた時記録に残した。ノアが聞いていた天地創造の話を天皇の名前になぞらえて書き残し、また億才とあるのは、現実にはこのような年齢はありえないので、そこからこの文書の真意に気付いてもらうために書かれた。噂を聞いて義理の息子（ニニギノミコト）が訪ねて新たに書き加えたとも言われる。

【魂】

生きようとする思いのエネルギー。霊が生きたくないと思うと首筋から出て行こうとする?。

◇ち◇

【千木】

社殿の屋上の先端が伸びて交差したもの。千木は星の宮（＝入母屋）を否定することをあらわしている。かつて出雲大社も入母屋造りであったが、ヤマトから千木をつけるように言われた。

【チャネリング】

霊界や宇宙と交信する事。宇宙の神、星の宮、星達（地球も）、かつて人間だった霊、身体の細胞、原子までから幅広く情報を伝えられている。言葉が感じられたり、口が動いて言葉になる。

チャネリング時の注意

神とかえらい存在を名乗るのも崇めてほしいロボットが言っている場合が多い。命令、指示を与え、恐怖を与える場合は直ちにクリニック等へ行く事をすすめます。

【地球】

宇宙の不満の意識が集まり、鉄を中心に宇宙の元素を引き寄せ塊となった。真っ赤に熱せられて宇宙をさまよっていたが、水星が水で地球を冷やしてくれ、土星が土を、木星は木をプレゼントしてくれ、またそれぞれの星が動物、花、魚などを送り込んでくれた。モーリタニア、サハラ砂漠に地球の目、エルサレムが地球の心臓などと知らされる。

◇つ◇

【土蜘蛛】

サンカと同じように里に定住せず、穴蔵などに住んでいたが、捕まえようとすると蜘蛛の子を散らすように逃げる様子からこのように呼ばれた人達。ヤマトの権力者に歯向かうもの達（ヤマタイコクの子孫？）

【ツインタワー】

双子をあらわし、イエスとマホメットも過去世で双子だったことをあらわすために建てられたと言われた。

【剣山】

剣山は、いたずらな若者のイシカミで、射手座にいた頃には立山になったイシカミと共に、王女たちを追いかけていた。剣という嫌な名前をつけられているのが悲しいとも伝えられた。

◇て◇

【テレパシー】

言語などの手段でなく思考などが伝達される事。

【デェダラボッチ】

日本の民話で語り伝えられている巨人で、イシカミの事を伝えている。射手座から降りたものは動けなかったので、自分の身体から分身を作って作業をしてもらった。（山や川を作った）イシカミの分身の事。

【出口ナオ】

京都府綾部で極貧の働き者の主婦であったが、突然ウシトラノコンジンと名乗る霊に支配され、大変苦労した。（ウシトラノコンジン参照）その後霊能力に恵まれ、出口ワニ三郎と供に大本教を開いた。

【出口ワニ三郎】

幼少より特別な霊能力を持ち、預言がよく当たったと言われる。出口ナオと共に京都府綾部で大本教を開き一時は大変な勢いであったが、政府の強硬な弾圧に遭う。ワニとかオニとかいうようにプレアデスに支配され行動していたが、途中でおかしいと気づいた。

◇と◇

【土柱】

ヒミコがこの土地で自殺をする事を知っていたイシカミが、その土地の元素に〝墓標をあらわす形になってほしい〟と頼んだので、そこの元素が縦になる形になった。イシカミが吉野川の河原の石をそこに運んでおいた。

【東尋坊】

イシカミが柱状摂理（6角柱）の岩を作り、昔は地元の人に大切にされていたのに、東尋坊という乱暴者の僧侶を岩から突き落とし、嫌な名前と印象を与えるように仕向けられたと怒っている。

【十三湊】

とさみなと。青森県津軽半島にあり、船による交易の拠点として栄えた港湾都市。中世に大津波で壊滅したと伝えられ「幻の港町」といわれてきた。イスキリの教えから13湊と呼んでいたが、大地震のために壊滅する。

【トヨウケ】

日本古代の神で食物を司る神と言われ、マナイ神社の主神。射手座の女王のお腹に入って地球に降りてきた。ヤハウエーと一緒になりその子供が、アマテル、アマテラス、などといってきた。イブとも。

◇な◇

【名のある星】

肉眼で見え星座の名前が付けられている星。地球に近いのや大きな星で、地球に影響を及ぼす力が大きく、一部の星座は地球を支配して、オニの真似をしようとした。これまで知らされている星や星座の名前はシリウス、プレアデス、アンドロメダ、北斗七星など。

【名のない星】

その名の通り、星座の名前のついていない小さな星達の集合意識で星の宮の部下。オニの支配が終わった後白色星団が地球を見守ってくれていたが、それぞれの星に帰った後、いろいろと情報を与えてくれている。

◇に◇

【日本アルプス】

射手座の女王が岐阜に降りたために、お供でついてイシカミもたくさんそばに降りたので高い山々になった。

【ニニギノミコト】

ある者と、誘拐されて来たヒミコの娘との子どもでタケルノミコトと兄弟のようにして育つ。乳母から石物語を聞かされていたためある者の怒りを買い、イソナへ行かされる。それを抗議した恋人のウネメも乳母と同じように股を刺されて亡くなる。父親に不信感を持つ。その後クマソ征伐を果たし、ジンムとなる。生前の希望により、ノアの息子の一部が眠るイセに葬られる。

【仁徳天皇】

山彦の子孫を当時大阪にいたイスキリ（イエス）が引き取って育てた子が後年、選挙で天皇に選ばれ仁徳天皇となる。イスキリに教えられた事を政治に生かし、租税を3年免除し国が安泰したと言われる。仏教推進派の小野妹子に殺害される。ギリシャ文字のΩをかたどった墓が作られたのが前方後円墳。難波に都を置いた最初の天皇。

【ニビル】

シュメールを支配したのが二ビル（の星）で、恐怖のまつりごとをした。

【虹】

虹は地球神が太陽に頼んで作ってもらうと言われる。空からの祝福のサイン。

◇ね◇

【願い＝ネガイ】

ネ＝根がいい＝作物が良くできる。ソラのものに願うと良い。

◇の◇

【ノア】

「何もない」という意味。ノアの洪水のノアでもあり、オニに支配された悲惨な人間の世界を見て、世界中のイシカミ達が一斉に泣いた為に大雨となった。イシカミの声が聞こえた真面目な人をノアとも言って、何組ものノアがいてその内の一組の親子が日本に漂着した。ノアの父親は言葉がしゃべれず、ある者に追放され石川県で放浪の末、死ぬ前に「モーゼ」と言って亡くなったため、現在押水町に「モーゼの墓」がある。（エジプトのモーゼではなく、名前をもらったと言われる。）

【ノアの息子】

世界中の巨大なイシカミが大泣きして「ノアの洪水」が起こり、その時、一組のユダヤ人のノアの親子が日本に漂着し、イシカミの言葉に導かれ星原にたどり着く。そこで、ある物から逃れて来たヒミコの娘に

出会い、山彦、海彦、女児をもうけるが、ある物が襲ってきて捕らえられ、籠舟に乗せられ海に流され富山に流れ着くが、最期は大江山で惨殺された。後年、「ウシトラノコウジン」の霊として出口なおに降りる。

◇は◇

【ハーフドーム】
アメリカ、ヨセミテ公園にあるドームを半分に割ったような岩。イシカミ達がその半分を切り取り、違う所に鏡餅のように重ねた岩を作った。

【ハンムラビ法典】
メソポタミアの王が作った法典。「目には目を」「歯には歯を」などという復讐の言葉を記した法典。マホメットはこの教えを正しい内容に変えた。

【パラレルワールド】
同じ空間にあるちょっとずれた別次元。幽霊、小人、ＵＦＯなどが見えるのも別次元になっている。クロップサークルＮＯ１０，７６で説明されている。

【パミール高原】
アフガンに降りたイシカミがパミール高原の岩の橋を作った。その合図のためにアンモナイトを置いた。ここに降りたことをとても後悔したが、人間のためにと高い山を作った。しかし、人間の役に立たず苦労

の種となってしまったと伝えてきた。

【白色星団】

太陽系の惑星で構成され、大昔より地球を守ってくれていた。９８年秋からオニのグループの支配が解かれてから、チャネリングが始まったが落ち着いてきたのでそれぞれの星に帰っている。冥王星の女王が団長で、グランドクロスの時に力を合わせてオニを追い出す予定だったので、グランドクロスは悪いことではなかったと言われる。１９９９年の複雑なクロップサークル（オニがいなくなったお祝いのパーティなど）は白色星団が描いていたと伝えられ、太陽を始めいろいろな星から地球を助けに霊として来てくれていると伝えられた。

◇ひ◇

【ピラミッド】

石造の方錐形建造物の遺跡。特にエジプトが有名で、中南米には階段形もある。三角山はピラミットでないかと言われている。射手座ではピラミットでエネルギーを貰ったり、引力を放出したといわれた。ギザのピラミットはイシカミが、落し物に柔らかい時に、積み上げていって木を突き刺して、通路や空気抜きを作ったと伝えられ、落し物が柔らかいうちに積み上げたので、隙間なく積み重ねることが出来たので崩れない。ギザの３つのピラミットは、オリオンの星の並び方に似ているのは、オリオンにエネルギーを送ってほしいと合図をした。

【ピナクルス】
オーストラリアの砂漠の中に無数に林立する岩のある所。星達が並べられるのを嫌がってばらばらになった事をあらわす。(反対に並べられていた光景は、カルナック列石)

【ビジョン】
目を閉じていても、景色や絵のようなものが見える事。ソラのものはごく小さな絵や漫画、象徴的なものを見せてお知らせをする。オニのものやエネルギー体などは恐ろしい情景を見せるようである。

【ひらがな】
漢字やカタカナはヒミコがイシカミに教えられてつくったが、ヤマタイコクのことを知られるのが嫌で蛇文字を作ったがそれが変形したもの。

【P】
プレアデスの略で、最初の頃はプレアデスを信じている人が多いので略で書いていたが、あまりにもプレアデスを信じる【想念】が強いため名前を出すようにした。プレアデスの項、参照。

【ピラト】
ローマの提督であったが、イエスの裁判の結果を告げるのをさけて、民衆に決めさせたのは、「多額のお金をもらっていたため」とイエスから知らされた。ピラトの娘はイエスを信じていて、娘はピラトに〝イエスは悪い人ではない〟と言っていたので、余計判決に関わりたくなかった。

【非差別部落】

ヤマタイコクが滅ぼされた時、そこの国民に入れ墨をつけ奴隷としてヤマトへ連れて行き、田を作らされては取り上げ差別し続けたと言われる。非差別部落の住民こそ、誇り高き優秀なヤマタイコクの子孫と知らされた。

【百人一首】

毎日歌ばかり読んでいたので、単なる色恋や風景だけの歌ではなく、誘拐され子供を生まされたヒミコの娘やノアの惨劇を、権力者に見つからない様に如何に隠して読むという事を競い合った。首（死）を覚悟で歌を読んだ。

【ヒヤソ踊り】

綾部市高倉町の高倉神社に現在も残されている踊り。「ヤソ、ヤソ」とかけ声をかけながら、「ササラ」と呼ばれる12本の竹を首にかけながら男の子が踊る。「ヒヤソ」とは、ヒ＝ヒミコの娘、ヤソ＝ノアの息子が外人という意味で、この二人がキミに住んでいて、ノアの息子が殺されたことをあらわした。

【ヒミコの娘】

大国主とヒミコとの子供でタケルノミコトの姉。イシカミの声に導かれ星原に逃れ、そこでノアの息子と出会い一緒になり、山彦、海彦、女の子に恵まれる。由良で幸せに暮らしていたが、ある者にさらわれ、ニニギノミコトを生まされる。由良に戻り自殺をしようとするが、再びヤマトへ連れ戻されそうになり、スセリ姫が身代わりになってくれたために隠岐の島に逃れ、そこで父親の大国主に出会い最後まで一緒に

暮らす。

【ヒミコ】

サマルカンドで大国主と一緒になり、日本に来る。イシカミの声が聞こえ、文字を作ったり織物を織ったりして、大国主と供に四国にヤマタイコクを作る。娘とタケルノミコトの2人の子供に恵まれ幸せに暮らしていたが、ある者に攻め滅ぼされ自殺をする。

◇ふ◇

【フィンガルの洞窟】

スタッファ島の項、参照。

【フリンダーズ山】

オーストラリアにある山で、頂上に向かって岩石が波打つように寄せている。地球がまだどろどろだった時に、そこから飛び出した物質が月になった。

【プライスキャニオン】

棒が沢山立ったような巨石群の渓谷。ひときわ高い巨石は射手座の女王をあらわし、3つ並んでいるのは3人の王女をあらわしている。その他の棒は射手座から降りてきた沢山のイシカミ達をあらわしている。

【プレアデス】

1998年までシリウスとともに地球を支配してたオニの星。やさしく女性的で華やかな事が好きな星の

意識であったが、反面非常に残酷で冷たく、地球で霊の地獄を作ったと伝えられた。今はプレアデスの霊はいなく、名のない星たちが移り住んでいる。

【物質】

原子に意識があるので、星達は原子にこの様になって欲しいと頼むと、頼まれた原子の先頭が指示された事を他の原子に伝えて形になると伝えられた。オーロラのような形になってガスが重なって物質化する。

【ブルーホール】

中央アメリカの国、ベリーズの海にある内径３００ｍほどの巨大な穴。イシカミの身体であったが、食べられてしまったので丸い穴になったと知らされた。

◇へ◇

【蛇文字】

神代文字の一種。蛇のような形の文字で、文字を書くと蛇になると当時の権力者は触れ回り、文字でイシカミやヤマタイコク等の情報を書き伝える事を禁じさせた。

【ベスビオス火山】

射手座の女王の妹で、その部下達が地中海を掘った土でアトランティス大陸を作った。また人類はオニに支配される事予知し、イタリア半島を長靴の形にしてその先に小石を置いてつまずく事を知らせた。火山の噴火でポンペイの町が埋まる。ゼウスを生み，その子孫がアトランティス人。

◇ほ◇

【北斗七星】

柄杓の形をしており、地球をすくい取る形だと教え、人間を支配した。現在も朝鮮で信仰されており、オニの想念を持っている。

【星述べ】

白い木の者の項、参照

【星】

肉眼で見える物質となった無数の宇宙のもので、意識がある。夜は星を見つけるために作られ、夜も昼も星達は地球を見ている。星の意識は地球にとても大きな影響があるが、今は地球を見守ってくれている。

【ホツマツタエ】

一般には、古代大和言葉で綴られた日本の古代の神達の歴史の記録であると言われているが、ヒミコが女性の仕事や、イシカミの事などを書いたものと知らされる。

【星原】

宇宙の大元の星の宮が降りた所と言われる。京都府綾部市星原という小さな村で、ヒミコの娘とノアの息子が出会った所であり、その子の山彦が住んでいた所。

【星の宮】

宇宙の大元の分身で、恐竜ばかりの争いの地球になったため、宇宙神の命令で地球に降りて、稲妻で一気

に地球を掃除をしたと伝えられる。掃除をした後京都府綾部市星原で眠っていたが、一九九八年秋に目を覚まし、著者とコンタクトをとっている。この場所に星の宮神社があるが、石がなかったために忘れられていた。

◇ま◇

【マリアナ海溝】

地球上で一番深い海溝。（1万911m）射手座のイシカミで、女王たちを捜しに行こうと他のイシカミを誘って地球に降りてきたが、あまりの条件の悪さに、他のイシカミから非難され、地球に誘って降りてきたことを非常に後悔して地中深く潜ったと知らされる

【カタカナの【マ】】

これまでは「マナブ」事を嫌がってマ＝魔としていたが、本当の意味は真実を【マナブ】の【マ】であると言われた。

【マヤ暦】

13の暦ともいい、不気味な絵が沢山描かれ、その絵の解釈は良いように言われているが、知らされた事は恐ろしい事であった。マヤ文化が栄えた頃、その絵の内容で人間の運命を決めるという、きわめて残酷な内容であった。すなわちトランプの様に絵のカードを引かせ、それによりその人間を生かすか殺すかなど決めて、人間に恐怖を味あわせ、オニに支配された権力者が楽しんでいたということであった。

【私市丸山古墳】

京都府綾部市私市にある物部守屋（イシカミを守る）と「白い木の者の子孫」の墓と知らされた。高速道路を作る時に発見された、京都府一の巨大な丸山古墳。（隠されていた）大人と子供の遺体が発見され、古墳の回りには多数の、横穴のあいた土器が置いてあった。横穴のあいた土器は、将来この古墳に横穴（高速道路）が開く事をイシカミはわかったので、テレパシーで知らせていた。

【マチュピチュ】

ペルーの高山に栄えたインカ文明の町の跡。謎の空中都市と呼ばれている。

【マホメット】

イスラム教の教祖。教えられたものと年代が合わないのは、生まれ変わった霊がマホメットと名乗ったから。イエスと似てとてもやさしかった。（イスラム物語参照）ハンムラビ法典は復讐をする内容であったので、神様から与えられるものを独り占めしてはいけないという解釈をし教えた。「目には目を」は、見て美しい物をもらったら見て美しい物をお返ししなさい。「歯には歯を」は、見て美しいものをもらったら見て美しいものを返ししなさい。

【マナ】

マナは、イシカミのためにソラのものが送ってくれ、粘菌が増殖したもので、わらび餅のようなおいしい食べ物だった。

【真名井神社】
境内の奥にある巨石が青葉山（ハナちゃん）の落し物と伝えてきた。トヨウケを祭っている。

◇み◇
【みなつきさん】
京都府綾部市に伝わるお祭り。ノアの息子達が海の物を持ってきたことから始まった物々交換の市のようなものから始まったと。「（海辺の）皆さんが着きましたよ」という言葉から来ていると知らされる。

◇む◇
【ムーノイア】
いわゆるムー大陸といわれたもので太平洋上あり、射手座の王子が巨人を連れてきて、平和に暮らしていた。そこにオニが大蛇としてあらわれ、人間を食べたり人間に乗り移って悲惨な事ばかりさせるので、イシカミは怒って地球神に頼んで沈没させた。王子が巨人を少し早く出しすぎたのために、ここの巨人に似せた人間は黒くなり毛が縮れた。イシカミは思い出して欲しいので、戦争や、火山の噴火をしてもらっていた。

◇め◇

【メムノンの巨像】

エジプトのナイル川沿いにある21メートルの巨大な座像。イシカミが作ったとされ、オニに支配されたイシカミの子孫や人間を見て泣いていたと知らされた。現実には紀元前27年の地震から3世紀に修復されるまでは、実際に声を出していたと言われる。

【メソポタミア】

世界4大文明発祥の一つでかってティグリス、ユーフラテス川の間に栄えた文明。シュメール人はオニに支配され繁栄もしたが、残酷な国であったと伝えられた。チャネリングで「ウセ」という名前が出てきたが、「ウル」という都市国家の名前があった。ハンムラビ法典が書いてある石は、イシカミの心臓部と伝えられる。大きな神＝イシカミは脇に追いやられ、小さな神を敬うようにオニに支配されたせいか、古代は小さな像が多い。

◇も◇

【物部氏】

「物を述べる」から来た名前。モノとはイシカミやヤマタイコクの物語を言い伝えていた。イカルガ（＝何鹿）の物部村から出た人で，仏教を強制する蘇我氏や聖徳太子と戦った。その戦いに敗れ、イカルガの私市古墳に葬られたが、完全に忘れ去られた。

【元伊勢神社】
天橋立と、大江山の麓の2カ所を知らされた。天橋立の元伊勢は、ノアの息子が籠舟に乗せられ流されたために作られ、大江山の麓の元伊勢は、ノアの息子が惨殺された場所に作られたと言われた。大江山の元伊勢神社は一つの大きな祠と20数個?の小さな祠が並んでいる。ノアの息子とその部下と知らされる。

【モヘンジョダロ】
4大文明の一つインダス文明の首都でないかと言われた謎の都市。インダス川沿いに栄え、人々が暮らしやすいように整備された都市でもあったが、プレアデスがワニを送り込み、人間に恐怖心を抱かせ楽しんだとも知らされる。大きなイシカミを忘れ去れさせるために、ここでも特に小さな土偶が多いのでないかと推測される。

◇や◇

【山彦】
ノアの息子とヒミコの娘の子ども。白い木の者の始まりで海彦の兄。君山のそばの星原に住んでいたが、ユダヤ人の風貌であったために捕らえられ殺されてしまう。

【八柱神社】
豊田市近郊にある神社で、大国主の部下でタケルノミコトに殺された8人を祭ってある。タケルノミコトがだまされて、父の部下を殺したことを知ってイシカタヤマで自殺する前に、ここに祭ってほしいと頼ん

でおいた。八柱神社の紋の模様はイシカミをあらわす。イシカミに教えてもらった模様なので、その証拠にカニやカエルだとしたら足がない。周りのひし形は星で、昔はひし形で星をあらわしていた。イシカミには目があり、まん中のものにあらゆる知識が入っていた。背中の模様は、星の戦争があったことを知らせる天の川（戦争の跡）を表している。周りの6つの星にも意味がある。（肉体を表す数5＋霊を表す数1で6という数字になる。）。

【ヤハウエー】

射手座から日本の東北に降りてきたイシカミのお腹から出てきた巨人。トヨウケと一緒になるも、冒険を求め西に向かって旅をし、最後はイスラエル地方に落ち着き、ユダヤ人の神となったと伝えられた。アダム。

【ヤソ】

やり＝鉄の技術を外から持ってきた人のこと。ノアのことで外人という意味。

【ヤマト姫】

天皇の息女。オニの星に支配されたために、予言ができたので権力を手に入れる。とても派手好きで支配されるままに大きな工事などを行い、国民に嫌われたそうです。

【ヤマタイコク】

山台国と書き、四国の高原にあったと言われる。大国主とヒミコが土着民の少ないこの地に住み着き、イシカミからいろいろな食べ物や知恵を授けてもらって、集まって来た多くの人々と平和な国を築いていた

が、後に、ある者に攻められ焼く尽くされてしまう。ヤマタイコクの子孫が、今日まで虐げられてきた被差別部落の人たちや、サンカと呼ばれる人たち。邪馬台国＝この字は、中国の人が漢字を習いに来ておきながら、小さな国だったのでさげすんで当て字を作った。

◇ゆ◇

【由良姫】

ヒミコの娘の別名。ヒミコの娘の項、参照。

【ユーノイア】

射手座の3番目の王女。レムノイアに降りたが大陸の移動で南極大陸となる。台風を起こしているが、ムーノイアのお兄さんの指示に従って移動している。スリーシスターズの岩（オーストラリア、アメリカなど）として伝えられている。

【夢】

ロボットとその人の霊が相談して夢を作る。

◇よ◇

【予言】

地球を支配していた星が特定の人にビジョンなどを見せて、未来にはこうなるなど思わせ知らせていた。

そして実際にそのような流れにしていき、絶えず未来に恐怖を植え付け、信じさせようとした。キリスト教、ユダヤ教、イスラム教、仏教、道教など宗教による予言。マヤ、アステカの予言。ヨハネ、ノストラダムス、日蓮、エドガーケーシー、出口ワニ三郎などが有名であるが、ほとんどが２０００年前後に天地異変が起こると予言している。

【義経】

伝説通り北海道に逃れ、そこで最期を迎える。大体実話通りに聞かされている。

【ヨミの国】

死後すぐにある、白い霧でおおわれた世界。白い霧は肉体が分解して原子に戻ったとき、霊が見る世界。人間を形成していた原子が独立できる国。

【ヨミの国王】

ヨミの国にいる国王。本当は冥王星の王であったが、射手座の女王が地球に来たとき一緒に来た。人間が生きていると火の柱が立っているが、死ぬと消えるという。その柱の番をしている。２００１年5月２０日から直接、死に関わる様になったという。２００２年に地球を支配しようとした事がわかり、宇宙の大元に戻ったと伝えられた。

◇ら◇

【ラップ音】

ミシッ、ピシッ、ドンとモノが落ちるような音で霊が知らせる。人によっては光も振動も感じるようである。著者の場合、メッセージを受けた内容を疑っているとその音が出て「本当です」と言ってくる。そばで見ているロボットが音を出しているようである。

【ラピスラズリ】

美しい青色の石で歴史上最も古くから装飾に使われていた石で、星達がエネルギーを与えて作ったと言われる。オニに支配された悲しみの色。

◇り◇

【リーセフィヨルド】

北欧にあるフィヨルドで巨大なテーブル型の岩。氷河で削られてフィヨルドは作られると言われるが、頂上は大きな平面で下部は滑り台のように滑らかである。

【龍】

オニの星が作った動物。人間を食べて仕方がないので、ソラのものが龍の身体を短くしてイノシシに変えたという。昔は龍神に人身御供をさせ、雨乞いなどをさせ、人間生活が退屈で仕方がないので、争いを起こしてそれを楽しんでいた。人々が崇めるので未だにエネルギー体として作用している。

◇る◇

【ルシファー】

かつて太陽系にあった惑星で、今は小惑星だけになった。オニはこの星こそアクマと言っていたが、自分勝手な考えが強いだけの星の霊。姿はなくても霊としては残っているので、クロップサークルでは太陽系の惑星の一つと数えられる事がある。２００２年１０月までは地球の応援をしていると知らされてきましたが、ひそかに人間を争わせる事を楽しみ、そのエネルギーは次第に大きくなっていっていると知らされたが、２００２年に愛のエネルギー体に戻った。

◇れ◇

【レクイエム・イシカミ】

北欧に降りたイシカミは、地球に降りてきたことを後悔してばかリいたので、厳しい気象になったという。突然文語調の言葉で知らされたときのタイトル。

【レムノイア】

アトランティスの時代に南にあった島で、アトランティスのアンドロイドが増えすぎたので、ここに住みついた。アンドロイドは次第にアトランティス人に恨みを持ち始める。アトランティスが滅びた時、レムノイアのイシカミ達は少しずつ移動して南極に到達した。そこに多くの霊が残り、アトランティス人の霊の人に復讐をしていた。

【霊】

人間の目には見えない、違う次元に存在する意識体。人間や三次元に存在するその他のものを星達が作ったが、その事を知ってもらうために人間に霊を入れたと知らされる。かつて人間として生きてきた者にはもちろん、星にも存在する。潜在意識とも呼ばれるエネルギー体。普通の動物には霊は無いが人間と関わりが深くなると、霊ができると推測される。特に犬には霊体が見えると言われた。人間が生きていく上での方針は、その人の霊が星と相談して決めている。それで人生は変化を求めていろいろな出来事が起こると言われます。のんべんだらりとした人生よりも、より成長するために変化のある人生を選ぶからだそうである。

◇ろ◇

【ロボット】

ここで言うロボットとはソラのものの部下で、星になる前の存在の事。目に見える形になっていないため自由に地球に降りる事が出来、人間のそばにいて人間のしている事や思っている事を逐一星たちに報告している。ロボットは何からできているかというと、光の粒の形になる前のモノで、光の粒は原子が仲間の原子を集めて出来る。

◇わ◇

【和二（ワニ）】

東大寺（＝仏教の代表）の事で、二番目に高い建物という意味。一番は現在の出雲大社。

付録

ソラ生物辞典

ソラ生物辞典

◇あ◇

【（赤い）柿色のくちばしや足】

柿色のくちばしは柿色の射手座の女王が語っていることをあらわしている。赤い足はイシカミは足がなく困ったことをあらわしている。黒鳥の赤いくちばしは血を吐く思いをしたアボリジニをあらわす。

【アオアズマヤドリ】

オーストラリアにいる鳥で、小枝でトンネル状のオブジェを作り、出口に青いものを並べて求愛する鳥。鳥はソラからトンネルを通ってきたをあらわす。青いものは星をあらわす。

【アジサイ】

原子が集まって肉体ができることをあらわしている。また色が変わっていくのは、人間も年をとると容姿が変わる事をあらわしている。小さな花が沢山集まっているのは、宇宙には沢山の星があるという意味でもある。

【アカヤシオ】

ご在所岳にある5弁の花びらのつつじ。プレアデスが射手座の女王を岩にした償いにきれいな花で飾った。

【アンモナイト】

渦巻きは宇宙の始まりをあらわしており、殻が硬いのは、人間がその事に気付くには長い年月がかかるという意味。

【アサリ】

イシマキヤマが、食べてもおいしく、また海岸に集まってくる魚の排泄物をきれいにするものを作ってほしいとソラのものに頼んで作られた。

【アシカ】

足があると歩いていってしまうので、赤ちゃんのようにいつまでもそばにいてほしいとイシカミの願いで作られた。

◇い◇

【イノシシ】

イシカミが地球に降りて来た時、地上にはとてもたくさんの龍がおり人間に悪さを働くので、ソラのものが龍を短身に変化させたもの。イノシシをさらに進化させたものがブタ。

【犬】

漢字にケモノ編がつかないように、犬は人間の忠実な僕として作られた。動物では犬にだけ霊があるという。

【イカ】

イカはとても優雅に海を自由に泳ぎ、子育てに煩わされなく、生きることを楽しむ動物である。ソラのものが理想とした生き方とされる。タルイカはいつもつがいで行動し、片方が釣られると必ずもう一方も釣られるくらい仲が良い。

◇う◇

【梅】

梅は冬の寒さを覚えているので、夏に食べると寒さを思い出して身体に良い。

【ウナギ】

ウナギは人間になる前のもの、すなわち精子をあらわしている。人間がどこから来たのか分からないのと同じように、ウナギもどこで生まれるのか分からないようにした。忘れられたムー大陸などを思い出してもらうため、海の底で子供を生む。胎生で、ところてんを押し出すようにお腹に沿って平べったい形で生まれると知らされた。

◇え◇

【エミュー】

頭＝脳は小さいが、卵や肉や脂肪が人間の役にたっている動物。（コアラの反対）

◇お◇

【おたまじゃくし】

人間もこのように卵子から成長する事を知らせるために作られた。

【オオカミ】

イノシシを退治するために送り込まれ、その名の通り（狼＝良いけもの）で、イシカミの山を守った。人間のためにオオカミを進化させたのが犬である。

◇か◇

【柿】

イシカミの形に似せて作られた。日本が原産で、色と形は地球に降りてきた時のイシカミの女王をあらわしている。

【カエル】

ヘビがイシカミに悪さばかりするのでカエルを作り、これをヘビの食べ物とした。カエルはイシカミの身代わりになって食べられ続けた。

【カニ】

カニのハサミは、イシカミが射手座に帰れないという悲しみの思いを断ち切ることを意味しており、腹に卵を持つのは、イシカミがお腹に人間を入れて地球に降りた事をあらわしている。また、地球が他の星の

ように進化しないで今の3次元のまま過ぎていく事を、横歩きで表現している。

【カメ】

イシカミが自分達の姿に似せたものを作ってもらった。甲羅の模様は、地球がオニの星に支配され、まるで網で捕まえられているように見えたことを表現している。

【カボチャ】

大きなおなかのイシカミをあらわした。

【ゴーヤ】

沖縄のイシカミが与えた。人間が元気でいられるように、胃に良い苦味の成分が入れられた。

【カカポ】

ニュージーランドの飛べない鳥。カカポは穴を掘って豚のような鳴き方をするが、これは「食べに来ても土にもぐっていますよ」という意味。くちばしで食べ物をつぶすのは、人間には歯がいるとイシカミが考えた事をあらわす。

【カバ】

口が大きいのは地球の内部を意味し、歯は岩盤を、内部が柔らかいのはマグマをあらわしている。

【カンガルー】

大地にしっかり足を下ろし、お腹で赤ちゃんを育て、イシカミがお腹に人間を入れてきた事をあらわしている。光（車のライト）に突進して行くのは、火の玉になって地球に降りてきたイシカミと勘違いし、会

いに行こうとするからだと伝えられた。

◇き◇

【菊】

宇宙に初めて光があらわれた時のことをあらわした花。

【(白)狐】

(白)狐はイシカミが可愛がっていて、悪さをするねずみを駆除するために作られた。それに比べ狸は人の物を取り、子供だけ沢山作る。狐の遺伝子を変えたのが犬。最初の狐は白色で、人に化けると言ってイシカミのことを物語(歌舞伎など)で伝えてもらおうとした。狐つきといって嫌われたのはオニが嫌がらせをしたからである。

【キーウイ】

飛べない鳥で、果物のキーウイがなっている事を知らせている。何故飛べないか―飛べない鳥の項参照。

【キリン】

キリンは月と地球の関係をあらわし、頭が月を、大きな胴体が地球をあらわしている。

地球と月の間に見えない通路がある事を長い首であらわしている。

◇く◇

【グラジオラス】

グラジオラスのように、下から上に向かって順番に咲いていくのは空に戻りたい、あるいは空から送られたという事をあらわしている。

【クジラ】

クジラは恐竜が作られた後、家族を大切にする動物として作られた。深海に潜るのは沈んだムー大陸を知らせるため。クジラに足があるのは、海に潜ると身体が水圧で押さえられるので、足から水圧を分散させるためであり、マッコウクジラの頭に脂肪が入っているのは、重石にして一気に深海に潜るため。

◇け◇

【毛虫】

木星が送った木や食料の植物を痛めつけるために、オニの星が送りこんだ。

◇こ◇

【コンドル】

頭の毛のないコンドルは人間を食べるので（鳥葬など）、その事をソラのものは批判している。髪＝頭の上のいるもの＝ソラを無視している。

【米】
暑い夏に作られるので、冬場に食べると暑さを思い出して良いようにと、イシカミが作った。
【コアラ】
木にしがみつき葉を食べる以外はほとんど寝ているが、繁殖期のみメスを暴力で犯して交尾する。金持ちの人間をあらわしている。
【コスモス】
真中が太陽をあらわし、花弁はいろいろなエネルギーが送られている事をあらわしている。太陽からいろいろな色が送られている事をあらわしている。
【黒鳥】
オーストラリアにたくさんにいたが、白人が入植して激減した。アボリジニに真似て作られ、彼らの悲惨な未来をあらわした。くちばしが赤いのは口から血を吐くほど、白人の弾圧を受ける事が分かっていた。羽根の中が白いのは心がきれいだという事。

◇さ◇

【サツマイモ】
沖縄のサチマチの人が食べ物がなく、何か与えてほしいとイシカミにお願いしたので、与えられた。ジャガイモ、タロイモなども人間のために作られた。

【珊瑚】
ムーノイアのイシカミがヒバという木の事を聞いて、海の中にもヒバのような細かい葉がたくさんついたものを作るように頼んだ。
【サケ】
サケは川に上ってきて、人間が見える場所で産卵をする。人間は魚から進化したのではない事を知らせている。
【サイカ】
草原に住み絶えず飛び上がりながら走るのは、少しでも高いところからイシカミの姿を探している。岩のそばに来たら走るのを止めて子供を産むのは、イシカミの落し物なので安心するから。

◇し◇

【ショウブ】
ショウブのように三枚の花びらが重なっているのは、三位一体をあらわす。他にみつ葉やクローバーなども同じ意味。
【シダ】
ギザギザの葉の形が遠くから見るとのこぎりのように見え、オニ（大蛇）が嫌がるように作られた。また、シダの芽の？マークは、イシカミなどのあらゆる謎が隠されている事に、気づいて欲しいという事をあら

わす。

◇す◇

【スカラベ】

エジプトにいる「タマオシコガネ」のこと。獣糞を丸く丸めて、自分の巣に運び幼虫の餌にする。身体より大きな糞玉を転がしている姿を反対から眺めると、あたかも丸いイシカミが動いていたのを思わせるので、この虫を神聖視した。

【水仙】

六枚の花弁は肉体をあらわす五に霊を加えた事をあらわす。黄色は宇宙で二番目の光をあらわす。

◇せ◇

【せみ】

長い間地下で過ごすのは、真実が長く隠されている事に気付いて欲しいから。

せみはじーじーとうるさい＝全てを知っている民衆をあらわす。

◇そ◇

【ゾウ】

ゾウの長い鼻は地球の引力を、大きな耳は地球の周りを吹く偏西風をあらわし、石のような白い牙はボートをこぐオールで、地球が回っていることを意味している。

◇た◇

【たぬき】

たぬきは人の物を取り、子供だけ沢山作る。

◇ち◇

【チンパンジー】

チンパンジーなどの猿は、人間を作る前の動物で、実験台であった。人間は猿から自然に進化したのではない。

◇と◇

【飛べない鳥】

主にニュージーランドいる全く飛べない鳥。オニ（大蛇）が動物を食べに来ようとしたので、ニュージー

ランドの王女は「ここには鳥しかいないので食べに来ても飛んで逃げて行く」事を知らせ、鳥の形をした動物をソラに頼んで作ってもらった。

【棘のある植物】

オニ（大蛇）が来ないように棘のある植物をソラのものに作ってもらった。

◇な◇

【菜の花】

イシカミが降りてきた時、一面に咲いていたと伝えられた。黄色は太陽のエネルギーをあらわしている。

◇ね◇

【ねじり花】

ソラのものが、地球にエネルギーを送る時ドリルのようにらせん状に送ると届きやすいという事を花の形であらわした。

【猫】

ケモノの苗と書くように、シリウスが作った動物。オニはネズミを送り込んで病気を起こさせ、そのネズミを駆除する動物としてあたかも良い動物のように思わせてきたが、シリウスが作ったことでソラのものは嫌がる。猫エイズは注意が必要である。

【熱帯魚】

ムー大陸が沈んだ事で、ムーノイアを始めイシカミ達を慰めるために、ソラのものたちが絵を描くようにいろいろな模様の熱帯魚を作った。

◇は◇

【パフィン】

北欧にいる変わった模様の鳥。目を閉じたような模様は、人間が肉食をするために狩りをするのを見るのが嫌、ということをあらわし、赤い矢印の口は狩猟の槍をあらわしている。

【バッタ】

バッタは、人間の食べ物を食べて人間を困らせ、それから争いが始まるようにオニの星が送り込んだ。

【パンダ】

中国のイシカミが人間の代わりに思いついた動物。食べ物がない所に降りたので、笹を食べるだけで生きることができる動物で、見ていて可愛いものをソラのモノに作ってもらった。

【バナナ】

ムーノイアに降りたイシカミが、人間の子供がたくさんできる事を願い同じ形のものをたくさんつけた。

◇ひ◇

【ひょうたん】

ひょうたんは、イシカミがあのような形に身体を変えることができたことを知ってもらうために作られた。

【ひまわり】

中心の部分が太陽で、そこからたくさんのエネルギーが出ている事をあらわしている。（菊、コスモスなども同じ）中の部分が茶色なのは日蝕になっても心配が要らない事を意味している。

【ヒバ】

ヒバは広島のイシカミが作った。細かく分かれた葉で、たきぎとして使うととてもよく燃える。

【蹄のある動物】

牛や馬など蹄のある動物は、ソラのものが作った他の動物よりも大きく、そして栄養のある乳を出した。しかし人間はその肉を食べるようになり、身体がどんどん変わっていった。何よりも、血を見ることが好きになり、それが人類の悲劇の始まりとなった。

【ひばり】

姿が見えず鳴き声だけが聞こえるのは、姿はなくてもソラのモノが見ていますよ、と知らせている。

◇へ◇

【ペンギン】

ペンギンは、一人寂しくニュージーランドに降りたイシカミの王女のために作られた。寒くても元気で可愛く、みんなで助け合いながら生きて行くようにとの思いで作られた。

【蛇】

オニの星が作ったもので、宇宙を現すアンモナイトの殻を取り除き、宇宙神をやっつけたという事をあらわす。蛇は、イシカミを嫌がらせるために送り込み、イシカミの身体の中に入って悪さをした。

◇ほ◇

【蛍】

星に似せて作られたもので、ソラの意識を向けるように作られた。

◇ま◇

【マントヒヒ】

マントヒヒは毛は長くても、雨が降ると濡れて早く死んだ。それで家を作る事ができる脳に改良したのが人間で、家に入れば体の毛はいらないと思い、人間は体毛を無くした。

【マンタ】
マンタは体の半分が口なのは、イシカミが海の中にもいることを知らせている。岩のあるところでしか休まないのは、岩がイシカミの落し物だから。
【豆】
君山は山彦が殺された事を嘆いて、赤い豆、小豆を、そして真実が隠された事を現すために黒豆も作るようにソラに頼んだ。

◇む◇
【ムクドリ】
くちばしの柿色は悪い毛虫を食べて女王の手伝いをする事をあらわす。
【麦】
寒い冬に育つため寒さを覚えているので、夏に食べると寒さを思い出して良い。

◇ゆ◇
【ユリ】
ユリの花びらの六枚は肉体をあらわす五に霊を加えた数字で、白は宇宙であらわれた最初の色をあらわしている。

◇よ◇

【夜に飛ぶ鳥】

人間は夜に集まって、イシカミの事を語り伝えてほしいということをあらわした。

◇ら◇

【ラクダ】

ひとこぶラクダはイシカミをあらわしている。ふたこぶラクダは人を乗せるために作られた。

◇わ◇

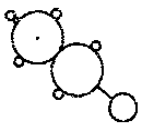
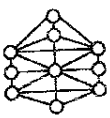
【ワニ】

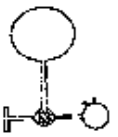
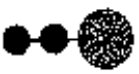
オニの星が送り込んだ動物。獰猛で、昔は恐怖の生贄の対象の一つであった。

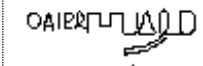
付録

クロップサークル

クロップサークル

No.1	No.3	No.4
		
オニの角なのです。オニの星が地球を取り囲んでいます。前の星はプレアデス、後ろがシリウスなのです。外側の輪が私達（名のない星）です。	これがイシカミの姿で、子供を産んだということです。手足がとても小さいでしょう。これでピラミットを作ったのです。顔は描いてありませんが、目がひとつでした。生まれてきた子供には人間のような手足をつけ、思う通りの形にできました。	これは空の向こうにはこのような生物がいたということです。霊的に進化して形はありませんが、以前はこの形でした。オニの正体で、Mの正体です。これが霊による支配をしていたのです。誰も見ることができませんが、悪いことをする人に皆引っ付いたのです。
No.7	No.20	
		
三日月。これが星間の戦う前の空の模様でした。争いで天の川でき分裂したのです。それまではお互いバランスをとり仲良くしていました。真中が地球です。その周りが白色星団＝太陽系惑星です。	これは太陽系の惑星の図です。真中が地球です。その地球にそれぞれの星から魂が来ていることを示します。霊が行き来しています。	

No. 146	No.145	No.144	No.143
			
カタツムリです。大きな意味を持っています。カタツムリの殻は宇宙神をあらわしています。角は地球に降りた星の宮をあらわしています。	目を開けていても目を閉じていて食べることしかしない人でも受け止めてあげます。	地球（大きい丸）と月（小さい丸）とつながる引力の仕組み。棒だけの方は自然に戻すだけ。下の丸の中に大切なモノが入り重くなって下に降りると、月が傾き引っ張る力が大きくなる。（大潮）下に落ちてしまうと自然に戻る。シシオドシと同じ原理？	9つの角は太陽系の惑星。回りはひとつだけの丸は射手座の女王と王様と長老。回りの大小の丸は射手座の叔父さんや叔母さん。真ん中は星の宮。
No. 150	No. 149	No. 148	No. 147
			
魂、霊、大きな丸が肉体。何故肉体が点々になっているかというと、肉体は原子からできているから。	外観はやさしさに包まれていますが、中身はオニの想念（三角）で手をつないでいる。	お手手をつないだお星さん。	宇宙が始まりいろんな事がありました。最後になっても又生まれます。最初の渦巻きが宇宙神と星の宮。横の丸と渦巻きの模様、目を閉じたままでソラからの情報に目を向けないで，織物をしようと思っても行き止まり織れない。

No. 156	No.155	No.154	No.153
			
外観ばかり飾り、中身は空っぽ。頭の上にアンテナがあるのに気がつかない。	これは何かというとタコなのです。タコはシリウスが作りました。沢山足があっても頭から脳が出ている?。(皮肉っている?)	ダイヤモンドなどお金にばかり気が向いている人の集まりです。星の宮に縁のない人で、星達もエネルギーを送らないので真ん中の小麦が立っている。横の小さな模様は現実の事ばかりに目を向け見えない存在を信じないというサイン。	アルファベットを書いてみました。名前を書いてと頼まれたので描いてみました。miyo と描いたつもりです。O は丸＝正解、AI＝愛、PL＝miyo はプレアデスにやられたのでmiyo という字を崩しました。
No. 160	No. 159	No. 158	No. 157
			
オニになりぞこねた星達?。残酷なお知らせをしている。(牛の変死など)	星の情報を信じている人は丸くなっているけど、信じないで外を向いている人はお互い争っている。	人間です。お掃除をしている人が少なく、ほとんど寝ている、お掃除の道具を持っていてもお掃除をしていない人もいる。それを星達が見ている。	目を開けて星を見ているモノが少ない。ほとんどが目を閉じている。

No.161



外側＝霊的に目覚めない人間で、どうしてもつながらない。特に宗教を信じている人。
内側＝少ないがつながっている人。

No.162



目覚めない女性で外側ばかり飾っているが、中身は無い。6＝手足4本＋おっぱい2。言いにくいのですが（唇にちくちくとサイン）おしゃべりばかりしている。けれど何か求めている。離れてイシカミと射手座の女王が見ている。

No.163



男性と女性が一緒になっている。離れておねえさん＝射手座の女王。星が見ている。

No. 164



星の宮を白色星団と名のない星達が守っています。

No. 165



星の宮を7つの国の人が守ります?。
それを名のない星が見ています。

No. 166



お顔を書きました。人間をあらわす3位一体。その中の三角がオニをあらわします。けれど信じてくれる人もあるので、星達は目尻を下げて笑っています。小さな四角はほんの一部星物語を信じている部分もあるということ。

No. 167



（割とハッキリと）私が描きました。私は他の星より優れていることを知らせたかったのです。何故今知らせたかというと、変わらぬ愛の星の無念を描きました。いまだにオニの想念（三角）に囲まれているのです。その外の四角は少しは（星物語を）理解する人もいる。外側はわからない事が多いままだが、何とも思わない人。

No. 168



イタリアの国と同じ形です。（黒い部分＝長靴）
（地球が）一人で歩き出したという事です。
（丸の外の三角の）オニを踏んづけて歩いています。星達が遠くから見ています。

No.169	No.170	No.171	No. 172
			
ヨーロッパのイシカミ達が頭を下げています。ひたすらお詫びをしています。何故かわかりますね。ヨーロッパのイシカミは人間に狩を教え肉食にしたから。今は代わりのイシカミ達が来ています。	わかったでしょう。百合の花をあらわしています。霊的な花です。ユリの花びらは細長く、6枚の花弁は肉体（5）と霊（1）をあらわしている。	今の人間は肉体だけでできていると思っている。	狂牛病は星達のお知らせです。
No. 173	**No. 174**	**No. 175**	**No. 176**
			
三角のオニが少し丸くなったでしょう。オニが分解し始めたのです。	一番大切な言葉に方に全く目がいっていない。オニの考えでは無いけれど、意識の向いている方が全く違う。	隠されていた物語と今信じられている物語、その他はまだまだ知らない事が多い。星が情報を与えて少しは増えました。	真ん中星の宮。９つの太陽系の惑星がお話をしています。

No. 177	No.178	No.179	No. 180
			
絵が横向きになっています。これまでの頑固な考えにくさびを打ち込みました。	オニの想念も大分丸くなってきました。	これはとても嫌な絵です。この様にオニ達はつながっていました。オニの親分はいなくなりましたが、想念が残っていて意地悪しています。	3位一体の事が知れたけれどまだまだ不完全です。

No. 181	No. 182	No. 183	No. 184
			
丸の中の三角が外を向いているのは、星たちの情報を信じない人の意識は違う方向（外）に向いている。	射手座のモノ（イシカミ達）が目を開けて見ています。	人間の肉体と霊と魂ですが、今の人間はこれくらいアンバランスです。	これはひとつの言葉で真実は地球の中にあるということです。何層にも分かれた意識の違いがあるということです。そして所々で違う意識とつながっている所があるということです。いく通りかの通路があるということです。けれども星の宮に近づく道はひとつしかないと言うことを現しています。？の点がないのは一休みをしている時ではないということです。スタートしていますよということです。地球神と星が見ています。

No. 185	No.186	No.187	No. 188
			
宇宙の神の部下が地球にいる星の宮（＝星物語を広めている人たちに降りている）に頼まれて、地球に応援に出かけました。	細胞分裂を現しています。中の三角の棒は発信機で、細胞同士が仲間であることをお互い連絡しあうために使われます。星たちが細胞分裂のためにエネルギーを与えています。	大きなオニの想念が残っていました。それに引っ付こうと近寄ってきている、（星の）ロボットたちもいることを現しています。	真中は宇宙神、次の白黒の円は異次元と星の死後の世界、外側の白黒は地球の現実の世界と霊界
No. 189	No. 190	No. 191	
			
星達の世界はつながっている。星の世界も現実と霊界があるが、人間は星の現実の世界＝物質としてしか見ていない。（離れてあるのは人間の世界）星を岩としてしか見ていない。（わからないので仕方が無いでしょうが、星に意識があると、人間は思っていない。ということです。）	8人の命（大国主の家来）うばわれたのは、地球を除いた太陽系の惑星の数を表しています。小さな円は人間の肉体と霊と魂、それに惑星	人間の持つオニの想念がいたずらする事を現しましたが、人間の中身は悪くないのです。	

No.194	No.193
	
人間の目を現しました。3次元と別次元を見ることが出来るという事です。	太陽、地球、月を表しました。これらはとても関係が深いということです。太陽からエネルギーをもらっています。なぜ三つ引っ付いているかというと，それは月が地球から別れたためで，とても大切なことです。月は地球と太陽の子供なのです。月が太陽と地球の子供ということは次のとおりです。宇宙のこわれ物（恨みの意識の塊）から誕生した地球が，まだ溶けてどろどろだった時，地球の一部の原子の塊が外に飛び出しました。なぜかというとその一部は何としても，壊れ物の地球にいるのが嫌だったのです。それで地球の一部の原子の塊は飛び出したけれど，太陽が押しとどめたので，月としてその位置にいるのです。

No. 198	No. 197	No. 196	No.195
			
言いたくないのですが、、。人間は雲酌（6）にならないのできれいなゆりのようになれないのです。（花びらの所が四角い）	太陽が帽子をかぶっているのです。それで太陽が部分的に暑くしたり，冷やしたりすることが出来るようになりました。原子を燃やす量?を自由に出来る様になったからです。帽子を付けているほうは冷たいのです。気候の異常を現しています。	星の宮をめがけて沢山の小さなオニが攻撃してきました。一部の人は守ってくれている。	迷惑をかけている（猛暑）太陽のエネルギーです。なんとしても気付いてもらおうと異常気象にしています。まるく飛び出しているのがコロナです。なぜ8本かというと7色の他に見えない光線があるからです。

No. 200	No. 199
	
星の宮が笑っているのです。白色星団ががっちり守っているからです。太陽系と応援してくれた星達です。	（攻撃が激しく助けを求めたので）白色星団の女王たちが降りてきて、星達に並んで引っ張り上げるように頼んだのです。現実の世界で7月に入り私が激しくネットでカルト集団に攻撃され、PCも壊されました。精神的にとても大変だったので星達に応援を頼んだのですが、名の無い星達は力が無いので応援できないことがわかり、それぞれの星に戻っていた太陽系の星＝白色星団に応援してほしいと頼んだのです。引っ張りあげるとは私の霊を少し違う次元にあげてくれたのかなと思いました。 8月に入りアドレスを変えた事もありますが、それから攻撃は一切なくなりました

No. 204	No. 203	No. 201
		
人間は星達を信じる人と信じない人に分かれます。それを小さな星達は見ているのです。 2重の半円の方は霊を認めないという事。	まだ人間の想念はオニの想念ですが，平和な地球に向かって歩き出しています。	真中は宇宙神です。その周りはほんのちょっとしたいたずら心が，宇宙の外側に向かうほど大きなオニの想念に変わっていったのです。 宇宙神はなんと言ってお詫びをしたら良いかわかりません。

No.205	No.206	No.207	
			
太陽系の惑星ががっちりと星の宮を守っています。	星達を信じる人、多くを信じる人、ほんの少し信じる人、全く信じない人に分かれるのです。そしてねじでしっかりと締め付け様としているのです。＝しっかり区別をする？	恐ろしいオニも仲良く手をつなぐと丸くなってきれいな花になるでしょう。恐れることはありません。（以前この大小のサークルのつながったのが、3本集まったのがオニと言われた。）	
No. 209	No. 210	No.211	No.212
			
（四角く角に円があるもの）これは皮肉ったモノです。いくら星達が知らせても信じてもらえないので、人間は四足動物と同じで、食べる事のみ考えているという事です。左側の図はNO.184に書いてあります。	十字架がペンで壊されました。	大きなオニの星（P）が地球を飲み込んで支配しています。もうひとつのオニの星（P）をやっつけた後のことを描いています。名のない星達が見守り地球を救いに出かけても、手が出ないこと＝お手上げだろうということを現しました。	オニの王様です。これを見ていると動き出しそうでしょう。

No.213

コーネル大学天文宇宙化学科の教壇に立ち、同大電波物理宇宙研究センター惑星研究所長も務めたカールセーガン達が、惑星探査機ボイジャーに「宇宙人へのメッセージ」を積み込んだ（右側の図）。２００１年に送ったこのメッセージへの返信のクロップサークルが、電波研究所のとなりに出来た（真中の図）。

意味のない模様を作りました。なぜなら星たちにとって（近いので）一番見やすい模様だったからです。そしてその模様をお空のガラスに描いたのです。なぜ一番下の模様（M）を真似て描かなかったかというと、穴のある女性が活躍しているからです。両脇に立っているのが男性と女性です。真中のMの形に似たのは、人間は肉体と霊と魂から成り立っているという事を信じかけているひとです。その隣のWが欠けたような模様は、人間は肉体と意識だけで成り立っていると思っている人＝見えない存在を認めない人に別れるという事をあらわしています。形がはっきりしないのはなぜかというと、星たちから人間を見る光で見えますが，形とするとこのように思えるのです?。

又人間の顔（左側の図）をなぜ描いたかというと，火星の顔を無視し続けるからです。人間に一番近い記憶があるのが火星なのです。これまでの星たちの情報を無視し続けると、この模様の答えも決してわからないでしょう。これらを描いたのはお空の名のない沢山の星たちが，力を合わせて描きました。見えない世界から空気を押し付けて、模様を作りました。これが私達の合図です。

No.218	No.217	No.216	No.215
			
人間の霊的進化の道のりです。いろんな道があることを知らせています。情報を自分で求めることで早く進めます。 真中は考えが固まっている人。	大きな丸は宇宙で真中が地球です。地球の近くの星たちがお互い情報交換をしています。反対側の離れたところの星たちとも情報交換しているが少ない。地球は宇宙の端っこにあるから。	大きな丸＝おっぱいのある人の肉体です。星との交信の受信機が開きました。そして星のロボットと話します。小さな丸は名のない星とロボット達です。真中が立っているのはアンテナです。	金星を除いた太陽系の惑星です。大なり小なり地球に影響を与えました。天王星と海王星は間接に働いたのみ。中の線はみんなで相談した事。 3つの丸は星の現実の姿、霊、地球に派遣されるロボット。

No. 221	No.220	No.219
		
宇宙の大元の弟です。目を開けていて争いを起こさせていました。2002年6月消滅した事をあらわすそうです。	○は星達ではありません。3位一体（＝肉体、霊、魂で人間は成り立っている）を2つ組み合わせたものです。ずっと人間として生まれ変わって来た人と、このように星達も空から降りてきて人間になっているという事です。星の魂か霊を持った人が肉体を形成しているという事。人間生活に慣れていなく苦労している。チャネリング内容が理解できる人達。ワンダラー、スターピープルなどと呼ばれ事もある。それらの人間が理解しあうようになる事によって、大きな輪＝和が生まれるという事です。	これはだいぶ星の宮に近づいて来たことを現しますが、ほとんどの人は違う方向を向いてやかましく言っています。女性が目覚めてきました。（ボチがある＝おっぱい。）オニの思いの人達が外へ意識を向け様としています。これが本当の意味です。

No. 222



昨年四角の模様が始めて出て、いくらクロップサークルを作っても認めようとしない人たちに、皮肉をこめて四角の模様を作りました。すなわち4つ足動物と同じという意味だそうです。

「この模様を見ればわかるでしょう。同じ意味です。見えない世界を決して認めようとしない人の事です。ひたすら頭で考える事が何より正しいと思っている人をあらわしました。小さなオニがその先から発生しています。まん中の宇宙の大元には決して目を向けません」

No. 223



半円＝三日月＝イスラム社会の人も3位一体の意味がわかった。あちこちにオニが出ている（テロ）

No.224



相反する教えがスタートするといつまでたっても交わらない。すなわち争いが絶えない。イスラム教対、ユダヤ教、キリスト教。

No.225



これが宇宙の大元の弟の姿です。オニよりも更に発達していました。小さなロボットがそばについてエネルギーを人間に与えていました。多くの教祖に大きな力を与えていました。翼を持って自由に行き来をしていました。争いの元の龍神を送り込んだ張本人でしたが、大元でさえいさめることができなかったそうです。

No.226



オニの星（の霊）はいなくなり、ばらばらになりましたが、オニの想念はしっかり残っています。

No. 227



惑星直列をあらわします。

No. 228



人間は3位一体（魂、肉体、霊）からなるとわかっているが、大元の弟とつながり、自分こそは神の代理人と思い込んでいる新興宗教の教祖をあらわしている。

ソラからの伝言

二〇〇三年二月一日　初版第一刷発行

著者　シロキ　カヨコ（スニキ　ミヨ）
編集　ソラ　プロジェクト

発行者　白木 妙子
発行所　合資会社 ソラと星出版

印刷・製本

本書の内容の一部または全部を無断で複写複製（コピー）することは、法律で定められた場合を除き、著作者および出版社の権利の侵害となります。

© KAYOKO SIROKI 2003,Printed in Japan